

III

京都外国語大学 単位修得要領



学修をすすめるために

単位

① 単位制

大学における学修は、大学設置基準に定められた単位制に基づいて行っています。開講している授業科目には、一定の単位数を定めており、これらの授業科目の履修登録を行い、教室内および教室外において所定の時間を学修し、試験などに合格することによって単位を修得することができます。

② 単位の考え方

単位とは、授業科目の修得に必要な学修量を時間で表すものです。1単位の学修時間は、授業時間とその授業のために準備（予習・復習）する教室外での自学自修時間を合わせて45時間となっています。したがって、単位の修得には単に授業を受けるだけでなく、予習・復習を行うことが単位を修得するための不可欠な要素であることを十分認識し、4年間の学修を進めてください。

【本学以外の教育施設等における学修】

1. 長期留学

長期留学に伴う認定科目は、授業時間 15 時間をもって 1 単位としますが、日本語教育実習を伴う認定科目は、授業時間 30 時間をもって 1 単位とします。

2. 短期留学

短期留学の認定科目は、授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

3. キャリア教育プログラム

- ・国内でのキャリア教育プログラムの認定科目は、授業時間 45 時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって1単位とします。ただし、国内でのキャリア教育プログラムに講義・演習を伴うものについては、授業時間 30 時間をもって 1 単位とします。
- ・海外でのキャリア教育プログラムの認定科目は、授業時間 30 時間をもって 1 単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって1単位とします。

4. 海外日本語教育実習

海外日本語教育実習の認定科目は、授業時間 30 時間をもって1単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

5. 教育支援活動

教育支援活動の認定科目は、授業時間 30 時間をもって 1 単位としますが、事前・事後学習については授業時間 15 時間をもって 1 単位とします。

授 業

1 学 期 (セメスター)

本学では、1年を春学期と秋学期の2学期に分けています。また、授業は学期毎に14週で完結する授業と春学期と秋学期を通して28週で完結する通年の授業があります。

●春学期：4月1日～9月19日 ●秋学期：9月20日～翌年3月31日

2 授業科目の開講形態

授業科目の開講形態は、「週1回授業」、「週複数回授業」、「週1回2講時連続授業」の3つの形態があり、他に特定の期間に集中して行う「集中講義」があります。

3 授業時間

授業は1講時100分、1日6講時で実施しています。各講時の授業時間は下のとおりです。

ただし、定期試験期間中の試験時間は異なりますので、37ページを参照してください。

月曜日～金曜日		土曜日	
講時	時間	講時	時間
1 講時	9:10～10:50	1 講時	9:00～10:40
2 講時	11:00～12:40	2 講時	10:50～12:30
3 講時	13:50～15:30	3 講時	13:20～15:00
4 講時	15:40～17:20	4 講時	15:10～16:50
5 講時	17:50～19:30		
6 講時	19:40～21:20		

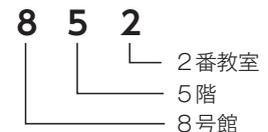
(注) 4 講時と 5 講時の間の休憩時間は 30 分間あります。

4 教 室

授業を行う教室には、教室番号を表示しています。

教室は試験などにより変更することがありますので、Kyoto Gaidai UNIPA で確認してください。

教室番号の仕組み



5 休 講

本学または担当教員のやむを得ない理由によって授業を行えない場合は休講とし、Kyoto Gaidai UNIPA より連絡しますので、こまめに確認するようにしてください。

なお、電話・メールでの問い合わせは受け付けません。

6 補 講

授業が休講となった場合またはその他の理由で、授業時間とは別に日時を定めて補講を行うことがあります。補講は所定の補講日以外に、月～金曜日の5・6 講時や土曜日の1～4 講時等に行います。日時、教室などは Kyoto Gaidai UNIPA より連絡します。

7 交通機関の不通、暴風警報・特別警報発令時における授業・定期試験の取り扱い

(1) 交通機関が不通の場合

次の指定したいずれかの交通機関の区間（一部の区間の場合は対象外）が不通の場合は、休講とします。

なお、対象となる交通機関・区間および運行が再開された場合の授業・定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

対象となる交通機関・区間		
	JR	米原—西明石区間
	京都市バス・京都市営地下鉄	全区間
	京阪電車	淀屋橋（中之島）—出町柳区間
	阪急電車	神戸三宮—大阪梅田—京都河原町区間
	近鉄電車	京都—橿原神宮前区間
交通機関の運行が再開された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授 業	午前 6 時 30 分までに運行再開の場合	1 講時（午前 9 時 10 分。土曜日は午前 9 時）から授業を行います。
	午前 11 時までに運行再開の場合	3 講時（午後 1 時 50 分。土曜日は午後 1 時 20 分）から授業を行います。
	午後 3 時までに運行再開の場合	5 講時（午後 5 時 50 分）から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても不通の場合	全講時休講とします。
定期試験	午前 6 時 30 分までに運行再開の場合	1 講時（午前 9 時 30 分）から定期試験を行います。
	午前 6 時 30 分を過ぎても不通の場合	定期試験は行いません。

(2) 暴風警報が発令された場合

予報 1 次細分区域における京都府南部、あるいは予報 2 次細分区域における南丹・京丹波、京都・亀岡、山城中部、山城南部のいずれかの地域に暴風警報が発令された場合は、休講とします。

なお、同警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱いは、次のとおりとします。

暴風警報が解除された場合の授業・定期試験の取り扱い		
授 業	午前 6 時 30 分までに解除の場合	1 講時（午前 9 時 10 分。土曜日は午前 9 時）から授業を行います。
	午前 11 時までに解除の場合	3 講時（午後 1 時 50 分。土曜日は午後 1 時 20 分）から授業を行います。
	午後 3 時までに解除の場合	5 講時（午後 5 時 50 分）から授業を行います。
	午後 3 時を過ぎても解除されない場合	全講時休講とします。
定期試験	午前 6 時 30 分までに解除の場合	1 講時（午前 9 時 30 分）から定期試験を行います。
	午前 6 時 30 分を過ぎても解除されない場合	定期試験は行いません。

(3) 特別警報が発令された場合

上記（2）の暴風警報発令により休講とする地域に特別警報が発令された場合、発令された段階で休講とします。発令が授業中の場合も同様としますが、休講後の帰宅等については、周囲の状況を確認し、本学の危機管理マニュアルに基づき指示します。

(4) 上記の交通機関または地域以外で不通・暴風警報・特別警報の影響を受けた学生は、担当教員にその事情を申し出てください。

(5) 上記の取り扱いにかかわらず、自然災害等の状況によって、別途の措置を講ずる場合があります。

8 授業の出席



履修登録をした授業は毎回出席することが当然のことであり、成績評価において出席点というものはありません。授業にすべて出席したからといって単位修得は保証されませんが、授業科目の単位修得にはその授業科目の実質授業回数の3分の2(10回)以上の出席が最低限必要な要件とします。ただし、この3分の2(10回)以上の出席とは、忌引や病気等のやむを得ない理由による欠席を考慮してのことであり、3分の1(4回)まで欠席してもよいということではありません。日々の生活習慣・健康管理に気をつけて欠席しないようにしてください。

なお、本学では学期毎に必修科目について欠席の多い学生の調査を行い、当該の学生に対して面談を行っています。

また、各授業における出欠は、学生各自のスマートフォンを使って確認します。スマートフォンを持っていない場合の確認方法は、担当教員の指示に従ってください。各授業の出欠状況は Kyoto Gaidai UNIPA の「学生出欠状況確認」で確認することができます。万一、出欠状況に誤りがある場合は、担当教員が修正しますので、当該学期の授業期間内に担当教員へ申し出てください。

※実技・実習の授業科目については、「出欠」の取り扱いに多少の差異がありますので、担当教員の指示に従ってください。Kyoto Gaidai UNIPAの「学生出欠状況確認」は、当該学期にのみ確認することができます。必要な場合は各自データ等で保存してください。

9 授業の欠席



本学には、欠席届(公欠届を含む。)がありません。忌引や病気等で授業を欠席する場合は、事前または事後に各自で担当教員へ連絡してください。ただし、学生は講師控室への入室はできませんので、注意してください。

○学校感染症に罹患した場合の処置

感染症(新型コロナウイルス、インフルエンザ、麻疹[はしか]、風疹、水痘[水ぼうそう]等)に感染している、または感染の疑いのある学生については、学校保健安全法に基づき、授業の出席停止の措置を行いますので、速やかに保健室に連絡し、指示を受けてください。

出席停止となった場合、出席停止による欠席が成績評価の不利益とならないよう配慮をすることとしています。配慮の内容については、担当教員に確認し、指示を受けてください。

○裁判員選任等に伴う授業の欠席の取り扱い

裁判員制度により、学生が裁判員候補者として裁判所に出向く場合および裁判員候補者として裁判所に出向き、裁判員または補充裁判員に選ばれた場合に授業を欠席する際は、事前に、教育支援課で指示を受けてください。

10 教員への連絡等

教員への連絡・授業に関する質問は、授業期間内に学内、メールまたは Kyoto Gaidai UNIPA の「クラスプロファイル」等で行ってください。

なお、専任教員はアカデミック・アドバイザー制度を利用してください。(27ページ参照)

11 シラバス(講義概要)

各授業科目の内容は、シラバス(Kyoto Gaidai UNIPAの「シラバス照会」)に掲載しています。シラバスには、各授業科目の到達目標をはじめ、開講時期や担当教員名、単位数、週ごとの授業計画、評価方法(平常試験、定期試験等)、教科書・参考書などが載っています。ただし、授業の進度や到達具合によってシラバスの内容と異なる場合がありますので、最終的な授業の進め方や内容については、担当教員の指示を受けてください。

12 TA制度・SA制度

授業内での学生に対するきめ細やかな指導の充実を図るため、授業担当教員の指導のもと大学院生(ティーチング・アシスタント[TA])や学部生(スチューデント・アシスタント[SA])が授業の補助をすることがあります。

試験

1 平常試験

担当教員が授業時間内に行う試験で、オーラルテストやレポート提出等も含まれています。実施日や時間、持ち込みの可否、遅刻者の取り扱い等は、担当教員の判断のもとに実施します。事前に一切の情報を与えずに授業時間内に実施することもありますので、普段から授業に出席して平常試験に対応できるようにしておいてください。

また、平常試験は、後に記載する「追試験」の対象とはなりませんので、忌引や病気等で平常試験が受験できない場合は、必ず事前あるいは事後に学生本人がその事情を担当教員へ申し出て指示を受けてください。

なお、レポート等の提出物は必ず担当教員に直接渡してください。

2 定期試験

〔定期試験の試験時間〕

各学期終了後の本学が指定する期間に行う試験で、対象となる授業科目はシラバスで確認してください。試験時間は右のとおりで、時間割等の詳細は Kyoto Gaidai UNIPA でお知らせします。

講時	時間	講時	時間
1 講時	9:30～10:30	5 講時	15:40～16:40
2 講時	10:50～11:50	6 講時	17:00～18:00
3 講時	13:00～14:00	7 講時	18:20～19:20
4 講時	14:20～15:20	8 講時	19:40～20:40



〔定期試験受験上の注意〕

1	学費を納入していない人は、受験できません。
2	登録していない授業科目は、受験できません。
3	指定した試験場で受験してください。
4	学生証(科目等履修生・単位互換履修生は身分証)を机上に提示しなければ、受験できません。 学生証(身分証)不携帯の人は、学生生活課で「仮学生証」の交付を受けてください。
5	遅刻者の受験は、試験開始後 20 分以内に限り認め、それ以後は認めません。 なお、遅刻して試験場に入室する際には、学生証を監督者に提示し、指示に従ってください。
6	重複科目は、必ず所定の手続きを行ってください。(次ページ参照)
7	試験場でスマートフォン・携帯電話・電子手帳等を時計あるいは情報機器として使用できませんので、持ち込んだ場合は電源を切り、机上には置かないでください。
8	試験場では監督者の指示に従ってください。
9	試験用紙が配布されたら、直ちに年次・学籍番号・氏名および授業の受講曜講時を記入してください。 なお、年次・学籍番号・氏名の記入がない場合は、当該科目の答案を無効とします。
10	答案の提出は、試験開始後 20 分以後とします。
11	次の項に該当する人は、不正行為者と認め「京都外国語大学試験における不正行為に関する規程」(第 5 条第 2 項により、 原則として当該学期の全受講科目および通年の全受講科目の成績評価を失格とし 、かつ学則第 70 条により処罰する。)により教授会において審議し、処分します。 ① 本人に代わって受験した人およびそれをさせた人 ② 答案用紙をほかの受験者のものとするり替えた人およびそれに応じた人 ③ 答案をほかの受験者に見せたり、口伝えした人およびそれに応じた人 ④ ほかの受験者の答案をのぞき見た人 ⑤ 紙片、筆記用具、机等にあらかじめ書き込んだ人およびこれを利用した人 ⑥ 教科書、参考書、ノート、携帯電話その他の電子機器等で使用が許可されていないものを試験中に使用した人 ⑦ 教科書、参考書、ノート、携帯電話その他の電子機器等で使用が許可されているものを試験中に貸借した人 ⑧ レポートの作成に当たって ^{ひようせつ} 剽窃行為をした人 ⑨ 試験監督者の指示に従わない人 ⑩ その他前各号に準じる行為を行った人で教授会において不正行為者と認められた人

※定期試験受験上の注意は、平常試験、追試験等他の試験にも適用します。

【定期試験での重複科目の取り扱い】

試験時間割の関係上、同一曜講時に受験科目が2科目以上重なった場合は、以下のとおり取り扱います。

- (1) 重複科目がある場合は、必ず定期試験開始日の前日までに教育支援課に願い出て所定の手続きを行ってください。手続きを行わない場合は、いずれの科目も受験することができません。
- (2) 所定の手続きを行った人に対し、教育支援課から重複科目の受験順位および試験場を指示します。
- (3) 重複科目の受験手続きを行った人は、試験場でその旨を監督者に申し出て、指示に従ってください。
- (4) 重複科目の試験時間は、1科目 60分とします。

3 追試験

定期試験を次の7項目の理由で受験できなかった人を対象に行う試験で、本学が指定する日に行います。

理由		提出書類		
1	天災	罹災証明書		
2	交通事故	診断書または事故証明書		
3	病気	診断書		
4	教育実習・博物館実習・介護等体験	証明できる書類		
5	就職試験・会社訪問	受験証明書または訪問を証明する書類		
6	裁判員選任等	裁判所発行証明書		
7	忌引・その他やむを得ない事由	保証人またはこれに代わる人による理由書		
		忌引の日数	父母・配偶者	7日以内
			子	5日以内
			祖父母・兄弟姉妹	3日以内
			曾祖父母・伯叔父母・甥・姪	1日

※平常試験に対する追試験は行いません。

【受験申請方法】

所定の追試験受験願（試験欠席届を含む）に必要な事項を記入・押印し、証明書・診断書または理由書を添付して、定期試験開始日から定期試験終了日の翌日（翌日が日曜日・祝日の場合は、翌々日）の午後5時までに別に定める受験料を添えて、教育支援課へ願い出てください。

ただし、理由の如何によっては追試験の願い出を受付けないことがあります。

4 学科総合試験 <外国語学部生対象>

ポルトガル語およびロシア語について1月に行う試験です。この試験で言語ごとに定められた基準（点数）を満たすことで、専門科目（選択）のインターミディエイト・アドバンスレベルの授業科目を履修できるようになります。ポルトガル語の学科総合試験は他学科の学生も受験することができますが、ロシア語の学科総合試験はロシア語学科生のみを対象としています。

ブラジルポルトガル語学科以外の外国語学部生が、ポルトガル語の学科総合試験を受験し、インターミディエイトまたはアドバンスの履修基準を満たした場合、ブラジルポルトガル語学科の専門科目（選択）の当該レベルの科目を他学科科目として履修できるようになります。（修得した単位は自由選択に算入）。

成績評価および単位認定

1 成績評価の方法

成績評価は、担当教員がシラバス（講義概要）に記載している評価方法に基づいて行います。

2 成績評価の基準

成績評価は 100 点満点で評価し、60 点以上を合格、59 点以下を不合格とします。

なお、以下のいずれかに該当した場合は F（失格）評価とします。

F（失格）評価になる場合

- 出席不足（原則として授業科目の実質授業回数の 3 分の 2 以上の出席が必要）で、かつ点数評価に不可欠なレポートの未提出または試験の未受験により、履修放棄とみなした場合
- ゼミナール科目の受講者が卒業論文または卒業研究を提出しなかった場合、あるいは提出しても点数による評価が不可能な場合
- 教授会において不正行為を行ったと判定した場合（原則として当該学期の全受講科目および通年の全受講科目）

3 通年科目（専門科目＜必修＞）の成績評価

- ・外国語学部（英米語学科および日本語学科を除く）の通年科目「総合〇〇語」（1・2 年次配当）は、当該言語の総合的な運用能力の修得を目標とする授業であるため、一部の言語運用能力が到達目標に達していない場合は、不合格とします。
- ・「総合〇〇語」（1・2 年次配当）の出席は、週〇回（回数は学科により異なる）全体ではなく、原則として、各学期の各曜日講時の授業をそれぞれ1授業として取り扱います。したがって、特定の曜日講時の授業において、出席不足（当該授業回数の3分の2以上の出席が必要：各学期の各曜日講時の授業において 10 回以上の出席が必要）で、かつ、点数評価に不可欠なレポートの未提出または試験の未受験により、当該曜日講時の授業の履修放棄とみなした場合、「総合〇〇語」全体の履修放棄とみなし「F（失格）」評価とします。
- ・秋学期に休学したことにより、通年科目（「総合〇〇語」、「〇〇語文法」など）を春学期しか履修できなかった場合は、当該春学期に履修したすべての通年科目の履修登録を取り消します。
- ・ロシア語学科の「総合ロシア語Ⅰ」の単位修得には、秋学期末にロシア語学科が実施する試験（TORFL 検定試験初級レベル相当）に合格する必要があります。
また、「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得には、秋学期末にロシア語学科が実施する試験（TORFL 検定試験基礎レベル相当）に合格する必要があります。

4 成績評価の表記

成績評価は、Kyoto Gaidai UNIPA には素点と評価記号で、「成績証明書」には右表の評価記号で表記します。

また、**本学では不合格科目も表記しますので、履修を中止する場合は、所定の期間に必ず取り消してください。**取り消した授業科目は登録が削除され、成績表および成績証明書には記載されません。

なお、本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修に対する成績評価の表記は、41 ページを参照してください。

成績評価（素点）	評価記号	
100 点 ~ 90 点	A+	合格
89 点 ~ 80 点	A	
79 点 ~ 70 点	B	
69 点 ~ 60 点	C	
59 点 ~ 0 点	D	不合格
失格	F	

5 成績の発表

成績評価は、Kyoto Gaidai UNIPA に累積して表示します。

春学期の成績は9月上旬に、秋学期の成績は2月下旬に Kyoto Gaidai UNIPA で発表します。各学期の成績発表日時は Kyoto Gaidai UNIPA 等でお知らせしますので、所定の時期に単位の修得状況を必ず確認してください。

なお、各学期に発表される成績を確認するためには「学修の振り返りおよび学生アンケート」を Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」に入力する必要があります。「学修の振り返りおよび学生アンケート」が未入力の場合は、保証人も成績を確認することができません。

6 GPA (Grade Point Average)



GPA とは、単位あたりの成績評価の平均を数字で表したものであり、履修登録した全科目（資格課程に関する授業科目は除く）が対象となります。不合格科目（例えば、取消の手続きをせずに履修を放棄した科目など）がある場合は GPA が下がります。

なお、GPA の算出方法は、以下のとおりです。

$$\text{GPA} = \frac{(\text{A}^+ \text{科目の成績ポイント} \times \text{単位数}) + (\text{A 科目の} \dots) + (\text{B 科目の} \dots) + \dots}{\text{総登録単位数 (全科目の単位数の合計)}}$$

※単位認定 (N、T1、T2) の成績評価は、GPA の算出に含みません。

※通年科目の成績評価は秋学期に行われるため、春学期の成績発表後の GPA には通年科目を含みません。

Grade	Score	Point
A+	100 ~ 90	4.0
A	89 ~ 80	3.0
B	79 ~ 70	2.0
C	69 ~ 60	1.0
D	59 ~ 0	0
F (失格)	—	0

7 単位修得不足および成績不振の学生に対する措置

外国語学部および国際貢献学部では、入学後の在学2学期間の卒業要件の GPA (通算) が 1.0 未満かつ卒業要件の修得単位数が 16 単位未満の学生、また、入学後の在学3学期間の卒業要件の GPA (通算) が 1.0 未満かつ卒業要件の修得単位数が 24 単位未満の学生に対して、所属学科が修学指導を行います。

なお、入学後の在学4学期間の卒業要件の GPA (通算) が 1.0 未満かつ卒業要件の修得単位数が 32 単位未満の学生は、学則第 42 条第 2 項の定めにより、勉学継続の意欲がないものとして「除籍」します。ただし、特別な理由があり、所属学科が勉学継続の意欲があると判断した場合は、「除籍」の措置をとらない場合があります。

7 本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定

入学前に他の大学等で修得した単位、在学中に他の大学や大学以外の教育施設等で修得した単位および本学独自のプログラム等で修得した単位を、以下のとおり認定します。なお、**単位認定の時期は、教授会で認められた学期・年度とし、成績表に記載します。**

また、申請方法および単位認定の詳細については当該プログラムのページを参照してください。

1. 本学以外の教育施設等の学修成果に対する単位認定

評価記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件に算入する単位数の上限	
N	本学に入学する前に本学及び他大学等の授業科目を履修し修得した単位(新入生対象)	科目対科目の振替認定	認定した科目の科目区分	30	60
	派遣留学・認定留学・国内交換留学	一括認定および振替認定	認定した科目の科目区分	26(1学期間) 48(2学期間)	
	短期留学(本学主催プログラム)	短期留学		4	
	海外研修(本学紹介プログラムを含む)				
	・本学主催のキャリア教育プログラム(国内外) ・海外フィールドワーク ・エアラインスタディプログラム ・[大学コンソーシアム京都]の産学連携教育プログラム	キャリア形成支援プログラム ※	全学共通科目(教養科目)	4	
	海外日本語教育実習 [日本語学科]	海外日本語教育実習	専門科目(選択)[日本語学科]	4	
	・学校教育支援活動 ・日本語教育支援活動	教育支援活動		2	
	京都外国語短期大学の科目等履修科目	科目等履修科目	全学共通科目(教養科目)	12	
	大学コンソーシアム京都の単位互換制度	大学コンソーシアム京都科目		12	
	外国語技能検定試験	外国語技能検定試験(専攻語)	専門科目(選択)[外国語学部]	2	
		外国語技能検定試験(専攻語以外)	全学共通科目(教養科目)[外国語学部・国際貢献学部]	2	
・ITパスポート試験 ・基本情報技術者試験	情報処理検定試験	全学共通科目(教養科目)	2		

※文部科学省・厚生労働省・経済産業省の合意による「インターンシップの推進に当たっての基本的考え方」におけるタイプ2(キャリア教育)およびタイプ3(汎用型能力・専門活用型インターンシップ)のプログラムを対象とする。

2. 本学独自プログラム等の学修成果に対する単位認定

評価記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件に算入する単位数の上限	
T2	Community Engagement [国際貢献学部]	Community Engagement	専門科目(選択)[国際貢献学部]	4	
	もっと京都プロジェクト	もっと京都プロジェクトA	全学共通科目(教養科目)	4	
		もっと京都プロジェクトB			
	シーズンスポーツ	シーズンスポーツ		2 ※	
	E-Learning(Tutorial Studies)	E-Learning(Tutorial Studies)		1	
	教育実習 [外国語学部]	教育実習1	資格課程科目	2(卒業要件外)	
教育実習2		2(卒業要件外)			

※全学共通科目(教養科目)のテクニカルスポーツA(2単位)およびテクニカルスポーツB(2単位)を既に修得している場合は、卒業要件外での単位認定とする。

3. 編入学・再入学に伴う単位認定

評価記号	項目	認定科目	科目区分	単位認定および卒業要件に算入する単位数の上限
T1	編入学	一括認定および振替認定	認定した科目の科目区分	32または34(2年次編入) 62または64(3年次編入) ※
	再入学	退学・除籍前に合格した科目	認定した科目の科目区分 ※再入学の年次の教育課程による。	—

※京都外国語短期大学および京都外国語専門学校からの編入学において、2年次編入については34単位を、3年次編入については64単位を、単位認定および卒業要件に算入する単位数の上限とする。

日本語非母語話者 (日本語を母語としない学生) の履修登録等

国籍を問わず日本語の運用能力の向上が必要であると本学が判断する学生を対象にした「日本語非母語話者 (以下、日本語を母語としない学生)」用の日本語科目等を設けています。日本語を母語としない学生が履修できる授業科目等については、以下のとおりです。

これらの授業科目を履修登録する方法については、毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」で確認してください。

1 日本語を母語としない学生

本学への入学手続き時に提出する書類により、ランゲージセンターが該当予定者に対して実施する「日本語能力診断テスト」の結果に基づき、入学後に日本語の運用能力の向上が必要であると本学が判断した人を「日本語を母語としない学生」とします。ただし、外国人留学生入学試験で入学した学生については、「日本語能力診断テスト」を受験していない場合でも「日本語を母語としない学生」と判断します。

<「日本語を母語としない学生」の確認方法>

日本語を母語としない学生と判断された場合は、Kyoto Gaidai UNIPA「学籍情報照会」の「留学生 (留学生以外の日本語非母語話者含む)」欄に「留学生」と表示されます。

<入学前に日本語能力診断テストを受験しなかった人へ>

入学後にアカデミック・アドバイザーや所属学科から日本語能力診断テストの受験を促された場合は、ランゲージセンターからの案内に基づき必ず受験してください。テストの結果、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した場合は、翌学期から「日本語を母語としない学生」として取り扱います。

2 日本語を母語としない学生のための授業科目

日本語を母語としない学生と判断された人は、配当年次にしたがって、以下の授業科目を履修することができます。

<外国語学部>

科目区分	授業科目	科目の履修について
全学共通科目 (外国語科目)	日本語A~J	学生の所属学科や日本語のレベルに応じて受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。
学部導入科目	基礎ゼミナール (日本語を母語としない学生用) ※日本語を母語としない学生用は春学期のみ開講	受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。
全学共通科目 (教養科目)「言語」領域	ビジネス日本語A・B 日本語能力試験N1対策A・B	授業のレベルなどシラバスの内容をよく確認し、履修を希望する場合は履修登録期間に登録してください。ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。
日本語学科・専門科目 (選択)	ブラッシュアップ日本語A~F アカデミック日本語A~F ※日本語学科生以外も履修できます。 (修得単位は自由選択に算入)	<p>日本語学科生</p> 受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。
		<p>日本語学科生以外</p> 受講を希望する場合は、履修登録期間に教育支援課に相談してください。

<国際貢献学部>

科目区分	授業科目	科目の履修について
全学共通科目 (外国語科目)	日本語A~H	学生の所属学科や日本語レベルに応じて受講する授業科目を指定します。指定された授業科目は必ず履修してください。 ※グローバルスタディーズ学科生が履修を取り消したい場合は、履修登録期間または履修登録科目の取消期間中に教育支援課に相談してください。
全学共通科目 (教養科目)「言語」領域	ビジネス日本語A・B 日本語能力試験N1対策A・B	授業のレベルなどシラバスの内容をよく確認し、履修を希望する場合は履修登録期間に登録してください。ただし、所属学科の必修科目と重なった場合は、所属学科の必修科目を優先してください。
グローバル観光学科・専門科目 (選択)	社会科学のための日本語A~D ※グローバルスタディーズ学科生も履修できます。 (修得単位は自由選択に算入)	

外国語学部



I 大学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

卒業要件

4年(8学期)在学し、以下の授業科目区分に従って、124単位を修得すれば卒業となり、学位を取得することができます。学生本人の責任において綿密な履修計画を立て、学期毎に単位修得状況を確認し、卒業要件を満たすようにしてください。

授業科目区分	卒業要件単位数												
	英米語学科		スペイン語学科	フランス語学科	ドイツ語学科	ブラジルポルトガル語学科	中国語学科		日本語学科	イタリア語学科	ロシア語学科		
	通常コース	ダイヤモンドコース(注3)					通常コース	既修者コース(注4)			通常コース	特修コース(注4)	
学部導入科目	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
専門科目	必修	54	74	56	68	64	68	56	40	24	58	62	42
	選択必修	4※											
	選択言語(注1) 地域研究	12※ 10※	20	24※	12※	16※	12※	24※	40※	56※	22※	18※	38※
ゼミナール科目	8		8	8	8	8	8	8	8	8	8	8	
全学共通科目	外国語科目	4※	4	4※	4※	4※	4※	4※	4※	4※	4※	4※	4※
	教養科目	24※	22	24※	24※	24※	24※	24※	24※	24※	24※	24※	24※
自由選択(注2)	4		4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	
合計	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	124	

(注1) 選択科目(英米語学科通常コースは選択科目〈言語〉領域)の卒業要件単位数には、所属学科配当のインターミディエイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)の単位を含めて修得する必要があります。したがって、エレメンタリーの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位数を充足することはできませんので、充分注意してください。(英米語学科ダイヤモンドコース、日本語学科を除く。)

(注2) 自由選択は、※印を付した授業科目区分(専門科目(選択必修)、専門科目(選択)、全学共通科目)の中で卒業に必要な単位数を超えて修得した単位および外国語学部の所属学科以外の学科の専門科目(選択)の授業科目を履修し修得した単位が算入されます。

(注3) 英米語学科ダイヤモンドコース(定員20名)は、1年次終了時に募集を行い、応募学生を選考のうえコース対象者を決定します。対象者は2年次春学期からコースに所属することになります。応募要件等は説明会等でお知らせします。なお、当該コースに所属した後は通常コースに戻ることはできません。

(注4) 中国語学科既修者コースおよびロシア語学科特修コースは、入学時に一定の当該言語の運用能力を備えた学生を対象としたコースで、入学時に事前に申請した人に対して当該学科が独自にテストを行い、その結果等によりコース対象者を決定します。対象者は1年次春学期から所属することになります。なお、当該コースに所属した後は通常コースに戻ることはできません。

卒業判定

4年次生を対象に、在学中に修得した単位数および在学年月数に基づき、年度末(3月卒業)および春学期末(9月卒業)に卒業判定を行います。

なお、4年(8学期)在学し、上記の「卒業要件」の表に定められた授業科目区分毎に所定の単位を修得し、合計124単位以上を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 3月卒業

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は2月下旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

2. 9月卒業

上記「1. 3月卒業」で「留年」になった人が対象となります。

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は9月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

※判定結果「留年」には、①在学年月数が4年(8学期)未満の学生で修業年限が不足している「留年」と、②在学年月数が4年(8学期)以上の学生で卒業要件単位数が不足している「留年(卒業延期)」の2種類があります。

履修登録

履修登録とは、**学生本人の責任**において自らが、履修する授業科目を決定し、所定の期間に行う手続きのことです。

履修登録の手続きを誤った場合は、履修しようと思っていた授業科目を受講したり試験を受けることができず、単位が修得できなくなりますので、履修登録は慎重に行ってください。

また、履修登録をする際には、毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」内の授業科目時間割および Kyoto Gaidai UNIPA の「シラバス照会」を大いに活用し、授業が開講される曜日・講時や授業の内容、科目区分毎の単位数をしっかりと確認してください。

※履修登録を行うには、Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、学修目標等の入力が必要で、必ず所定の期間に必要な事項を入力してください。

1 履修登録の時期

春学期は 3～4 月（新生は 4 月）、秋学期は 9 月の所定の期間に登録してください。

なお、通年科目の登録は春学期の所定の期間に限ります。

2 履修登録の方法

Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で行ってください。病気などのやむを得ない理由で所定の期間に登録できない場合は、必ず事前に教育支援課へ連絡し、指示を受けてください。

3 履修登録できる単位数の上限

単位修得に必要な時間数および学修の質を確保するため、学期毎および年間に履修登録できる単位数の上限を以下のとおり定めています。学期毎の単位数が上限単位数内であっても年間の上限単位数を超えて履修登録をすることはできません。（例えば、卒業要件（通算）の GPA が 2.7 未満の人が春学期に 26 単位履修登録した場合、秋学期に履修登録できる上限の単位数は 22 単位となります。）

春学期	秋学期	年間	備考
26	26	48	<ul style="list-style-type: none">資格課程に関する授業科目は含みません。卒業要件（通算）の GPA が 2.7 以上の場合は、上限を超えて履修登録することができます。通年科目は、単位数の半分を春学期・秋学期それぞれの学期の履修登録単位としてカウントします。

4 全学共通科目（外国語科目）の登録

外国語科目の登録方法については、毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」で確認してください。

5 クラス（担当者）を指定する授業科目の登録

習熟度別クラスのレベルを Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で確認のうえ、該当する科目を「履修登録」で登録してください。再履修等によりクラス（担当者）変更が必要な場合は、授業開始までに実施する「履修登録相談」で手続きを行ってください。

6 配当年次による登録

授業科目には配当年次がありますので、**配当年次に従って登録してください。**

ただし、履修条件を設けている授業科目を除き、下級年次配当の授業科目は登録することができます。

（例えば、1 年次生は 2 年次配当の授業科目は登録できませんが、4 年次生は 1～3 年次配当の授業科目を登録できます。）

7 抽選科目の登録

選択科目には、授業内容および教室設備等の関係で登録者数を制限するため、抽選を行う科目があります。履修を希望する場合は、自身の必修科目やゼミナール科目の曜日・講時を確認のうえ、所定の申請期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「抽選希望登録」で申請してください。ただし、**当選した科目については、履修の取消を認めません**ので、注意してください。対象科目は、各学期の履修登録開始前に本学ホームページに掲載する「抽選科目一覧」を参照してください。

8 履修登録の相談等

履修登録の相談等は、教育支援課で行っていますので、学生証を持参し、相談に来てください。問い合わせ内容によっては、電話やメールではお答えできない場合があります。

また、履修登録期間に合わせて、相談期間を設けていますので、利用してください。

なお、休学、留学をすることで履修計画に関する不明な点がある場合は、早めに相談してください。

9 履修登録の確認

誤った授業科目が登録されていたり、履修エラーにより登録ができていなかったりすることがあります。履修登録時には必ず履修エラーがない状態で登録を完了してください。

なお、履修登録を完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管しておいてください。また、**履修登録完了後に、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、登録した科目が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。**

10 履修登録科目の取消

履修登録し授業に出席した後に履修を中止する場合は、各学期の所定の期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で、**必修科目（再履修科目・ゼミナール科目を含む）および抽選科目（全学共通科目（外国語科目）を含む）を除き、履修の取消をすることができます（卒業年次は卒業要件を満たす範囲内）。**ただし、別の授業科目の追加や、履修を取り消した授業科目を当該の学期中に再度登録することはできません。

また、履修登録科目の取消が完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管するとともに、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、取消内容が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。

なお、履修を取り消した授業科目は、GPA を算出する対象科目とはなりません。

11 その他の注意事項

- ・ 所定の期間以外に履修登録の追加や変更は認めません。
- ・ 履修登録を行っていない授業科目の受講・受験は認めません（履修エラーに該当する授業科目を含む）。
- ・ 同一学期の同一曜講時に複数科目の登録はできません。
- ・ 単位を修得済みの授業科目は登録できません。
- ・ 授業担当者が異なっても同一科目を複数登録することはできません。

科目区分毎の目標

英米語・スペイン語・フランス語・ドイツ語・ブラジルポルトガル語・中国語・イタリア語・ロシア語学科

学部導入科目		論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。また、言語と平和についての総合的な理解を深めることを目標とします。	
専門科目	必修	専攻する言語を体系的に学び、「聴く」「話す」「読む」「書く」の4技能を総合的に修得することにより、その運用能力を高めることを目標とします。	
	選択	言語	専攻する言語について、4技能をさらに伸ばし、より実践的な運用能力を高めるとともに、ハイレベルな各種語学検定試験にも合格することを目標とします。
		地域研究	専攻する言語が用いられている地域に関して歴史、文化、社会、政治経済を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を身につけることを目標とします。
ゼミナール科目		所属学科のゼミまたは外国語学部共通科目のゼミを履修し、4年間の学修の集大成として卒業論文または卒業研究を完成させることを目標とします。	
全学共通科目	外国語科目	専攻する言語以外の外国語を学ぶことにより、複言語運用能力を高めることを目標とします。また、多文化理解を深め、複文化的な視点を身につけることを目標とします。	
	教養科目	地球規模の課題に取り組むための幅広い教養を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルを獲得することを目標とします。	

日本語学科

学部導入科目		論理的思考能力とそれに基づく文章作成能力を身につけることを目標とします。また、言語と平和についての総合的な理解を深めることを目標とします。
専門科目	必修	日本語を体系的に学び、「日本語学」「日本語教育」「日本文化」「日本文学」の4領域を総合的に修得することにより、日本語教員・国語教員・日本文化の紹介者等として活躍するための基礎的な知識の修得を目標とします。
	選択	日本語が用いられている地域や日本語学習者の存在する地域に関して文化、文学を学んで専門知識を獲得し、当該地域をはじめ世界が抱える諸問題について問題意識を持って取り組む能力を身につけることを目標とします。
ゼミナール科目		所属学科のゼミまたは外国語学部共通科目のゼミを履修し、4年間の学修の集大成として卒業論文または卒業研究を完成させることを目標とします。
全学共通科目	外国語科目	外国語を学ぶことにより、その運用能力を高めることを目標とします。また、多文化理解を深め、複文化的な視点を身につけることを目標とします。
	教養科目	地球規模の課題に取り組むための幅広い教養を身につけ、学問に裏付けられた実社会に対応できるスキルを獲得することを目標とします。

外部の語学検定試験の受験 〈英米語学科・日本語学科を除く〉

学生のみなさんは、専攻語の運用能力の習熟度ををはかるため、卒業するまでの間、必ず各年度に1回は本学が指定する外部の語学検定試験を受験してください。ただし、ブラジルポルトガル語学科生については、専攻語の外部の語学検定試験の受験機会が少ないため、年度末にブラジルポルトガル語学科が実施する学科総合試験（無料／4技能）を必ず受験するとともに、できる限り助成対象となる語学検定試験を受験するようにしてください。

また、ロシア語学科生については、TORFL 検定試験の受験機会が少ないため（現在、東京のみで受験者数を制限して実施）、年度末にロシア語学科が実施する学科総合試験（無料／4技能）を必ず受験してください。

なお、留学中あるいは休学中の受験は義務付けませんが、所定の外部の語学検定試験を受験した場合は、以下の受験料助成の対象とします。

受験した外部の語学検定試験（各年度に1回）については、後援会の語学検定試験受験料助成（年間2回）とは別に、本学が受験料を助成します。各学科における助成対象の語学検定試験や助成申請方法等の詳細については、決まり次第、Kyoto Gaidai UNIPA でお知らせします。

※ブラジルポルトガル語学科およびロシア語学科の学科総合試験（無料）については、助成申請の必要はありません。

英米語学科ダイヤモンドコース

〈英米語学科1年次生対象〉

英米語学科では、経営学・経済学やデータ科学といったVUCA※時代が求める素養を培う科目群に加え、海外の協定大学への学部留学も必修化した「ダイヤモンドコース」を開設しています。本コースは1年次終了時に選考を行い、2年次からスタートします。卒業後には、外資系を含む有名企業や外務省専門調査員・外交官、世界ランキング上位の国内外有名大学院など、世界が求める人材として社会に羽ばたいてもらうことを目的としています。

1年次生を対象としたダイヤモンドコースの説明会の日程については、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。説明会では、ダイヤモンドコースの目的・進路、応募要件、カリキュラム内容、留学制度などを説明します。

ダイヤモンドコース 7つのポイント

京都外大が
長年の
思いを込めた
最高の教育

01

卒業後の進路は、 産・官・学のトップキャリア

このコース履修者は、外資系を含むグローバル企業、外務省専門調査員・外交官、国内有名社会科学系・学際系大学院、ビジネススクールなど、世界を舞台にした活躍を目指します。

02

社会が求める 4つの素養を 専門的に学ぶ!

複雑さを増す国際社会。その構造を理解するには、歴史・文化・理論から物事を正確に捉えることが必要です。その上で、ビジネス、経済、データ科学、会計学の4素養を専門課程として学び、専門留学に備えます。

03

英語教育のノウハウを集結 留学や将来に必要な 英語力を磨く

外国語学部として76年間培った英語教育の経験を生かし、高度かつ実践的な英語教育を徹底。海外協定校での専門課程を履修するために必要な、英語力を身に付けます。また、正課外では、英語でのビジネスサークルなど実践的な活動も予定。

英米語学科 ダイヤモンドコース

Diamond Course



04

コース履修者全員 英語圏へ 1年間の専門留学へ

3年次秋から4年次春の1年間、海外協定校(英語圏)に全員が留学。高度な英語運用能力を活かし、留学先大学では興味のある専門分野の学びを深めます。また、留学先大学の授業料は免除されます(加えて、留学奨学金50万円の給付)。

05

「京都」で 伝統と革新の 精神を学ぶ

日本のDNAである「京都」の伝統と革新の精神を学び、「京都」を通じた日本の本質や精神を英語で説明できるようにし、アンバサダーとして世界に発信する素養を磨きます。

06

第一線で活躍する 特別講師を招いて 視野を広げる

留学前後には、産・官・学それぞれの現場で活躍するゲスト講師を迎え、国際社会の中で求められる、日本のビジネス戦略や産業などの政策について学びます。幅広い視野を獲得し、キャリアプランに役立てます。

07

2年次より、最大3年間の 学費を全額免除!

本コースは2年次よりスタート。1年次終了時に20名の選抜を行います。コース履修者は、毎年設定される条件を達成すると1年間の学費を免除。最大で3年間の学費が全額免除されます。

ダイヤモンドコース 4年間の流れ

外国語学部
英米語学科に
入学



※ダイヤモンドコースを履修する場合は、資格課程(教職・図書館司書・学校図書館司書教諭・博物館学芸員)および日本語教員養成プログラムの履修はできません。

※ VUCA とは、Volatility (変動性)・Uncertainty (不確実性)・Complexity (複雑性)・Ambiguity (曖昧性) の頭文字を取った造語で、「先行きが不透明で、将来の予測が困難な状態」を意味します。

学部導入科目・専門科目(必修・選択必修・選択)・ゼミナール科目

[英米語学科・通常コース]

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件		
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位			
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2												4	4	
専門科目	必修	言語	アカデミック・リーディングⅠ	2	アカデミック・リーディングⅡ	2	アカデミック・リーディングⅢ	2	アカデミック・リーディングⅣ	2	アカデミック・リーディングⅤ	2	アカデミック・リーディングⅥ	2	Integrated English Skills	2		54	80
			アカデミック・ライティングⅠ	2	アカデミック・ライティングⅡ	2	アカデミック・ライティングⅢ	2	アカデミック・ライティングⅣ	2	アカデミック・ライティングⅤ	2	アカデミック・ライティングⅥ	2					
			オーラル・コミュニケーションⅠ(週2回授業)	4	オーラル・コミュニケーションⅡ(週2回授業)	4	オーラル・コミュニケーションⅢ	2	オーラル・コミュニケーションⅣ	2									
			コミュニケーション文法A	2	コミュニケーション文法B	2	リサーチ&プレゼンテーションⅠ	2	リサーチ&プレゼンテーションⅡ	2	リサーチ&プレゼンテーションⅢ	2	リサーチ&プレゼンテーションⅣ	2					
			TOEIC対策A	2															
	地域研究		英語圏研究の基礎	2															
	選択必修	地域研究	国際関係(IR)領域		英語圏地域・国際関係入門	2	英語圏地域・国際関係入門	2										4	
			比較文化(CCS)領域		英語圏比較文化入門	2	英語圏比較文化入門	2											
			言語習得(LA)領域		英語学・英語教育入門	2	英語学・英語教育入門	2											
	選択	言語	インターメディアイト	IELTS対策初級A	2	IELTS対策初級B	2	TOEIC対策B	2	TOEIC対策C	2							12	
				留学のための英語	2	TOEICリスニング対策	2												
			英語発音演習	2	英語発音演習	2													
			TOEIC対策中級	2	TOEIC対策中級	2	メディア英語A	2	メディア英語A	2									
			IELTS対策中級	2	IELTS対策中級	2	ディベート英語A	2	ディベート英語A	2									
							パブリック・スピーキングA	2	パブリック・スピーキングA	2									
							通訳・ガイド英語A	2	通訳・ガイド英語A	2									
							日英翻訳A	2	日英翻訳A	2									
							英日翻訳A	2	英日翻訳A	2									
							ディスカッション英語A	2	ディスカッション英語B	2									
	アドバンス	TOEIC対策上級	2	TOEIC対策上級	2	メディア英語B	2	メディア英語B	2										
IELTS対策上級		2	IELTS対策上級	2	ディベート英語B	2	ディベート英語B	2											
					パブリック・スピーキングB	2	パブリック・スピーキングB	2											
共通																			
地域研究	国際関係(IR)領域				メディア英語B	2	メディア英語B	2	国際関係特殊研究	2							10		
	比較文化(CCS)領域				ディベート英語B	2	ディベート英語B	2											
	言語習得(LA)領域				パブリック・スピーキングB	2	パブリック・スピーキングB	2	比較文化特殊研究	2									
					通訳・ガイド英語B	2	通訳・ガイド英語B	2											
					日英翻訳B	2	日英翻訳B	2											
共通				英日翻訳B	2	英日翻訳B	2												
ゼミナール科目					同時通訳A	2	同時通訳B	2						外国語技能検定試験(専攻語)	2		8	8	

履修上の注意事項

- 学部導入科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 - ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 - ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、54単位を修得してください。
 - ②「アカデミック・リーディングⅡ」を履修するには、「アカデミック・リーディングⅠ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を、Ⅴを履修するにはⅣの単位を、Ⅵを履修するにはⅤの単位を修得していただく必要があります。
 - ③「アカデミック・ライティングⅡ」を履修するには、「アカデミック・ライティングⅠ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を、Ⅴを履修するにはⅣの単位を、Ⅵを履修するにはⅤの単位を修得していただく必要があります。
 - ④「オーラル・コミュニケーションⅡ」を履修するには、「オーラル・コミュニケーションⅠ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得していただく必要があります。
- 専門科目(選択必修)<地域研究>**
- ①配当年次に従い、選択して履修し、計4単位を修得してください。各授業科目は専門科目(選択)<地域研究>の3領域に対応しています。
- 専門科目(選択)<言語>**
- ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターメディアイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計12単位を修得してください。
 - ②インターメディアイトおよびアドバンスの授業科目は、当該レベルの履修基準を満たした場合に履修できます。
- 専門科目(選択)<地域研究>**
- ①配当年次に従い、選択して履修し、▲印を付した授業科目から4単位以上を含み、計10単位を修得してください。
 - ②3領域の履修については、3年次から履修するゼミの分野を見据えて選択してください。
 - ③英米語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**
- ①英米語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
- ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。**
- ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得していただく必要があります。**
- ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得していただく必要があります。**
- ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。**
- ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。**
- その他(ダイヤモンドコースに所属を変更する場合)**
- ①1年次に修得した「英語圏地域・国際関係入門」および「英語圏比較文化入門」の単位は、ダイヤモンドコースの専門科目(必修)の卒業要件単位に算入されます。また、「英語学・英語教育入門」の修得単位は、「専門科目(選択)」の卒業要件単位に算入されます。
 - ②英米語学科以外の専門科目(選択)の授業科目を履修し修得した単位は卒業要件単位(自由選択)ではなく、卒業要件外に算入されます。

Ⅰ 本学の概要
Ⅱ 学修する前に知っておくべきこと
Ⅲ 京都外国語大学 単位修得要領
外国語学部
国際言語学部
各種プログラム制度等

[英米語学科・ダイヤモンドコース] (2 年次より)

科目区分	1 年次				2 年次				3 年次				4 年次				卒業要件					
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計				
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位						
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2												4	4				
専門科目	必修	言語	アカデミック・リーディング I	2	アカデミック・リーディング II	2	Advanced English I (週3回授業)	6	Advanced English II (週3回授業)	6	【海外留学 Study Abroad (必修)】						74	94				
			アカデミック・ライティング I	2	アカデミック・ライティング II	2																
			オーラル・コミュニケーション I (週2回授業)	4	オーラル・コミュニケーション II (週2回授業)	4																
			コミュニケーション文法 A	2	コミュニケーション文法 B	2																
			TOEIC対策 A	2																		
		地域研究	英語圏研究の基礎	2	英語圏地域・国際関係入門	2	International Relations A	2	International Relations B	2									International Relations C	2		
		キャリア			英語圏比較文化入門	2	京都学 A (集中講義)	2	Kyoto Studies B (集中講義)	2												
							会計学 A	2	経済学 A	2									Economics B	2		
							経営学 A	2	Business Administration B	2									Global Business in Practice	2		
							データサイエンス A	2	Data Science B	2									Data Science C	2		
	選択	言語	エッセンシャル	IELTS対策初級 A	2	IELTS対策初級 B	2															
				留学のための英語	2	TOEICリスニング対策	2															
			ミディエイト	英語発音演習	2	英語発音演習	2															
				TOEIC対策中級	2	TOEIC対策中級	2															
		アドバンス	IELTS対策中級	2	IELTS対策中級	2																
			TOEIC対策上級	2	TOEIC対策上級	2	通訳・ガイド英語 B	2	通訳・ガイド英語 B	2												
							日英翻訳 B	2	日英翻訳 B	2												
							英日翻訳 B	2	英日翻訳 B	2												
							同時通訳 A	2	同時通訳 B	2												
												外国語技能検定試験 (専攻語)	2									
地域研究	国際関係 (IR) 領域					アメリカ社会と政治	2	日米関係論	2													
						イギリス社会と政治	2	日英関係論	2													
						移民国家と多文化社会	2	アメリカ外交論	2													
	比較文化 (CCS) 領域					英米の国際関係とグローバルイシュー	2	イギリス外交論	2													
						国際関係史	2															
						英語圏文学と芸術 A	2	英語圏文学と芸術 B	2													
						英語圏社会概説 A	2	英語圏社会概説 B	2													
言語習得 (LA) 領域					英語圏地域概説 A	2	英語圏地域概説 B	2														
					英語圏の大衆文化	2																
					英語学・英語教育入門	2	英語音声学・音韻論	2	応用言語学と第2言語習得論	2												
					英語統語論 A	2	英語意味論・語用論	2														
					認知意味論	2	英語統語論 B	2														
					生成文法	2	認知構文論	2														
共通													海外留学認定科目	1~20								

履修上の注意事項

学部導入科目 (必修)

- ① 配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
- ② 「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス (担当者) を指定します。
- ③ 「言語と平和 A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目 (必修)

- ① 配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、74単位を修得してください。
- ② 「アカデミック・リーディング II」の単位は、通常コース所属時に修得しているため、ダイヤモンドコースでは履修できません。
- ③ 「アカデミック・ライティング II」の単位は、通常コース所属時に修得しているため、ダイヤモンドコースでは履修できません。

- ④ 「オーラル・コミュニケーション II」の単位は、通常コース所属時に修得しているため、ダイヤモンドコースでは履修できません。
- ⑤ 「Advanced English II」を履修するには、「Advanced English I」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑥ 「Project Studies」を履修するには、海外留学 (必修) を終了しておく必要があります。
- ⑦ 1年次に通常コースの「専門科目 (選択必修) <地域研究>」で修得した「英語圏地域・国際関係入門」および「英語圏比較文化入門」の単位は、ダイヤモンドコースの専門科目 (必修) の卒業要件単位に算入されます。また、「英語学・英語教育入門」の修得単位は、「専門科目 (選択)」の卒業要件単位に算入されます。
- ⑧ 週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

海外留学 (必修)

- ① 「交換留学プログラム [派遣留学 A (学部留学)]」を利用して3年次秋学期から4年次春学期まで必ず留学してください。ただし、2年次秋学期の派遣留学選考試験の出願資格を満たし、選考試験に合格する必要があります。

専門科目 (選択)

- ① 配当年次に従い、選択して履修し、計20単位を修得してください。
- ② 「言語」領域のエレメンタリーおよびインターミディエイトの授業科目 (1年次配当) は、2年次以降に履修することはできません。
- ③ 外国語学部の英米語学科ダイヤモンドコース以外の学科の専門科目 (選択) の授業科目も履修できますが、修得した単位は卒業要件に算入されません。

その他

- ① ダイヤモンドコースの学生は、ゼミナール科目を履修できません。

【スペイン語学科】

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位				
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2												4	4		
専門科目	必修	言語	総合スペイン語Ⅰ(通年 週4回授業)		16	総合スペイン語Ⅱ(通年 週4回授業)		16	コミュニケーション・スペイン語A(週2回授業)	4	コミュニケーション・スペイン語B(週2回授業)	4	コミュニケーション・スペイン語C	2	コミュニケーション・スペイン語D	2	56	80		
			スペイン語文法Ⅰ(通年)		4	スペイン語文法Ⅱ(通年)		4												
		地域研究	スペイン語圏の基礎知識A	2	スペイン語圏の基礎知識B	2														
	選択	エレメンタリー	言語			オフィス・スペイン語	2	スペイン語リーディング初級	2										24	
			地域研究																	
		インターメディアイト	言語				実践スペイン語A	2	実践スペイン語B	2	スペイン語中級文法	2	スペイン語リーディング中級	2						
			地域研究																	
		共通				国内・海外留学認定科目														1~24
		アドバンスト	言語								実践スペイン語C	2								
	地域研究												外国語技能検定試験(専攻語)	2						
	共通					編入学時認定科目													1~12	
	ゼミナール科目									スペイン語学ゼミⅠ	2	スペイン語学ゼミⅡ	2	スペイン語学ゼミⅢ	2	スペイン語学ゼミⅣ	2		8	8
									スペイン語圏芸術ゼミⅠ	2	スペイン語圏芸術ゼミⅡ	2	スペイン語圏芸術ゼミⅢ	2	スペイン語圏芸術ゼミⅣ	2				
									スペイン語圏社会ゼミⅠ	2	スペイン語圏社会ゼミⅡ	2	スペイン語圏社会ゼミⅢ	2	スペイン語圏社会ゼミⅣ	2				
									スペイン語圏歴史ゼミⅠ	2	スペイン語圏歴史ゼミⅡ	2	スペイン語圏歴史ゼミⅢ	2	スペイン語圏歴史ゼミⅣ	2				
									スペイン語圏国際関係ゼミⅠ	2	スペイン語圏国際関係ゼミⅡ	2	スペイン語圏国際関係ゼミⅢ	2	スペイン語圏国際関係ゼミⅣ	2				

履修上の注意事項

- 学部導入科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 - ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 - ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、56単位を修得してください。
 - ②「総合スペイン語Ⅰ」「スペイン語文法Ⅰ」「総合スペイン語Ⅱ」「スペイン語文法Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
 - ※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
 - ③「総合スペイン語Ⅱ」を履修するには、「総合スペイン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ④「スペイン語文法Ⅱ」を履修するには、「スペイン語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤「コミュニケーション・スペイン語A」「コミュニケーション・スペイン語B」「コミュニケーション・スペイン語C」「コミュニケーション・スペイン語D」を履修するには、「総合スペイン語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑥1年次配当の授業科目は、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。
- 専門科目(選択)**
- ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターメディアイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計24単位を修得してください。
 - ②インターメディアイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
 - ③スペイン語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
 - ④できるだけ2年次終了までにエレメンタリー(地域研究)から2科目以上を履修し、ゼミを履修するようにしてください。(ゼミ履修に必須というわけではありません。)
- ゼミナール科目**
- ①スペイン語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
 - ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
 - ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
 - ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
 - ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

I 本学の概要
II 学修のしくみと知見の導入
III 京都外国語大学 単位修得要領
外国語学部
国際語学専攻
各種プログラム制度等
資格取得

[フランス語学科]

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位					
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2												4	4			
専門科目	必修	言語	総合フランス語Ⅰ(通年 週3回授業)		12	総合フランス語Ⅱ(通年 週4回授業)		16	フランス語スピーキング・ライティングA(週2回授業)	4	フランス語スピーキング・ライティングB(週2回授業)	4	フランス語スピーキング・ライティングC(週2回授業)	4	フランス語スピーキング・ライティングD(週2回授業)	4	68	80			
			フランス語文法Ⅰ(通年 週2回授業)		8	フランス語文法Ⅱ(通年)		4	フランス語リスニング・リーディングA	2	フランス語リスニング・リーディングB	2									
		地域研究	フランスの基礎知識A	2	フランスの基礎知識B	2	フランス語学の基礎知識	2	フランス文学の基礎知識	2											
	エッセンシャル	言語		音読フランス語	2																
		地域研究	日仏交流史	2																	
	選択	言語				観光フランス語A	2	観光フランス語B	2	翻訳通訳フランス語A	2								12		
						フランス語で学ぶ日本文化A	2	フランス語で学ぶ日本文化B	2	ビジネスフランス語	2										
								資格フランス語A	2	資格フランス語B	2	資格フランス語C	2								
									資格フランス語D	2	資格フランス語E	2									
		地域研究							フランス語圏の言語文化A	2	フランス語圏の言語文化B	2									
								フランス語圏の芸術A	2	フランス語圏の芸術B	2										
	共通		国内・海外留学認定科目													1~12					
アドバンスト	言語	上級者のためのフランス語演習A	2	上級者のためのフランス語演習B	2	上級者のためのフランス語演習C	2	上級者のためのフランス語演習D	2			翻訳通訳フランス語B	2								
	共通				編入学時認定科目													1~8			
ゼミナール科目												フランス語圏言語・文化ゼミⅠ	2	フランス語圏言語・文化ゼミⅡ	2	フランス語圏言語・文化ゼミⅢ	2	フランス語圏言語・文化ゼミⅣ	2	8	8
												フランス語圏文学・文化ゼミⅠ	2	フランス語圏文学・文化ゼミⅡ	2	フランス語圏文学・文化ゼミⅢ	2	フランス語圏文学・文化ゼミⅣ	2		
												フランス語圏社会・文化ゼミⅠ	2	フランス語圏社会・文化ゼミⅡ	2	フランス語圏社会・文化ゼミⅢ	2	フランス語圏社会・文化ゼミⅣ	2		

履修上の注意事項

- 学部導入科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 - ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 - ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、68単位を修得してください。
 - ②「総合フランス語Ⅰ」「フランス語文法Ⅰ」「総合フランス語Ⅱ」「フランス語文法Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
 - ③「総合フランス語Ⅱ」を履修するには、「総合フランス語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ④「フランス語文法Ⅱ」を履修するには、「フランス語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤「フランス語スピーキング・ライティングA」「フランス語リスニング・リーディングA」「フランス語スピーキング・ライティングB」「フランス語リスニング・リーディングB」「フランス語スピーキング・ライティングC」「フランス語スピーキング・ライティングD」を履修するには、「総合フランス語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑥1年次配当の授業科目は、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。
- 専門科目(選択)**
- ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計12単位を修得してください。
 - ②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
 - ③フランス語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**
- ①フランス語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
 - ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
 - ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
 - ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
 - ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

I 大学の概要
II 学部・学科の概要
III 京都外国語大学 単位修得要項
外国語学部
国際語学センター
各種プログラム制度等
資料提供

【ドイツ語学科】

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件				
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計			
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位					
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2															4	4	
専門科目	必修	総合ドイツ語Ⅰ(通年 週4回授業)		16	総合ドイツ語Ⅱ(通年 週4回授業)		16	ドイツ語コミュニケーションA	2	ドイツ語コミュニケーションB	2	ドイツ語コミュニケーションC	2	ドイツ語コミュニケーションD	2	64	80					
		ドイツ語文法Ⅰ(通年)		4	ドイツ語文法Ⅱ(通年)		4	ドイツ語ライティングA	2	ドイツ語ライティングB	2	ドイツ語ワークショップA	2	ドイツ語ワークショップB	2							
		国際ドイツ語検定対策A2(通年)		4																		
		地域研究	世界の中の日本とドイツ語圏	2	ドイツ語圏の基礎知識	2															16	
	エッセンタリー	言語		独検対策初級	2	中級ドイツ語文法A	2	中級ドイツ語文法B	2													
		地域研究	ドイツ語圏の歴史	2	ドイツ語圏の文学	2	文化と社会から見るドイツ語圏A	2	文化と社会から見るドイツ語圏B	2												
	インターメディアエイト	言語			独検対策中級	2	国際ドイツ語検定対策(B1)A	2	翻訳通訳ドイツ語A	2												
		地域研究					ドイツ語圏ランデスクンデA	2	ドイツ語学概論	2												
	アドバンスト	言語					ドイツ語圏ランデスクンデB	2	ドイツ語圏ランデスクンデC	2	ドイツ語学研究A	2	ドイツ語学研究B	2								
		地域研究									ドイツ語原書講読A	2	ドイツ語原書講読B	2								
		共通			国内・海外留学認定科目														1~16			
	ゼミナール科目	言語					独検対策上級	2	国際ドイツ語検定対策(B1)B	2	国際ドイツ語検定対策(B2)	2										
地域研究										翻訳通訳ドイツ語B	2											
共通				編入学時認定科目														1~8				
												外国語技能検定試験(専攻語)	2									
								ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅠ	2	ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅡ	2	ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅢ	2	ドイツ語圏の文化と社会ゼミⅣ	2	8	8					
								ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅠ	2	ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅡ	2	ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅢ	2	ドイツ語圏のことばと文化ゼミⅣ	2							
								ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅠ	2	ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅡ	2	ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅢ	2	ドイツ語圏の文学と文化ゼミⅣ	2							
								ドイツ語学ゼミⅠ	2	ドイツ語学ゼミⅡ	2	ドイツ語学ゼミⅢ	2	ドイツ語学ゼミⅣ	2							

履修上の注意事項

- 学部導入科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 - ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 - ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、64単位を修得してください。
 - ②「総合ドイツ語Ⅰ」「ドイツ語文法Ⅰ」「総合ドイツ語Ⅱ」「ドイツ語文法Ⅱ」「国際ドイツ語検定対策A2」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
 - ※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
 - ③「総合ドイツ語Ⅱ」を履修するには、「総合ドイツ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ④「ドイツ語文法Ⅱ」を履修するには、「ドイツ語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤「ドイツ語コミュニケーションA」「ドイツ語ライティングA」「ドイツ語コミュニケーションB」「ドイツ語ライティングB」「ドイツ語コミュニケーションC」「ドイツ語ワークショップA」「ドイツ語コミュニケーションD」「ドイツ語ワークショップB」を履修するには、「総合ドイツ語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑥1年次配当の授業科目は、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。
- 専門科目(選択)**
- ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターメディアエイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計16単位を修得してください。
 - ②インターメディアエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
 - ③ドイツ語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**
- ①ドイツ語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
 - ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
 - ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
 - ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
 - ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

【ブラジルポルトガル語学科】

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計		
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位				
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2															4	4
専門科目	必修	総合ポルトガル語Ⅰ(通年 週3回授業)		12	総合ポルトガル語Ⅱ(通年 週3回授業)		12	応用ポルトガル語A	2	応用ポルトガル語B	2	実践ポルトガル語A	2	実践ポルトガル語B	2	68		80			
		ポルトガル語文法Ⅰ(通年 週2回授業)		8	ポルトガル語文法Ⅱ(通年 週2回授業)		8	上級ポルトガル語コミュニケーションA	2	上級ポルトガル語コミュニケーションB	2										
					ポルトガル語初級検定対策A	2	ポルトガル語初級検定対策B	2	ポルトガル語中級検定対策A	2	ポルトガル語中級検定対策B	2									
		ポルトガル語圏語学の基礎		2	ポルトガル語圏文学の基礎		2														
	地域研究	ポルトガル語圏文化の基礎		2	ポルトガル語圏社会の基礎		2														
		ポルトガル語圏語学の基礎		2	ポルトガル語圏文学の基礎		2														
	選択	エレメンタリー	地域研究			ポルトガルの歴史と地理	2	現代ポルトガル事情	2												
						ブラジルの歴史と地理	2	現代ブラジル事情	2												
						ポルトガル語圏語学入門A	2	ポルトガル語圏語学入門B	2												
						ポルトガル語圏文学入門A	2	ポルトガル語圏文学入門B	2												
	アドバンスト	言語				映像と音楽のポルトガル語	2	スポーツメディアのポルトガル語	2	現代文学作品翻訳演習A	2	現代文学作品翻訳演習B	2								
						食文化のポルトガル語	2	観光文化のポルトガル語	2	ジャーナリズム翻訳演習A	2	ジャーナリズム翻訳演習B	2								
地域研究									ポルトガル語圏歴史文化研究	2	ポルトガル語圏アフリカ文化研究	2									
											日本ポルトガル語圏交流史	2									
共通				国内・海外留学認定科目												1~12					
共通				編入学時認定科目												1~4					
ゼミナール科目					ポルトガル語圏語学ゼミⅠ	2	ポルトガル語圏語学ゼミⅡ	2	ポルトガル語圏語学ゼミⅢ	2	ポルトガル語圏語学ゼミⅣ	2	8		8						
				ポルトガル語圏文学ゼミⅠ	2	ポルトガル語圏文学ゼミⅡ	2	ポルトガル語圏文学ゼミⅢ	2	ポルトガル語圏文学ゼミⅣ	2										
				ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅠ	2	ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅡ	2	ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅢ	2	ポルトガル語圏歴史文化ゼミⅣ	2										
				ポルトガル語圏社会ゼミⅠ	2	ポルトガル語圏社会ゼミⅡ	2	ポルトガル語圏社会ゼミⅢ	2	ポルトガル語圏社会ゼミⅣ	2										

履修上の注意事項

学部導入科目(必修)
 ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目(必修)
 ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、68単位を修得してください。
 ②「総合ポルトガル語Ⅰ」「ポルトガル語文法Ⅰ」「総合ポルトガル語Ⅱ」「ポルトガル語文法Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
 ※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。

③「総合ポルトガル語Ⅱ」を履修するには、「総合ポルトガル語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 ④「ポルトガル語文法Ⅱ」を履修するには、「ポルトガル語文法Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 ⑤「応用ポルトガル語A」「上級ポルトガル語コミュニケーションA」「ポルトガル語中級検定対策A」「応用ポルトガル語B」「上級ポルトガル語コミュニケーションB」「ポルトガル語中級検定対策B」「実践ポルトガル語A」「実践ポルトガル語B」を履修するには、「総合ポルトガル語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
 ⑥1年次配当の授業科目は、クラス(担当者)を指定します。
 ⑦2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス(担当者)を指定します。
 ⑧週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

専門科目(選択)
 ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターメディアエイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計12単位を修得してください。
 ②インターメディアエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
 ③ブラジルポルトガル語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
 ①ブラジルポルトガル語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
 ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
 ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
 ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
 ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

Ⅰ 本学の概要
 Ⅱ 学修のしくみを知りて入学しよう
 Ⅲ 京都外国語大学 単位修得要領
 外国語学部
 国際語学専攻
 各種プログラム制度等
 資料室

【中国語学科・通常コース】

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期					
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位				
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2													4	4		
専門科目	必修	言語	総合中国語Ⅰ(通年 週5回授業)		20	総合中国語Ⅱ(通年 週5回授業)		20	中国語リサーチプレゼンA	2	中国語リサーチプレゼンC	2	中国語リサーチプレゼンE	2	中国語リサーチプレゼンF	2		56	80		
		地域研究	世界の中の日本と中国A	2	世界の中の日本と中国B	2															
	エッセイ	言語	資格中国語A	2	資格中国語B	2												24		8	
					中国語通訳基礎	2															
	インターメディア	言語				資格中国語C	2	資格中国語D	2											1~24	2
							ビジネス中国語基礎A	2	ビジネス中国語基礎B	2											
							中国語観光通訳A	2	中国語観光通訳B	2											
		地域研究				中国語学概論A	2	中国語学概論B	2	現代中国と社会A	2	現代中国と社会B	2								
	アドバンス	言語							中国語リスニング応用A	2	中国語リスニング応用B	2	中国語リスニング発展A	2	中国語リスニング発展B	2				1~12	2
									中国語リーディング応用A	2	中国語リーディング応用B	2	中国語リーディング発展A	2	中国語リーディング発展B	2					
								ビジネス中国語応用A	2	ビジネス中国語応用B	2	中国語通訳発展A(実務)	2	中国語通訳発展B(実務)	2						
								ビジネスライティング中国語A	2	ビジネスライティング中国語B	2										
共通	地域研究											中国の芸術と文化	2	中国の社会と文化	2			1~12	2		
												現代中国事情A	2	現代中国事情B	2						
ゼミナール科目								中国語圏ゼミⅠ	2	中国語圏ゼミⅡ	2	中国語圏ゼミⅢ	2	中国語圏ゼミⅣ	2			8	8		

履修上の注意事項

学部導入科目(必修)
 ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目(必修)
 ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、56単位を修得してください。
 ②「総合中国語Ⅰ」「総合中国語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
 ※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。

③「総合中国語Ⅱ」を履修するには、「総合中国語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 ④「中国語リサーチプレゼンA」「中国語リサーチプレゼンB」「中国語リサーチプレゼンC」「中国語リサーチプレゼンD」「中国語リサーチプレゼンE」「中国語リサーチプレゼンF」を履修するには、「総合中国語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
 ⑤1年次配当の授業科目は、クラス(担当者)を指定します。
 ⑥2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス(担当者)を指定します。
 ⑦週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

専門科目(選択)
 ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターメディアイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計24単位を修得してください。
 ②インターメディアイトおよびアドバンスの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
 ③中国語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目
 ①中国語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
 ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
 ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
 ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
 ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

Ⅰ 本学の概要
 Ⅱ 学部概要
 Ⅲ 京都外国語大学 単位修得要領
 外国語学部
 国際語学専攻
 各種プログラム制度等
 資料提供

[中国語学科・既修者コース]

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期					
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計		
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2												4	4			
	専門科目	必修	総合中国語Ⅱ(通年 週5回授業)		20	中国語リサーチプレゼンA	2	中国語リサーチプレゼンC	2	中国語リサーチプレゼンE	2	中国語リサーチプレゼンF	2	中国語通訳発展A(実務)	2	中国語通訳発展B(実務)	2	40	80		
				中国語リサーチプレゼンB	2	中国語リサーチプレゼンD	2														
地域研究		世界の中の日本と中国A	2	世界の中の日本と中国B	2													40		80	
インターミディエイト		言語	資格中国語C	2	資格中国語D	2												40			80
			ビジネス中国語基礎A	2	ビジネス中国語基礎B	2															
		中国語観光通訳A	2	中国語観光通訳B	2																
		地域研究	中国語学概論A	2	中国語学概論B	2	現代中国と社会A	2	現代中国と社会B	2											
中国の伝統と歴史			2	中国の地域文化と言語(広東語)	2	中国の地域文化と言語(上海語)	2	現代中国と経済	2												
アドバンスト		言語				中国語リスニング応用A	2	中国語リスニング応用B	2	中国語リスニング発展A	2	中国語リスニング発展B	2					40			
				中国語リーディング応用A	2	中国語リーディング応用B	2	中国語リーディング発展A	2	中国語リーディング発展B	2										
				ビジネス中国語応用A	2	ビジネス中国語応用B	2														
				ビジネスライティング中国語A	2	ビジネスライティング中国語B	2														
地域研究				国内・海外留学認定科目								1~40				40	80				
ゼミナール科目					中国語リスニング発展A	2	中国語リスニング発展B	2	中国語リスニング発展A	2	中国語リスニング発展B	2						8	80		
					中国語リーディング発展A	2	中国語リーディング発展B	2	中国語リーディング発展A	2	中国語リーディング発展B	2									
					中国語通訳発展A(実務)	2	中国語通訳発展B(実務)	2													
					中国語通訳発展B(実務)	2	中国語通訳発展A(実務)	2													
			中国語圏ゼミⅠ	2	中国語圏ゼミⅡ	2	中国語圏ゼミⅢ	2	中国語圏ゼミⅣ	2	中国語圏ゼミⅤ	2									

履修上の注意事項

- | | | | |
|--|---|--|---|
| <p>学部導入科目(必修)</p> <p>①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。</p> <p>②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。</p> <p>③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。</p> <p>専門科目(必修)</p> <p>①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、40単位を修得してください。</p> <p>②「総合中国語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期連続して履修してください。</p> | <p>③「中国語リサーチプレゼンA」「中国語リサーチプレゼンB」「中国語リサーチプレゼンC」「中国語リサーチプレゼンD」「中国語リサーチプレゼンE」「中国語リサーチプレゼンF」「中国語通訳発展A(実務)」「中国語通訳発展B(実務)」を履修するには、「総合中国語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。</p> <p>④週2回以上の授業はすべての回を履修してください。</p> | <p>専門科目(選択)</p> <p>①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計40単位を修得してください。</p> <p>②アドバンストの授業科目は、当該レベルの履修基準を満たした場合に履修できます。なお、インターミディエイトの授業科目については、履修基準を満たしていなくても履修することができます。</p> <p>③インターミディエイトの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位(40単位)を満たすことはできません。</p> <p>④中国語学科以外の外国語学部生が履修を希望する場合は、「通常コース」の配当年次を参照し、履修してください。ただし、修得した単位は自由選択に算入されます。</p> | <p>ゼミナール科目</p> <p>①中国語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。</p> <p>②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。</p> <p>③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。</p> <p>④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。</p> <p>⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。</p> <p>⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。</p> |
|--|---|--|---|

I 大学の概要
II 学部・学科の概要
III 京都外国語大学 単位修得要領
外国語学部
国際語学部
各種プログラム制度等
資料提供

【日本語学科】

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位				
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2												4	4		
専門科目	必修	日本語学の基礎知識A	2	日本語学の基礎知識B	2	日本語の歴史A	2	日本語の歴史B	2								24	80		
		日本文化の基礎知識A	2	日本文化の基礎知識B	2	言語学概論A	2	言語学概論B	2											
		日本語教育の基礎知識A	2	日本語教育の基礎知識B	2	日本近代文学A	2	日本近代文学B	2											
		日本文化領域	日本の伝統文化A	2	日本の伝統文化B	2	漢字文化論A	2	漢字文化論B	2	日本文化特論A	2	日本文化特論B	2						
			漢文学A	2	漢文学B	2	和漢比較文学A	2	和漢比較文学B	2	日本文学特論A	2	日本文学特論B	2						
							日本文学史A	2	日本文学史B	2										
						日本古典文学A	2	日本古典文学B	2											
						書道A	2	書道B	2											
	日本語教育領域	日本語音声学概論	2	日本語音声表現法	2	日本語表記法	2			日本語学特論A	2	日本語学特論B	2							
		意味論・語用論入門	2		日本語教育文法A	2	日本語教育文法B	2	日本語教育と異文化理解A	2	日本語教育と異文化理解B	2								
		資格日本語教育	2				日本語教授法	2			日本語教育とICT	2								
								日本語教育評価法	2											
						日本語教育実習入門Ⅰ	2	日本語教育実習入門Ⅰ	2											
								日本語教育実習入門Ⅱ	2	日本語教育実習入門Ⅱ	2	日本語教育実習	2	日本語教育実習	2					
	日本語を母語としない学生用	ブラッシュアップ日本語A	2	ブラッシュアップ日本語D	2	アカデミック日本語A	2	アカデミック日本語D	2											
		ブラッシュアップ日本語B	2	ブラッシュアップ日本語E	2	アカデミック日本語B	2	アカデミック日本語E	2											
		ブラッシュアップ日本語C	2	ブラッシュアップ日本語F	2	アカデミック日本語C	2	アカデミック日本語F	2											
	共通			国内・海外留学認定科目												1~48				
																海外日本語教育実習	1~4			
																編入学時認定科目	1~24			
	ゼミナール科目									日本語教育研究ゼミⅠ	2	日本語教育研究ゼミⅡ	2	日本語教育研究ゼミⅢ	2	日本語教育研究ゼミⅣ	2		8	8
										日本文学研究ゼミⅠ	2	日本文学研究ゼミⅡ	2	日本文学研究ゼミⅢ	2	日本文学研究ゼミⅣ	2			
										日本文化研究ゼミⅠ	2	日本文化研究ゼミⅡ	2	日本文化研究ゼミⅢ	2	日本文化研究ゼミⅣ	2			
									対照研究ゼミⅠ	2	対照研究ゼミⅡ	2	対照研究ゼミⅢ	2	対照研究ゼミⅣ	2				
									現代日本語研究ゼミⅠ	2	現代日本語研究ゼミⅡ	2	現代日本語研究ゼミⅢ	2	現代日本語研究ゼミⅣ	2				
									国語教育研究ゼミⅠ	2	国語教育研究ゼミⅡ	2	国語教育研究ゼミⅢ	2	国語教育研究ゼミⅣ	2				

履修上の注意事項

- 学部導入科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 - ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 - ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、24単位を修得してください。
 - ②クラス(担当者)を指定します。

- 専門科目(選択)**
- ①配当年次に従い、選択して履修し、計56単位を修得してください。
 - ②「日本語教育実習入門Ⅱ」を履修するには、「日本語教育実習入門Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ③「日本語教育実習」を履修するには、「日本語教育実習入門Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ④「アカデミック日本語」および「ブラッシュアップ日本語」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した外国語学部の「日本語を母語としない学生」を履修対象者としてします。
 - ⑤日本語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

- ゼミナール科目**
- ①日本語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
 - ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
 - ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
 - ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

- ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
- ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

Ⅰ 本学の概要
Ⅱ 学部・学科の概要
Ⅲ 京都外国語大学 単位修得要領
外国語学部
国際語学部
各種プログラム制度等
資料提供

【イタリア語学科】

科目区分		1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件			
		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期					
		授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	各区分	合計		
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2															4	4
専門科目	必修	言語	総合イタリア語Ⅰ(通年 週4回授業)		16	総合イタリア語Ⅱ(通年 週4回授業)		16	イタリア語コミュニケーションA(週2回授業)	4	イタリア語コミュニケーションB(週2回授業)	4	イタリア語コミュニケーションC	2	イタリア語コミュニケーションD	2	58	80			
			イタリア語初級文法(通年)		4	イタリア語中級文法(通年)		4													
	選択	地域研究	イタリア語圏の基礎知識		2	日伊比較文化	2	イタリア地域比較概論	2												
			言語	資格イタリア語(基礎入門)		2	資格イタリア語(初級)		2												
				イタリア語聴解・読解(基礎入門)		2	イタリア語聴解・読解(初級)	2	イタリア語作文(初級)	2											
	選択	エッセイ	地域研究				イタリア歴史研究	2	イタリア美術研究	2	イタリア文学概論	2	イタリア言語研究	2							
				イタリアポピュラーカルチャー研究A(食文化)		2	イタリアポピュラーカルチャー研究B(ファッション)		2	イタリアポピュラーカルチャー研究C(スポーツ)		2									
				イタリア社会研究A(観光)		2	イタリア社会研究B(社会問題)		2												
			言語							イタリア語作文(中級)	2	資格イタリア語(中級)	2								
	イタリア語聴解・読解(初中級)			2	イタリア語聴解・読解(中級)		2														
	選択	地域研究							イタリア語翻訳	2											
			情報イタリア語		2																
選択	共通	国内・海外留学認定科目														1~22					
		言語							イタリア語上級会話	2	イタリア語通訳	2									
イタリア語プレゼンテーション			2																		
								外国語技能検定試験(専攻語)		2											
選択	地域研究										イタリア社会研究D(地域文化)	2									
		編入学時認定科目														1~10					
ゼミナール科目								イタリア文化ゼミⅠ	2	イタリア文化ゼミⅡ	2	イタリア文化ゼミⅢ	2	イタリア文化ゼミⅣ	2	8	8				

履修上の注意事項

- 学部導入科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 - ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 - ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、58単位を修得してください。
 - ②「総合イタリア語Ⅰ」「イタリア語初級文法」「総合イタリア語Ⅱ」「イタリア語中級文法」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。
※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
 - ③「総合イタリア語Ⅱ」を履修するには、「総合イタリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ④「イタリア語コミュニケーションA」「イタリア語コミュニケーションB」「イタリア語コミュニケーションC」「イタリア語コミュニケーションD」を履修するには、「総合イタリア語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤1年次配当の授業科目は、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑥2年次・3年次・4年次配当の授業科目は、習熟度別クラスで授業を行い、クラス(担当者)を指定します。
 - ⑦週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。
- 専門科目(選択)**
- ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計22単位を修得してください。
 - ②インターミディエイトおよびアドバンストの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
 - ③イタリア語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**
- ①イタリア語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
 - ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
 - ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
 - ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
 - ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

Ⅰ 本学の概要
Ⅱ 学部・学科の概要
Ⅲ 京都外国語大学 単位修得要領
外国語学部
国際語学部
各種プログラム制度等
資料提供

【ロシア語学科・通常コース】

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計			
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位					
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2															4	4
専門科目	必修	言語	総合ロシア語Ⅰ(通年 週4回授業)		16	総合ロシア語Ⅱ(通年 週4回授業)		16	ロシア語コミュニケーションA(週2回授業)	4	ロシア語コミュニケーションB(週2回授業)	4	ロシア語コミュニケーションC(週2回授業)	4	ロシア語コミュニケーションD(週2回授業)	4	62				
			ロシア語文法A	2	ロシア語文法B	2	ロシア語文法C	2	ロシア語文法D	2											
		地域研究	ロシア語圏の基礎知識A	2	ロシア語圏の基礎知識B	2	日露の交流	2													
	選択	エレメンタリー	言語		TORFL検定初級・基礎レベル対策	2	ロシア語学概論A	2	ロシア語学概論B	2											
			ユーラシアの言語	2																	
		地域研究					ロシア語圏の政治経済	2	ロシア語圏の文学と芸術A	2											
							ロシア語圏の社会と文化A	2	ロシア語圏の社会と文化B	2	ロシア語圏の大衆文化A	2									
	インターミディエイト	言語							ロシア語翻訳演習A	2	ロシア語翻訳演習B	2									
									ロシア語通訳演習A	2	ロシア語通訳演習B	2									
									TORFL検定第1・2レベル対策	2											
地域研究							ロシア語圏の文学と芸術B	2													
								ロシア語圏の大衆文化B	2												
共通			国内・海外留学認定科目													1~18					
アドバンス	言語							ロシア語医療通訳演習	2	ロシア語司法通訳演習	2										
								高度ロシア語通訳演習A	2	高度ロシア語通訳演習B	2										
								高度ロシア語翻訳演習A	2	高度ロシア語翻訳演習B	2										
共通			編入学時認定科目													1~8					
ゼミナール科目								ロシア言語社会研究ゼミⅠ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅡ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅢ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅣ	2	8	8				

履修上の注意事項

- 学部導入科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。
 - ②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。
 - ③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。
- 専門科目(必修)**
- ①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、62単位を修得してください。
 - ②「総合ロシア語Ⅰ」「総合ロシア語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。また、「総合ロシア語Ⅰ」の単位を修得するためには、秋学期末の学科総合試験(TORFL検定試験初級レベル相当)に合格する必要があります。「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得するためには、秋学期末の学科総合試験(TORFL検定試験基礎レベル相当)に合格する必要があります。
- ※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。
- ③「総合ロシア語Ⅱ」を履修するには、「総合ロシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ④「ロシア語コミュニケーションA」「ロシア語コミュニケーションB」「ロシア語コミュニケーションC」「ロシア語コミュニケーションD」を履修するには、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。
- <ロシア語短期留学>**
- 「ロシア語短期留学(必修)」に参加し、所定の課程を終了することを「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得の要件の1つとします。留学に参加(修了)しない場合は、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得できません。
- 専門科目(選択)**
- ①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターミディエイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計18単位を修得してください。
 - ②インターミディエイトおよびアドバンスの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。
 - ③ロシア語学科以外の外国語学部生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。
- ゼミナール科目**
- ①ロシア語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
 - ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
 - ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。
 - ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
 - ⑤ゼミⅠ~Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
 - ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

【ロシア語学科・特修コース】

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件					
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計				
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位						
学部導入科目	必修	基礎ゼミナール	2	言語と平和A	2												4	4				
専門科目	必修	言語	総合ロシア語Ⅱ(通年 週4回授業)		16	ロシア語コミュニケーションA(週2回授業)	4	ロシア語コミュニケーションB(週2回授業)	4	ロシア語コミュニケーションC(週2回授業)	4	ロシア語コミュニケーションD(週2回授業)	4					42	80			
			ロシア語文法C	2	ロシア語文法D	2																
		地域研究	ロシア語圏の基礎知識A	2	ロシア語圏の基礎知識B	2	日露の交流	2														
	選択	エレメンタリー	言語	ロシア語学概論A	2	ロシア語学概論B	2											38		38		
			地域研究				ロシア語圏の政治経済	2	ロシア語圏の文学と芸術A	2												
		インターメディアイト	言語				ロシア語通訳演習A	2	ロシア語通訳演習B	2											38	38
			地域研究				ロシア語通訳演習A	2	ロシア語通訳演習B	2												
			共通				TORFL検定第1・2レベル対策	2														
		アドバンス	言語								ロシア語圏の文学と芸術B	2									38	38
											ロシア語圏の大衆文化B	2										
		ゼミナール科目									ロシア言語社会研究ゼミⅠ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅡ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅢ	2	ロシア言語社会研究ゼミⅣ	2			8	8

履修上の注意事項

学部導入科目(必修)

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、4単位を修得してください。

②「基礎ゼミナール」は演習形式の授業で、クラス(担当者)を指定します。

③「言語と平和A」はリレー形式の授業で、クラスを指定します。

専門科目(必修)

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、42単位を修得してください。

②「総合ロシア語Ⅱ」は通年科目で、成績評価は秋学期末に行います。「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得するためには、秋学期末の学科総合試験(TORFL検定試験基礎レベル相当)に合格する必要があります。

※秋学期に休学した場合、当該春学期に履修した通年科目は取り消し、成績評価は行いません。次年度以降に、休学した年度に履修した通年科目を春学期から2学期間連続して履修してください。

③「ロシア語コミュニケーションA」「ロシア語コミュニケーションB」「ロシア語コミュニケーションC」「ロシア語コミュニケーションD」を履修するには、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得しておく必要があります。

④週2回以上の授業は必ずすべての回を履修してください。

<ロシア語短期留学>

「ロシア語短期留学(必修)」に参加し、所定の課程を終了することを「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得の要件の1つとします。留学に参加(修了)しない場合は、「総合ロシア語Ⅱ」の単位を修得できません。

専門科目(選択)

①配当年次に従い、選択して履修し、専攻語のインターメディアイト以上の授業科目(外国語技能検定試験(専攻語)の単位認定科目を含む)から2単位以上を含み、計38単位を修得してください。

②インターメディアイトおよびアドバンスの授業科目を履修するには、当該レベルの履修基準を満たしておく必要があります。

③エレメンタリーおよびインターメディアイトの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位(38単位)を満たすことはできません。

④ロシア語学科以外の外国語学部生が履修を希望する場合は、「通常コース」の配当年次を参照し、履修してください。ただし、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目

①ロシア語学科生は、上記のゼミおよび外国語学部共通科目のゼミ(80ページを参照)の中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。

③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。

④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。

⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

Ⅰ 本学の概要
Ⅱ 学修の中心となる科目を知りて入学を
Ⅲ 京都外国語大学 単位修得要領
外国語学部
国際語訳学部
各種プログラム制度等
資料提供

全学共通科目 (外国語科目)

[外国語学部・国際貢献学部 共通]

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件 合計
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
全学共通科目 (外国語科目)			英語Ⅰ(週2回授業)	4	英語Ⅰ(週2回授業)	4	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2					4
					英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2							
			スペイン語Ⅰ(週2回授業)	4	スペイン語Ⅰ(週2回授業)	4	スペイン語Ⅱ	2									
					スペイン語Ⅱ	2											
			フランス語Ⅰ(週2回授業)	4	フランス語Ⅰ(週2回授業)	4	フランス語Ⅱ	2									
					フランス語Ⅱ	2											
			ドイツ語Ⅰ(週2回授業)	4	ドイツ語Ⅰ(週2回授業)	4	ドイツ語Ⅱ	2									
					ドイツ語Ⅱ	2											
			ポルトガル語Ⅰ(週2回授業)	4	ポルトガル語Ⅰ(週2回授業)	4	ポルトガル語Ⅱ	2									
					ポルトガル語Ⅱ	2											
			中国語Ⅰ(週2回授業)	4	中国語Ⅰ(週2回授業)	4	中国語Ⅱ	2									
					中国語Ⅱ	2											
			イタリア語Ⅰ(週2回授業)	4	イタリア語Ⅰ(週2回授業)	4	イタリア語Ⅱ	2									
					イタリア語Ⅱ	2											
		ロシア語Ⅰ(週2回授業)	4	ロシア語Ⅰ(週2回授業)	4	ロシア語Ⅱ	2										
				ロシア語Ⅱ	2												
		コリア語Ⅰ(週2回授業)	4	コリア語Ⅰ(週2回授業)	4	コリア語Ⅱ	2										
				コリア語Ⅱ	2												
日本語を母語としない学生用	日本語A(週2回授業)	4	日本語A(週2回授業)	4													
	日本語B(週2回授業)	4	日本語B(週2回授業)	4													
	日本語C(週2回授業)	4	日本語C(週2回授業)	4													
	日本語D(週2回授業)	4	日本語D(週2回授業)	4													
	日本語E(週2回授業)	4	日本語E(週2回授業)	4													
	日本語F(週2回授業)	4	日本語F(週2回授業)	4													
	日本語G(週2回授業)	4	日本語G(週2回授業)	4													
	日本語J(週2回授業)	4															

履修上の注意事項

- ①専攻する言語および母語以外の言語を選択し、配当年次に従い、4単位を修得してください。
ただし、「日本語A～J」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者とします。また、「日本語J」は日本語学科生のみを履修対象者とします。
- ②1年次生は春学期の所定の期間に履修を希望する言語の申請を行ってください。抽選のうえ、クラス(担当者)を指定します。2年次以降も、学期ごとに異なる言語の履修希望を申請することもできます。た

- だし、「日本語A～J」については、上記①の学生を対象に、レベルに応じて、1年次春学期に履修するクラス(担当者)を指定しますので、指定された人は必ず履修してください。
- ③「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。
- ④「英語Ⅱ」を履修するには、「英語Ⅰ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

- ⑤「スペイン語Ⅱ」を履修するには、「スペイン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑥「フランス語Ⅱ」を履修するには、「フランス語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑦「ドイツ語Ⅱ」を履修するには、「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑧「ポルトガル語Ⅱ」を履修するには、「ポルトガル語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑨「中国語Ⅱ」を履修するには、「中国語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

- ⑩「イタリア語Ⅱ」を履修するには、「イタリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑪「ロシア語Ⅱ」を履修するには、「ロシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑫「コリア語Ⅱ」を履修するには、「コリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑬「日本語G」「日本語H」「日本語J」を除く授業科目はすべて春・秋学期に開講します。

全学共通科目 (教養科目)

[外国語学部・国際貢献学部 共通]

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次					
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期			
領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
全学共通科目 (教養科目)	ビジネス・ キャリア	キャリアベーシック	2			キャリア形成A	2	キャリア形成B	2	コミュニティ通訳特論Ⅰ	2	コミュニティ通訳特論Ⅱ(英語)	2					
				経営学入門	2	経営学応用A	2	経営学応用B	2			コミュニティ通訳特論Ⅱ(ポルトガル語)	2					
				経済学入門	2	経済学応用	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ(中国語)	2					
				会計学入門	2	特殊研究B(企業からの寄付講座)	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ(ロシア語)	2					
				Basic Business Administration	2	Applied Business Administration	2											
				Basic Economics	2	Applied Economics	2											
	サイエンス・ テクノロジー			環境論A	2	環境論B	2											
				メディア論	2	メディアリテラシー論	2											
				情報技術の実践	2	防災の科学	2											
				キャリアのための数学入門	2	数的理解	2											
				データ科学入門	2	データ科学応用	2											
						Environmental Issues	2	Media in Japan	2	Advanced Topics in Emerging Technology	2							
	教育		生涯学習概論	2	青少年の行動と心理	2	コミュニケーションの心理	2	臨床心理学	2								
			多文化理解と人権	2	多文化理解と人権	2	コーチングの理論	2	コーチングの実践	2								
			人権と教育	2	人権と教育	2	リーダーシップ概論	2	教育の課題	2								
	政治・平和			国際関係論入門	2	国際関係論応用	2	国際平和協力論	2									
				政治学入門	2	政治学応用	2	国際法	2									
				法学入門	2	言語政策	2	平和・安全保障論	2									
				日本国憲法	2	国際連合論	2											
						模擬国連会議(PBL)	2											
					言語と平和B	2	グローバル化とジェンダー	2										
	京都・日本			多文化間コミュニケーション	2	比較文化論	2	特殊研究C(地域連携研究)	2									
			京都文化論A	2	京都文化論B	2	京都の伝統文化A	2	京都の伝統文化B	2								
			Japanese Geography	2	Japanese History and Culture	2	Current Kyoto and Tradition	2	Destination Kyoto	2								
					Japanese Philosophy	2	Religions in Japan	2										
					Japan Pop Cultures	2	Japan seen through Animations	2										
					もっと京都プロジェクトA	2	もっと京都プロジェクトB	2										
国際社会		世界の歴史と文化A-1 (日本、アジア、アフリカ、オセアニア)	2	世界の歴史と文化A-2 (日本、アジア、アフリカ、オセアニア)	2	世界の歴史と文化B-1 (ヨーロッパ、南北アメリカ)	2	世界の歴史と文化B-2 (ヨーロッパ、南北アメリカ)	2									
				特殊研究A(異文化理解研究)	2	特殊研究D(グローバル研究)	2	世界文化と多様性	2									
					Intercultural Communication in Practice A	2	Intercultural Communication in Practice B	2										

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
全学共通科目 (教養科目)	言語	言語の仕組み	2	言語の成り立ち	2			日英対照言語学	2								
			2	音声学入門	2			日中対照言語学	2								
		日本語学入門A	2	日本語学入門B	2			バイリンガルの言語形成	2								
		日本語教育入門A	2	日本語教育入門B	2	2言語同時学習(ES)A	2	2言語同時学習(ES)B	2								
						2言語同時学習(EF)A	2	2言語同時学習(EF)B	2								
						2言語同時学習(EG)A	2	2言語同時学習(EG)B	2								
						2言語同時学習(EP)A	2	2言語同時学習(EP)B	2								
						2言語同時学習(EC)A	2	2言語同時学習(EC)B	2								
						2言語同時学習(EI)A	2	2言語同時学習(EI)B	2								
						2言語同時学習(ER)A	2	2言語同時学習(ER)B	2								
						アラビア語Ⅰ	2	アラビア語Ⅱ	2								
						インド語Ⅰ	2	インド語Ⅱ	2								
						インドネシア語Ⅰ	2	インドネシア語Ⅱ	2								
						オランダ語Ⅰ	2	オランダ語Ⅱ	2								
						ギリシア語Ⅰ	2	ギリシア語Ⅱ	2								
						スワヒリ語Ⅰ	2	スワヒリ語Ⅱ	2								
						タイ語Ⅰ	2	タイ語Ⅱ	2								
						トルコ語Ⅰ	2	トルコ語Ⅱ	2								
						ベトナム語Ⅰ	2	ベトナム語Ⅱ	2								
						ラテン語Ⅰ	2	ラテン語Ⅱ	2								
						日本語のスキルA	2	日本語のスキルE	2								
						日本語のスキルB	2	日本語のスキルF	2								
						日本語のスキルC	2	日本語のスキルG	2								
						日本語のスキルD	2	日本語のスキルH	2								
		日本語を 母語としない 学生用			ビジネス日本語A	2	ビジネス日本語B	2									
					日本語能力試験N1対策A	2	日本語能力試験N1対策B	2									
		人文	現代社会の見方	2	現代文化論	2	哲学A	2	哲学B	2							
			地理学入門	2	宗教学入門	2	美学芸術学	2	倫理学	2							
							考古学	2	ミュージアムマネジメント(PBL)	2							
							人類学	2	美術史	2							
		スポーツ	健康科学の実践と理論	2	健康科学の実践と理論	2	テクニカルスポーツA	2	テクニカルスポーツB	2							
							スポーツと国際交流	2	スポーツ政策	2	スポーツとまちづくり(PBL)	2					
							シーズンスポーツ	2	シーズンスポーツ	2							
		共通	科目等履修科目														1~12
			国内・海外留学認定科目(英米語学科通常コース、スペイン語学科、フランス語学科、ドイツ語学科、ブラジルポルトガル語学科、中国語学科、日本語学科、イタリア語学科、ロシア語学科、グローバルスタディーズ学科、グローバル観光学科)														1~48
			国内・海外留学認定科目(英米語学科ダイヤモンドコース)														1~48
			編入学時認定科目														1~28
			短期留学														1~4
			キャリア形成支援プログラム														1~4
			E-Learning (Tutorial Studies)														1
			大学コンソーシアム京都科目														1~12
			教育支援活動														1~2
			外国語技能検定試験(専攻語以外)														2
		情報処理検定試験														2	

履修上の注意事項

①「コミュニティ通訳特論Ⅱ」を履修するには、「コミュニティ通訳特論Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。また、「コミュニティ通訳特論Ⅱ(英語)」を履修するには英米語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ(ポルトガル語)」を履修するにはブラジルポルトガル語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ(中国語)」を履修するには中国語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、それぞれ満たしておく必要があります。「コミュニティ通訳特論Ⅱ(ロシア語)」については、ロシア語学科生は「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得、ロシア語学科以外の学科の学生は「ロシア語能力検定試験2級」を取得し、ロシア語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を満たしておく必要があります。

- ②「アラビア語Ⅱ」を履修するには、「アラビア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ③「インド語Ⅱ」を履修するには、「インド語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ④「インドネシア語Ⅱ」を履修するには、「インドネシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑤「オランダ語Ⅱ」を履修するには、「オランダ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

- ⑥「ギリシア語Ⅱ」を履修するには、「ギリシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑦「スワヒリ語Ⅱ」を履修するには、「スワヒリ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑧「タイ語Ⅱ」を履修するには、「タイ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑨「トルコ語Ⅱ」を履修するには、「トルコ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑩「ベトナム語Ⅱ」を履修するには、「ベトナム語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑪「ラテン語Ⅱ」を履修するには、「ラテン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

- ⑫「ビジネス日本語A」「ビジネス日本語B」「日本語能力試験N1対策A」「日本語能力試験N1対策B」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者としてします。
- ⑬「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料:認定科目)」で修得した単位は、合わせて4単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。
- ⑭「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料:認定科目)」を履修するには、「健康科学の実践と理論」の単位を修得しておく必要があります。

学部共通科目 (ゼミナール科目)

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次			
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期	
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位
ゼミナール科目									ビジネス・マネジメント研究ゼミⅠ	2	ビジネス・マネジメント研究ゼミⅡ	2	ビジネス・マネジメント研究ゼミⅢ	2	ビジネス・マネジメント研究ゼミⅣ	2
									サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅠ	2	サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅡ	2	サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅢ	2	サービス・ホスピタリティ研究ゼミⅣ	2
									公共政策研究ゼミⅠ	2	公共政策研究ゼミⅡ	2	公共政策研究ゼミⅢ	2	公共政策研究ゼミⅣ	2
									生活・環境研究ゼミⅠ	2	生活・環境研究ゼミⅡ	2	生活・環境研究ゼミⅢ	2	生活・環境研究ゼミⅣ	2
									情報・メディア研究ゼミⅠ	2	情報・メディア研究ゼミⅡ	2	情報・メディア研究ゼミⅢ	2	情報・メディア研究ゼミⅣ	2
									教育研究ゼミⅠ	2	教育研究ゼミⅡ	2	教育研究ゼミⅢ	2	教育研究ゼミⅣ	2
									言語教育ゼミⅠ	2	言語教育ゼミⅡ	2	言語教育ゼミⅢ	2	言語教育ゼミⅣ	2
									グローバル研究ゼミⅠ	2	グローバル研究ゼミⅡ	2	グローバル研究ゼミⅢ	2	グローバル研究ゼミⅣ	2
									国際教養ゼミⅠ	2	国際教養ゼミⅡ	2	国際教養ゼミⅢ	2	国際教養ゼミⅣ	2



履修上の注意事項

ゼミナール科目

- ①外国語学部生(英米語学科ダイヤモンドコースを除く)は、所属学科のゼミおよび上記のゼミの中から1種類を履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。
- ②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。
- ③ゼミⅠを履修するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目(必修)の単位を修得しておく必要があります。

- ④ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- ⑤ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。
- ⑥ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

専門科目 (選択) の履修

配当年次に従い、卒業に必要な単位を修得してください(44 ページ参照)。

専門科目(選択)(英米語学科(地域研究)領域および日本語学科を除く)には、エレメンタリー、インターミディエイト、アドバンストの3つのレベルがあり、それぞれの言語およびレベルごとに履修基準を設けています。履修基準を満たしていなければ、インターミディエイト以上の授業科目を履修することはできません。

履修上の注意点

- ・選択科目(英米語学科通常コースは選択科目<言語>領域)の卒業要件単位数は、所属学科配当のインターミディエイト以上の授業科目の単位(「外国語技能検定試験(専攻語)」の単位認定科目を含む)を含めて修得する必要があります。したがって、エレメンタリーの授業科目の修得単位のみで卒業要件単位を満たしても卒業することはできませんので、充分注意してください。(英米語学科ダイヤモンドコース、日本語学科を除く。)
- ・英米語学科通常コースの学生は、「<言語>領域」、「<地域研究>領域」のそれぞれの領域より配当年次に従い、卒業に必要な単位数を修得してください。
- ・英米語学科ダイヤモンドコースの学生は、同コース専門科目(選択)<言語>領域のエレメンタリーおよびインターミディエイト科目(1年次配当)を履修することはできません。
- ・中国語学科既修者コースおよびロシア語学科特修コースの専門科目(選択)の卒業要件単位数を充足するには、所属学科・コース配当のアドバンストの授業科目の単位を含めて修得する必要があります。
- ・所属学科以外の学科の専門科目(選択)の授業も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入します。(英米語学科ダイヤモンドコースを除く。)
- ・英米語学科通常コースの選択科目<言語>領域に担当している「TOEIC リスニング対策」、「TOEIC リーディング対策」は英米語学科で指定された人のみが履修できる授業科目です。

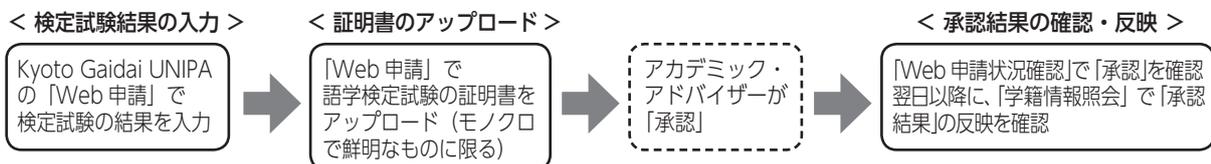
■ 履修基準を満たした場合の申請手続き

履修基準を満たした場合はそれを証明する手続きが必要となりますので、以下のとおり手続きを行ってください。

インターミディエイトまたはアドバンストの履修基準を満たした場合は、以下の要領で申請手続きを行ってください。原則として、各学期の所定の期間にアカデミック・アドバイザーに証明書を提出し承認を受けられれば、次の学期から承認を受けた言語のレベルの授業科目を履修することができます。

ただし、学内で実施する「TOEIC L&R (IP)」、「GTEC Academic 2 技能 (LR) /4 技能 (LRWS)」および「学科総合試験(ブラジルポルトガル語学科およびロシア語学科)」については、本学が Kyoto Gaidai UNIPAの「学籍情報照会」に結果を反映しますので、申請手続きは不要です。履修基準を満たしていれば、次の学期から当該レベルの授業科目を履修することができます。

【申請方法】



※申請内容に不備がある場合は、「差戻し」または「却下」となりますので、申請後は定期的に「Web 申請状況確認」で申請結果のステータスを確認してください。申請期間終了後に「差戻し」となった履修基準の申請を当該学期に再度申請することはできません。

【申請期間】

申請期間は Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。語学検定試験の日程の関係で、申請期間内に語学検定試験の証明書の取得ができない場合は、申請することができませんので、計画的に語学検定試験を受験してください。

注 外国語技能検定試験の単位認定については、別途手続きが必要です(116 ページ)。

【専門科目（選択）履修基準】

言語	エレメンタリー	インターミディエイト	アドバンスト
英語	—	① TOEIC L&R (IP を含む) 550 点以上	① TOEIC L&R (IP を含む) 650 点以上
		② TOEFL iBT57 点以上	② TOEFL iBT68 点以上
		③ IELTS (アカデミック・モジュール) 4.5 以上	③ IELTS (アカデミック・モジュール) 5 以上
		④ GTEC Academic 2 技能 (LR) 230 点以上	④ 実用英語技能検定 (S-CBT を含む) 準 1 級以上
		⑤ GTEC Academic 4 技能 (LRWS) 480 点以上	⑤ GTEC Academic 2 技能 (LR) 260 点以上
			⑥ GTEC Academic 4 技能 (LRWS) 530 点以上
スペイン語	—	① スペイン語技能検定試験 5 級以上	① スペイン語技能検定試験 4 級以上
		② DELE A1 以上	② DELE A2 以上
フランス語	—	① 実用フランス語技能検定 3 級以上	① 実用フランス語技能検定準 2 級以上
		② DELF・DALF A1 以上	② DELF・DALF A2 以上
		③ TCF 100 以上	③ TCF 200 以上
ドイツ語	—	① ドイツ語技能検定 4 級以上	① ドイツ語技能検定 3 級以上
		② Goethe-Zertifikat A1 以上	② Goethe-Zertifikat A2 以上
ポルトガル語	—	① 外国語としてのポルトガル語検定試験準初級以上	① 外国語としてのポルトガル語検定試験初級以上
		② 学科総合試験 55 点以上	② 学科総合試験 80 点以上
中国語	—	① HSK3 級以上	① HSK4 級以上
		② 中国語検定試験 4 級以上	② 中国語検定試験 3 級以上
		③ 実用中国語技能検定試験 4 級以上	③ 実用中国語技能検定試験 3 級以上
イタリア語	—	① 実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT4 級以上	① 実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT3 級以上
		② CILS A1 以上	② CILS A2 以上
		③ CELI - Impatto 以上	③ CELI - 1 以上
ロシア語	—	① TORFL 検定試験基礎レベル	① TORFL 検定試験第 1 レベル
		② 学科総合試験 60 点以上 (ロシア語学科生) ※	② 学科総合試験 60 点以上 (ロシア語学科生) ※
		③ ロシア語能力検定試験 3 級以上 (ロシア語学科生以外)	③ ロシア語能力検定試験 2 級以上 (ロシア語学科生以外)

※ロシア語の②学科総合試験の受験対象者はロシア語学科生のみで、インターミディエイトの試験問題は TORFL 検定試験基礎レベル相当、アドバンストは TORFL 検定試験第 1 レベル相当です。

ゼミナール科目

〈英米語学科ダイヤモンドコースを除く〉

【ゼミナール科目とは】

外国語学部では、ディプロマポリシーに掲げる「高度な語学力、地域や文化について専門的知識および国際社会で活躍するにふさわしい高い見識並びに豊かな教養を身につけ、世界の平和に貢献する人材を育成」という理念のもと、4年間の学修の集大成としてゼミナール科目（必修）を設置しています。

ゼミナール科目では、3年次から2年間、担当教員の指導およびゼミ生同士の共同作業を通じて、自らの関心がある学問分野における専門知識や研究方法等の理解を深め、最終的には自ら設定した研究テーマにもとづく卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を完成させます。具体的には、文献講読や資料の精読、情報収集、調査、分析、フィールドワーク等を行い、研究報告や他のゼミ生との討論を重ねるなど、より質の高い卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を目指します。

したがって、1年次から、いずれどのようなゼミに入り、いかなる研究テーマを設定するかをイメージしつつ、4年間の学びの計画を立てることが重要です。そして、積極的にゼミの活動に参加していく姿勢が強く求められます。

これらのゼミでの活動を通じて、ディプロマポリシーに掲げる①構想するために必要な力（問題発見力・解決力、思考力・判断力、創造力・企画力）、②実践するために必要な力（主体的に取り組む力、情報収集力・分析力、計画力・実行力）、③共同するために必要な力（プレゼンテーション力、コミュニケーション力、多文化共生力）など、社会で活躍するうえで役立つ様々な能力を養い、将来豊かな人生を送るための糧とします。

なお、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は、「〇〇ゼミⅣ」の授業と一体的に評価をします。

【履修するゼミの選考・登録の流れ】

外国語学部（英米語学科ダイヤモンドコースを除く）を卒業するためには、所属学科のゼミナール科目または学部共通のゼミナール科目のゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修して単位を修得し、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の作成に必要な研究指導を受け、卒業論文または卒業研究を提出し、合格しなければなりません。

ゼミナール科目は3年次から登録しますが、研究指導に適正な人数を保つために選考を行いますので、以下のとおり手続きを行ってください。

※ゼミナール科目は3年次から配当されているため、選考は2年次で行います。

選考の対象は、休学・留学中の学生を含むすべての2年次生です。

2年次	9～10月	各ゼミの内容を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で確認し、所定の期間に志望ゼミを申請してください。志望者が多いゼミについては、志望理由の内容や面談等により選考を行います。 ※ゼミ選考のスケジュール等の詳細は、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。
	12～1月	選考結果を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で発表します。
3年次	4月	発表内容に従いゼミを履修登録してください。

ゼミナール科目履修上の注意

- ・ゼミⅠを受講するには、基礎ゼミナールおよび所属学科の1年次配当のすべての専門科目（必修）（英米語学科の選択必修を除く）の単位を修得しておく必要があります。
- ・選考後はゼミの変更はできません。ゼミはⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順に履修し、単位を修得してください。Ⅱを履修するにはⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- なお、ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、春学期・秋学期の各学期に開講します。
- ・所定のゼミ申請を行わずゼミが決まっていない人は、履修登録開始日までに教育支援課へ申し出てください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格】

ゼミⅣを履修している場合は、当該学期の卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格がありますので、所定の期間に提出してください。

< 留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）の場合 >

ゼミⅣを履修する学期に留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）をする場合においても、留学中に担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出することができます。

なお、ゼミⅣの単位については、担当教員が提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価を「合格」とした場合に限り認定します。

したがって、留学中も必ずゼミ担当者と連絡をとり指導を受けてください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出期間】

3月卒業	12月13日～20日
9月卒業	7月1日～20日

※提出期限が日・祝日の場合は翌日を期限とします。

※提出期限に遅れた場合は受け付けません。ただし、特別な理由（追試験に相当する理由）がある場合は、以下のとおり期限を延長する場合があります。なお、手続きは追試験に準じます。

（延長が認められた場合の提出期日）

3月卒業	翌年の1月15日
9月卒業	8月5日

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出方法】

Kyoto Gaidai UNIPAの「マイステップ登録」で、成果物ファイルをアップロードしてください。詳細は、3月卒業予定者へは11月に、9月卒業予定者へは6月に、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）作成にあたっての注意事項】

(1) 提出期日等を厳守すること

所定の期日までに所定の提出方法により提出しなければなりません。表紙等の体裁や文字数等は、学生便覧記載の「様式」を参照してください。

(2) 提出前にゼミ担当教員の指導を受けること

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）のテーマは、担当教員と相談のうえ決定し、変更する場合も事前に相談しなければなりません。また、担当教員の指示にもとづき、研究計画書の提出や中間・完成報告等が必要となります。

ゼミ担当教員の指導を経ずに提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は評価の対象となりません。また、ゼミの欠席が著しく多い人や担当教員の指導や指示に従わない人が提出した場合も評価の対象とならない可能性があります。

なお、卒業論文は論文形式をとる成果物、卒業研究は論文形式をとらない成果物ですが、それぞれの様式にしたがって作成してください。

(3) 剽窃行為はしないこと

剽窃（盗用）行為が判明した場合、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は失格となり、また、原則として当該学期の全受講科目および通年の全受講科目の成績評価を失格とします。そのほか、参考文献の引用方法等については、担当教員の指示にしたがってください。

(4) 卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出しても必ず合格とはならないこと

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は提出すれば必ず単位を修得できるというわけではありません。合格の水準に達していなければ不合格になります。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準】

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準は以下のとおりとします。

(1) 卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価

① 卒業論文の評価

論文審査および口述試問により評価します。

② 卒業研究の評価

中間報告（発表）、卒業研究および口頭発表により評価します。

(2) 評価基準

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価にあたっては、以下の項目を基準とします。

① テーマの設定および研究方法が先行研究を踏まえている。

② 研究資料およびデータが的確に収集・処理されている。

③ 研究資料およびデータの分析・解釈が的確であり、かつ、表現・表記が論理的に展開し、論旨に明確性と一貫性がある。

1 卒業論文【様式】

1. 本文の使用言語

専攻する外国語（日本語学科は日本語）。ただし、担当教員が許可した場合は、日本語の使用を認めます。

2. 本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。専攻語は 20 枚以上（中国語は7枚以上）とします。また、日本語の場合は 16,000 字以上とします。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの文字数等	外国語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、または Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 日本語（中国語を含む）では、10.5 または 11 ポイントの文字の大きさを、1枚につき一行 40 字（アルファベットは半角 80 字）30 行で、横書きに設定。

3. ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

①卒業論文題目

②内題・検索用キーワード

③論文要旨

パソコンを使用し、日本語（A4用紙1～2枚・800～1,200字）での作成してください。

④目次

⑤本文

⑥文献リスト・資料

2 卒業研究【様式】

1. 本文の使用言語

専攻する外国語（日本語学科は日本語）。ただし、担当教員が許可した場合は、日本語の使用を認めます。

2. 本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。専攻語は5枚以上（中国語は3枚以上、日本語は7枚以上）とします。

また、例外的にレポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し許可を得てください。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの文字数等	外国語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、または Times New Roman の 12 ポイント 26 行に設定。 日本語（中国語を含む）では、10.5 または 11 ポイントの文字の大きさを、1枚につき一行 40 字（アルファベットは半角 80 字）30 行で、横書きに設定。 ※図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイント程度に設定。

3. ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

①卒業研究表題

②卒業研究タイトル・概要

パソコンを使用し、日本語（タイトルは 40 字以内、概要は 400 字以内）での作成してください。

③本文

全学共通科目(教養科目)のスポーツ



健康科学の実践と理論

スポーツの実践と講義をとおして身体運動能力や協調性を養い、健康の保持・増進に関する諸問題を学ぶことにより、良好な社会生活を営む力を身につけることを目標としています。授業は、実技種目・講義を行い、1週目の授業は、授業概要説明を行いますので必ず出席してください。詳しくは、シラバスを参照してください。

① 実技種目	バレーボール、バスケットボール、テニス、卓球、バドミントン、サッカー、フットサル、ニュースポーツ (9週実施)
② 講義	「講義概要説明」・「競技種目の理解」・「障害、外傷」・「スポーツ社会学」・「スポーツ生理学」・「測定と評価」・「まとめ」(5週実施)

- ・「健康科学の実践と理論」は、教育職員免許取得に必要な「体育に関する科目(2単位)」です。
- ・本学が行う定期健康診断は、授業の一環として扱いますので、必ず受診してください。



テクニカルスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、より高いスポーツ技術の習得、戦術の理解、ゲームの運営や分析について学び、試合や大会の企画・運営ができる能力を各学習段階に応じて習得するコースです。1週目の授業は、授業概要説明を行いますので必ず出席してください。また、種目の詳細はシラバスで確認してください。

なお、「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料:認定科目)」で修得した単位は、合わせて4単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。

※ユニバーサルスポーツについて

ペタンク、ターゲットボードゴルフ、グランドゴルフ、ソフトバレーボール、ファミリーバドミントン、ユニホック、ゴールボール、卓球バレー、サウンドテーブルテニス、車いすバスケットボールのルール理解と実践を行います。



シーズンスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、学外施設を使用した野外活動(集中実技授業)を実施する認定科目です(有料)。

なお、UNIPAの「掲示板」等でオリエンテーションの日時と場所をお知らせしますので、参加希望者は必ず出席してください。

種目名	時期	場所	期間	費用
マリンスポーツ	8月下旬	沖縄県恩納村	4日間	82,000円(予定) ※別途、交通費が必要
スノースポーツ	2月上旬	長野県栂池高原	5日間	55,000円(予定) ※別途、交通費が必要

※シーズンスポーツは単位認定科目です。

※テクニカルスポーツA(2単位)およびテクニカルスポーツB(2単位)の単位を既に修得している場合は、卒業要件外での単位認定となります。

外国語学部他学科の授業科目の履修

外国語学部の所属学科以外の学科で開講する授業科目の内、専門科目(選択)を配当年次に従って履修することができ、修得した単位は自由選択に算入されます。ただし、履修基準や履修条件が定められている授業科目を履修するには、当該基準等を満たしておかなければなりません。

また、抽選等で受講者を制限する場合は、当該授業科目が配当されている学科生を優先します。

なお、国際貢献学部に配当している授業科目は履修できません。

国際貢献学部

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

卒業要件

4年（8学期）在学し、以下の授業科目区分に従って、124単位を修得すれば卒業となり、学位を取得することができます。学生本人の責任において綿密な履修計画を立て、学期毎に単位修得状況を確認し、卒業要件を満たすようにしてください。

授業科目区分		グローバルスタディーズ学科	グローバル観光学科
学部基幹科目		16	16
専門科目	必修	22	28
	展開		28 ※
	選択	48 ※	14 ※
ゼミナール科目		8	8
全学共通科目	外国語科目	4 ※	4 ※
	教養科目	8 ※	16 ※
自由選択（注1）		18	10
合計		124	124

（注1）自由選択は※印を付した授業科目区分（専門科目（展開）、専門科目（選択）、全学共通科目）の中で卒業に必要な単位数を超えて修得した単位および国際貢献学部の所属学科以外の学科の専門科目（展開）、専門科目（選択）の授業科目を履修し修得した単位が算入されます。

卒業判定

4年次生を対象に、在学中に修得した単位数および在学年月数に基づき、年度末（3月卒業）および春学期末（9月卒業）に卒業判定を行います。

なお、4年（8学期）在学し、上記の「卒業要件」の表に定められた授業科目区分毎に所定の単位を修得し、合計124単位以上を修得した学生に対して卒業を認定します。

1. 3月卒業

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は2月下旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

2. 9月卒業

グローバルスタディーズ学科の9月入学の4年次生と「1.3月卒業」で「留年」になった人が対象となります。

判定結果は「卒業」または「留年」のいずれかとなります。

判定結果発表は9月上旬に Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で行います。

「留年」と判定された人は、以降の学期で卒業要件単位数を満たすまで卒業ができず、在学を継続することになります。卒業を希望する学期の所定の期間に履修登録を行ってください。

※判定結果「留年」には、①在学年月数が4年（8学期）未満の学生で修業年限が不足している「留年」と、②在学年月数が4年（8学期）以上の学生で卒業要件単位数が不足している「留年（卒業延期）」の2種類があります。

履修登録

履修登録とは、**学生本人の責任において**自らが、履修する授業科目を決定し、所定の期間内に行う手続きのことです。履修登録の手続きを誤った場合は、履修しようと思っていた授業科目を受講したり試験を受けることができず、単位が修得できなくなりますので、履修登録は慎重に行ってください。

また、履修登録をする際には、**毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」内の授業科目時間割および Kyoto Gaidai UNIPA の「シラバス照会」**を大いに活用し、**授業が開講される曜日・講時や授業の内容、科目区分毎の単位数をしっかりと確認してください。**

※履修登録を行うには、Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、学修目標等の入力が必要で、必ず所定の期間に必要な事項を入力してください。

1 履修登録の時期

春学期は3～4月（新入生は4月）、秋学期は9月の所定の期間に登録してください。

2 履修登録の方法

Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で行ってください。病気などのやむを得ない理由で所定の期間に登録できない場合は、必ず事前に教育支援課へ連絡し、指示を受けてください。

3 履修登録できる単位数の上限

単位修得に必要な時間数および学修の質を確保するため、学期毎および年間に履修登録できる単位数の上限を以下のとおり定めています。学期毎の単位数が上限単位数内であっても年間の上限単位数を超えて履修登録をすることはできません。（例えば、卒業要件（通算）のGPAが2.7未満の人が春学期に26単位履修登録した場合、秋学期に履修登録できる上限の単位数は22単位となります。）

春学期	秋学期	年間	備考
26	26	48	<ul style="list-style-type: none">資格課程に関する授業科目は含みません。卒業要件（通算）のGPAが2.7以上の場合は、上限を超えて履修登録することができます。

4 全学共通科目（外国語科目）の登録

外国語科目の登録方法については、毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」で確認してください。

5 クラス（担当者）を指定する授業科目の登録

習熟度別クラスのレベルを Kyoto Gaidai UNIPA の「学籍情報照会」で確認のうえ、該当する科目を「履修登録」で登録してください。再履修等によりクラス（担当者）変更が必要な場合は、授業開始までに実施する「履修登録相談」で手続きを行ってください。

6 配当年次による登録

授業科目には配当年次がありますので、**配当年次に従って登録してください。**

ただし、履修条件を設けている授業科目を除き、下級年次配当の授業科目は登録することができます。

（例えば、1年次生は2年次配当の授業科目は登録できませんが、4年次生は1～3年次配当の授業科目を登録できます。）

7 抽選科目の登録

選択科目には、授業内容および教室設備等の関係で登録者数を制限するため、抽選を行う科目があります。履修を希望する場合は、自身の必修科目やゼミナール科目の曜日・講時を確認のうえ、所定の申請期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「抽選希望登録」で申請してください。ただし、**当選した科目については、履修の取消を認めません**ので、注意してください。対象科目は、各学期の履修登録開始前に本学ホームページに掲載する「抽選科目一覧」を参照してください。

8 履修登録の相談等

履修登録の相談等は、教育支援課で行っていますので、学生証を持参し、相談に来てください。問い合わせ内容によっては、電話やメールではお答えできない場合があります。

また、履修登録期間に合わせて、相談期間を設けていますので、利用してください。

なお、休学、留学することで履修計画に関する不明な点がある場合は、早めに相談してください。

9 履修登録の確認

誤った授業科目が登録されていたり、履修エラーにより登録ができていなかったりすることがあります。履修登録時には必ず履修エラーがない状態で登録を完了してください。

なお、履修登録を完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管しておいてください。また、**履修登録完了後に、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間割表」に、登録した科目が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。**

10 履修登録科目の取消

履修登録し授業に出席した後に履修を中止する場合は、各学期の所定の期間に Kyoto Gaidai UNIPA の「履修登録」で、**必修科目（再履修科目・ゼミナール科目を含む）および抽選科目（全学共通科目（外国語科目）を含む）を除き、履修の取消をすることができます**（卒業年次は卒業要件を満たす範囲内）。ただし、別の授業科目の追加や、履修を取り消した授業科目を当該の学期中に再度登録することはできません。

また、履修登録科目の取消が完了すると本学発行の Gmail に「完了メール」が届きますので、メールに記載されている登録内容等を確認し、保管するとともに、Kyoto Gaidai UNIPA の「学生時間表」に、取消内容が間違いなく反映されているかを必ず確認してください。

なお、履修を取り消した授業科目は、GPA を算出する対象科目とはなりません。

11 その他の注意事項

- ・ 所定の期間以外に履修登録の追加や変更は認めません。
- ・ 履修登録を行っていない授業科目の受講・受験は認めません（履修エラーに該当する授業科目を含む）。
- ・ 同一学期の同一曜講時に複数科目の登録はできません。
- ・ 単位を修得済みの授業科目は登録できません。
- ・ 授業担当者が異なっても同一科目を複数登録することはできません。

科目区分毎の目標

グローバルスタディーズ学科

学部基幹科目		「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する課題を理解し、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を身につけることを目標とします。
専門科目	必修	持続可能な「PAX MUNDI (世界の平和)」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得することを目標とします。
	選択	卒業後の進路を見据えた3つの領域を軸に、多文化共生実現力を支える社会科学への深い理解と最新のデジタル技術の修得を目標とします。
ゼミナール科目		「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信することを目標とします。
全学共通科目	外国語科目	英語以外の外国語を学ぶことにより、グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義にもとづく多様性を養うことを目標とします。
	教養科目	広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることを目標とします。

グローバル観光学科

学部基幹科目		「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する課題を理解し、科学としての「多文化共生実現力」の基礎を身につけることを目標とします。
専門科目	必修	持続可能な「PAX MUNDI (世界の平和)」の構造を理解するための社会科学の理論と実践及びデータ科学の基礎を修得することを目標とします。
	展開	学際的な観光学の幅広い素養を育むことを目標とします。また、卒業後の進路を見据えて、データ科学を基礎とする自分と社会の利益を両立させるビジネスや最新のデジタル技術、京都の本質について、体系的に学修することを目標とします。
	選択	世界平和の構造とそれに向けた協力のあり方、まちづくりの実践や新しい観光について、科学的に学ぶことを目標とします。
ゼミナール科目		「PAX MUNDI (世界の平和)」が直面する課題に、一人ひとりが社会科学の理論と実践に裏付けられた解決策を複言語・デジタル技術というツールを用いて京都から世界に発信することを目標とします。
全学共通科目	外国語科目	外国語を学ぶことにより、グローバルに活動するための複言語運用能力を育成し、多文化への理解を深め、複文化主義にもとづく多様性を養うことを目標とします。
	教養科目	広くグローバルな舞台で活躍し得る幅広い知識と公正で的確な判断力を身につけることを目標とします。

学部基幹科目・専門科目(必修・展開・選択)・ゼミナール科目

[グローバルスタディーズ学科・4月入学者用]

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件	
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
学部基幹科目	Global Engagement	2	Global Engagement and Peace	2	Community Engagement Workshop A	2	Community Engagement Workshop B	2									16	
	Introductory Seminar A	2	Introductory Seminar B	2														
	Digital Literacy	2	Digital Citizenship and Engagement	2														
必修	Model United Nations	2	Introduction to Economics	2	Statistics	2											22	
	Academic Writing I	2	Academic Writing II	2	Writing for Research	2												
	Global Communication A (週2回授業)	4	Global Communication B (週2回授業)	4	Contemporary Global History	2												
専門科目 選択 領域	Sustainability and International Cooperation	Extensive Reading for World Knowledge	2	Gender and Society	2	Global Diplomacy Simulation	2	International Organizations	2	Human Migration and Displacement	2	Japan-US Relations	2				48	
		International Relations	2	Sustainable Development	2	Conflict Resolution	2	Political Philosophy	2	Security Studies	2	International Politics and East Asia	2					
						Energy Systems and Climate Change	2	Energy Transition for Sustainability	2	International Development Cooperation	2	International Human Rights and Humanitarian Law	2					
						Environmental Policy	2	Urban Policy	2	Topics in Sustainability and International Cooperation C	2							
	Global Business and Economics	Global Business Management	2	Financial Accounting	2	Corporate Social Responsibility	2	Business Finance	2	Global Negotiation	2	Labor, Management and Technology	2					
		Mathematics for Economics and Business	2	Business Practicum	2	Marketing	2	Organizational Management	2	International Trade	2	Economics of Development	2					
						Microeconomics	2	Macroeconomics	2	Topics in Business and Economics B	2	Topics in Business and Economics C	2					
						Topics in Business and Economics A	2	Japanese Companies and the Global Business Environment	2									
	Digital Transformation and Change Leadership	Presentation and Digital Storytelling	2	Presentation Design	2	Design Thinking	2	Video Production Workshop	2	Kyoto Video Game Industry	2	Digital Business Strategy	2					
		Digital Communication	2	Digital Design and Publishing	2	Law in the Digital Age	2	Creativity and Innovation	2	Future Technologies	2	Brand Communications	2					
						Gender and Leadership	2	Values Based Leadership	2	Topics in Digital Transformation and Leadership B	2	Topics in Digital Transformation and Leadership C	2					
						Immersive Technology Workshop	2	Game, Interaction, and Experience Design	2									
共通					Community Engagement											4		
					編入学時認定科目											1~20		
ゼミナール科目								Global Studies Seminar I	2	Global Studies Seminar II	2	Global Studies Seminar III	2	Global Studies Seminar IV	2		8	8

履修上の注意事項

学部基幹科目(必修)

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。

専門科目(必修)

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、22単位を修得してください。

②「Academic Writing II」を履修するには、「Academic Writing I」の単位を修得しておく必要があります。

③「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。

専門科目(選択)

①配当年次に従い、3つの領域から選択して履修し、計48単位を修得してください。

②「Community Engagement」は、グローバルスタディーズ学科が認めた活動を行った場合に単位認定する科目です。「Community Engagement」の種類・内容等については、詳細が決まり次第、お知らせします。

③グローバル観光学科生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目

①グローバルスタディーズ学科生は、上記のゼミを履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、I・II・III・IVのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。

③ゼミIIを履修するには、当該ゼミのIの単位を、IIIを履修するにはIIの単位を、IVを履修するにはIIIの単位を修得しておく必要があります。

④ゼミI～IVはすべて春・秋学期に開講します。

⑤ゼミIVでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミIVの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

[グローバルスタディーズ学科・9月入学者用] ※秋学期から始まります。

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件	
	秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		各区分	合計
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
学部基幹科目	Global Engagement and Peace	2	Global Engagement	2	Community Engagement Workshop B	2	Community Engagement Workshop A	2									16	
	Introductory Seminar B	2	Introductory Seminar A	2														
	Digital Citizenship and Engagement	2	Digital Literacy	2														
必修	Introduction to Economics	2	Model United Nations	2			Statistics	2									22	
	Academic Writing I	2	Academic Writing II	2	Writing for Research	2												
	Global Communication B (週2回授業)	4	Global Communication A (週2回授業)	4			Contemporary Global History	2										
専門科目 選択 領域	Sustainability and International Cooperation	Gender and Society	2	Extensive Reading for World Knowledge	2	International Organizations	2	Global Diplomacy Simulation	2	Japan-US Relations	2	Human Migration and Displacement	2				48	
		Sustainable Development	2	International Relations	2	Political Philosophy	2	Conflict Resolution	2	International Politics and East Asia	2	Security Studies	2					
						Energy Transition for Sustainability	2	Energy Systems and Climate Change	2	International Human Rights and Humanitarian Law	2	International Development Cooperation	2					
						Urban Policy	2	Environmental Policy	2			Topics in Sustainability and International Cooperation C	2					
	Global Business and Economics	Financial Accounting	2	Global Business Management	2	Business Finance	2	Corporate Social Responsibility	2	Labor, Management and Technology	2	Global Negotiation	2					
		Business Practicum	2	Mathematics for Economics and Business	2	Organizational Management	2	Marketing	2	Economics of Development	2	International Trade	2					
						Macroeconomics	2	Microeconomics	2	Topics in Business and Economics C	2	Topics in Business and Economics B	2					
						Japanese Companies and the Global Business Environment	2	Topics in Business and Economics A	2									
	Digital Transformation and Change Leadership	Presentation Design	2	Presentation and Digital Storytelling	2	Video Production Workshop	2	Design Thinking	2	Digital Business Strategy	2	Kyoto Video Game Industry	2					
		Digital Design and Publishing	2	Digital Communication	2	Creativity and Innovation	2	Law in the Digital Age	2	Brand Communications	2	Future Technologies	2					
						Values Based Leadership	2	Gender and Leadership	2	Topics in Digital Transformation and Leadership C	2	Topics in Digital Transformation and Leadership B	2					
						Game, Interaction, and Experience Design	2	Immersive Technology Workshop	2									
共通						Topics in Digital Transformation and Leadership A	2											
ゼミナール科目				Community Engagement												4		
								Global Studies Seminar I	2	Global Studies Seminar II	2	Global Studies Seminar III	2	Global Studies Seminar IV	2		8	8

履修上の注意事項

学部基幹科目(必修)

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。

専門科目(必修)

①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、22単位を修得してください。

②「Academic Writing II」を履修するには、「Academic Writing I」の単位を修得しておく必要があります。

※「Academic Writing I」「Academic Writing II」「Writing for Research」は、9月入学者用の科目を履修してください。

③「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。

専門科目(選択)

①配当年次に従い、3つの領域から選択して履修し、計48単位を修得してください。

②「Community Engagement」は、グローバルスタディーズ学科が認めた活動を行った場合に単位認定する科目です。「Community Engagement」の種類・内容等については、詳細が決まり次第、お知らせします。

③グローバル観光学科生が履修を希望する場合は、「4月入学者用」の配当年次を参照し、履修してください。ただし、修得した単位は自由選択に算入されます。

ゼミナール科目

①グローバルスタディーズ学科生は、上記のゼミを履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。

②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、I・II・III・IVのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。

③ゼミIIを履修するには、当該ゼミのIの単位を、IIIを履修するにはIIの単位を、IVを履修するにはIIIの単位を修得しておく必要があります。

④ゼミI～IVはすべて春・秋学期に開講します。

⑤ゼミIVでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミIVの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。

【グローバル観光学科】

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件	
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		各区分	合計
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
学部基幹科目	Global Engagement	2	Global Engagement and Peace	2	Community Engagement Workshop A	2	Community Engagement Workshop B	2									16	
	Introductory Seminar A	2	Introductory Seminar B	2														
	Digital Literacy	2	Digital Citizenship and Engagement	2														
専門科目	必修	社会学	2	フィールドワーク論	2	観光関連法規概論	2										28	
		データ科学Ⅰ	2	データ科学Ⅱ	2	観光メディア概論	2											
		京都の文化と歴史Ⅰ	2	京都の文化と歴史Ⅱ	2	観光経営概論	2											
		経営学	2	会計学	2	行動科学	2											
		観光学A	2	経済学	2													
	展開	歴史学	2	観光学B	2	京都文化特論Ⅰ	2	京都文化特論Ⅱ	2	京都実地踏査論	2	京都世相研究(PBL)	2				28	86
		地理学	2	社会情報学	2	ジェンダー論	2	観光マーケティング論	2	デジタルアーカイブ論	2	現代京都論	2					
				文化人類学	2	Immersive Technology Workshop	2	観光行政学	2	観光組織行動論	2							
				哲学	2			Game, Interaction, and Experience Design	2	グローバルツーリズム論	2							
										サスティナブルツーリズム	2							
										観光ビジネス心理	2							
	選択					公共政策論	2	国際貢献論	2	旅行事業論	2	宿泊事業論	2				14	
								観光まちづくり論	2	観光まちづくり実践(PBL)	2	ニューツーリズムB	2					
										ニューツーリズムA	2							
										Presentation Skills for Tourism	2							
ゼミナール科目	日本語を母語とする学生用	Basic English for Tourism	2	Reading for Tourism	2	Business Writing for Tourism	2	Communication Skills for Tourism	2								8	8
	日本語を母語としない学生用				社会科学のための日本語A	2	社会科学のための日本語B	2	社会科学のための日本語C	2	社会科学のための日本語D	2						
										専門ゼミⅠ	2	専門ゼミⅡ	2	専門ゼミⅢ	2	専門ゼミⅣ		

履修上の注意事項

- | | | | |
|---|--|--|---|
| <p>学部基幹科目(必修)</p> <p>①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、16単位を修得してください。</p> <p>専門科目(必修)</p> <p>①配当年次に従い、すべての授業科目を履修し、28単位を修得してください。</p> <p>②「データ科学Ⅱ」を履修するには、「データ科学Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。</p> <p>③「京都の文化と歴史Ⅱ」を履修するには、「京都の文化と歴史Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。</p> | <p>専門科目(展開)</p> <p>①配当年次に従い、選択して履修し、計28単位を修得してください。</p> <p>②「京都文化特論Ⅱ」を履修するには、「京都文化特論Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。</p> <p>③グローバルスタディーズ学科生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。</p> | <p>専門科目(選択)</p> <p>①配当年次に従い、選択して履修し、計14単位を修得してください。</p> <p>②「Basic English for Tourism」「Reading for Tourism」「Business Writing for Tourism」「Communication Skills for Tourism」は、日本語を母語とする人を履修対象者とし、クラス(担当者)を指定します。</p> <p>③「社会科学のための日本語A」「社会科学のための日本語B」「社会科学のための日本語C」「社会科学のための日本語D」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した国際貢献学部「日本語を母語としない学生」を履修対象者としてします。</p> <p>④「Presentation Skills for Tourism」を履修するには、GTEC(LR)270点以上、または、TOEIC(L&R)480点以上が必要です。</p> <p>⑤「Community Engagement」は、グローバル観光学科が認めた活動を行った場合に単位認定する科目です。「Community Engagement」の種類・内容等については、詳細が決まり次第、お知らせします。</p> | <p>⑥グローバルスタディーズ学科生も履修できますが、修得した単位は自由選択に算入されます。</p> <p>ゼミナール科目</p> <p>①グローバル観光学科生は、上記のゼミを履修してください。ゼミは、研究指導の関係から受講者数の調整を行うため、2年次秋学期に希望ゼミを受け付けし、選考を行います。</p> <p>②選考の結果、決定したゼミは、配当年次に従い、Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳのすべての科目を履修し、8単位を修得してください。</p> <p>③ゼミⅡを履修するには、当該ゼミのⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。</p> <p>④ゼミⅠ～Ⅳはすべて春・秋学期に開講します。</p> <p>⑤ゼミⅣでは、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を提出しなければなりません。ゼミⅣの成績評価は、卒業選択(卒業論文または卒業研究)を含めて行います。</p> |
|---|--|--|---|

I 本学の概要
II 学修のしくみを知りて入学しよう
III 京都外国語大学 単位修得要領
外国語学部
国際貢献学部
各種プログラム制度等
資格取得情報

全学共通科目 (外国語科目)

[外国語学部・国際貢献学部 共通]

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				卒業要件 合計
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	
全学共通科目 (外国語科目)			英語Ⅰ(週2回授業)	4	英語Ⅰ(週2回授業)	4	英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2					4
					英語Ⅱ	2	英語Ⅲ	2	英語Ⅳ	2							
			スペイン語Ⅰ(週2回授業)	4	スペイン語Ⅰ(週2回授業)	4	スペイン語Ⅱ	2									
					スペイン語Ⅱ	2											
			フランス語Ⅰ(週2回授業)	4	フランス語Ⅰ(週2回授業)	4	フランス語Ⅱ	2									
					フランス語Ⅱ	2											
			ドイツ語Ⅰ(週2回授業)	4	ドイツ語Ⅰ(週2回授業)	4	ドイツ語Ⅱ	2									
					ドイツ語Ⅱ	2											
			ポルトガル語Ⅰ(週2回授業)	4	ポルトガル語Ⅰ(週2回授業)	4	ポルトガル語Ⅱ	2									
					ポルトガル語Ⅱ	2											
			中国語Ⅰ(週2回授業)	4	中国語Ⅰ(週2回授業)	4	中国語Ⅱ	2									
					中国語Ⅱ	2											
			イタリア語Ⅰ(週2回授業)	4	イタリア語Ⅰ(週2回授業)	4	イタリア語Ⅱ	2									
					イタリア語Ⅱ	2											
		ロシア語Ⅰ(週2回授業)	4	ロシア語Ⅰ(週2回授業)	4	ロシア語Ⅱ	2										
				ロシア語Ⅱ	2												
		コリア語Ⅰ(週2回授業)	4	コリア語Ⅰ(週2回授業)	4	コリア語Ⅱ	2										
				コリア語Ⅱ	2												
日本語を母語としない学生用	日本語A(週2回授業)	4	日本語A(週2回授業)	4													
	日本語B(週2回授業)	4	日本語B(週2回授業)	4													
	日本語C(週2回授業)	4	日本語C(週2回授業)	4													
	日本語D(週2回授業)	4	日本語D(週2回授業)	4													
	日本語E(週2回授業)	4	日本語E(週2回授業)	4													
	日本語F(週2回授業)	4	日本語F(週2回授業)	4													
	日本語G(週2回授業)	4	日本語G(週2回授業)	4													
	日本語J(週2回授業)	4															

履修上の注意事項

- ① グローバルスタディーズ学科生は「英語」および母語以外の言語を選択し、また、グローバル観光学科生は母語以外の言語を選択し、配当年次に従い、4単位を修得してください。ただし、「日本語A～J」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者としてします。また、「日本語J」は日本語学科生のみを履修対象者としてします。
- ② 1年次生は春学期の所定の期間に履修を希望する言語の申請を行ってください。抽選のうえ、クラス(担当者)を指定します。2年次以降も、学期ごとに異なる言語の履修希望を申請することもできます。ただし、「日本語A～J」については、上記①の学生を対象に、レベルに応じて、1年次春学期に履修するクラス(担当者)を指定しますので、指定された人は必ず履修してください。
- ③ 「週2回授業」は必ず2回とも履修してください。
- ④ 「英語Ⅱ」を履修するには、「英語Ⅰ」の単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。
- ⑤ 「スペイン語Ⅱ」を履修するには、「スペイン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑥ 「フランス語Ⅱ」を履修するには、「フランス語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑦ 「ドイツ語Ⅱ」を履修するには、「ドイツ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑧ 「ポルトガル語Ⅱ」を履修するには、「ポルトガル語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑨ 「中国語Ⅱ」を履修するには、「中国語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑩ 「イタリア語Ⅱ」を履修するには、「イタリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑪ 「ロシア語Ⅱ」を履修するには、「ロシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑫ 「コリア語Ⅱ」を履修するには、「コリア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑬ 「日本語G」「日本語H」「日本語J」を除く授業科目はすべて春・秋学期に開講します。

全学共通科目 (教養科目)

[外国語学部・国際貢献学部 共通]

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次					
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期			
領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
全学共通科目 (教養科目)	ビジネス・ キャリア	キャリアベーシック	2			キャリア形成A	2	キャリア形成B	2	コミュニティ通訳特論Ⅰ	2	コミュニティ通訳特論Ⅱ(英語)	2					
				経営学入門	2	経営学応用A	2	経営学応用B	2			コミュニティ通訳特論Ⅱ(ポルトガル語)	2					
				経済学入門	2	経済学応用	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ(中国語)	2					
				会計学入門	2	特殊研究B(企業からの寄付講座)	2					コミュニティ通訳特論Ⅱ(ロシア語)	2					
				Basic Business Administration	2	Applied Business Administration	2											
				Basic Economics	2	Applied Economics	2											
	サイエンス・ テクノロジー			環境論A	2	環境論B	2											
				メディア論	2	メディアリテラシー論	2											
				情報技術の実践	2	防災の科学	2											
				キャリアのための数学入門	2	数的理解	2											
				データ科学入門	2	データ科学応用	2											
						Environmental Issues	2	Media in Japan	2	Advanced Topics in Emerging Technology	2							
	教育		生涯学習概論	2	青少年の行動と心理	2	コミュニケーションの心理	2	臨床心理学	2								
			多文化理解と人権	2	多文化理解と人権	2	コーチングの理論	2	コーチングの実践	2								
			人権と教育	2	人権と教育	2	リーダーシップ概論	2	教育の課題	2								
	政治・平和			国際関係論入門	2	国際関係論応用	2	国際平和協力論	2									
				政治学入門	2	政治学応用	2	国際法	2									
				法学入門	2	言語政策	2	平和・安全保障論	2									
				日本国憲法	2	国際連合論	2											
						模擬国連会議(PBL)	2											
						言語と平和B	2	グローバル化とジェンダー	2									
	京都・日本			多文化間コミュニケーション	2	比較文化論	2	特殊研究C(地域連携研究)	2									
			京都文化論A	2	京都文化論B	2	京都の伝統文化A	2	京都の伝統文化B	2								
			Japanese Geography	2	Japanese History and Culture	2	Current Kyoto and Tradition	2	Destination Kyoto	2								
					Japanese Philosophy	2	Religions in Japan	2										
					Japan Pop Cultures	2	Japan seen through Animations	2										
					もっと京都プロジェクトA	2	もっと京都プロジェクトB	2										
国際社会		世界の歴史と文化A-1 (日本、アジア、アフリカ、オセアニア)	2	世界の歴史と文化A-2 (日本、アジア、アフリカ、オセアニア)	2	世界の歴史と文化B-1 (ヨーロッパ、南北アメリカ)	2	世界の歴史と文化B-2 (ヨーロッパ、南北アメリカ)	2									
				特殊研究A(異文化理解研究)	2	特殊研究D(グローバル研究)	2	世界文化と多様性	2									
					Intercultural Communication in Practice A	2	Intercultural Communication in Practice B	2										

科目区分	1年次				2年次				3年次				4年次				
	春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		春学期		秋学期		
	領域	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位	授業科目	単位		
全学共通科目 (教養科目)	言語	言語の仕組み	2	言語の成り立ち	2			日英対照言語学	2								
				音声学入門	2			日中対照言語学	2								
		日本語学入門A	2	日本語学入門B	2			バイリンガルの言語形成	2								
		日本語教育入門A	2	日本語教育入門B	2	2言語同時学習(ES)A	2	2言語同時学習(ES)B	2								
						2言語同時学習(EF)A	2	2言語同時学習(EF)B	2								
						2言語同時学習(EG)A	2	2言語同時学習(EG)B	2								
						2言語同時学習(EP)A	2	2言語同時学習(EP)B	2								
						2言語同時学習(EC)A	2	2言語同時学習(EC)B	2								
						2言語同時学習(EI)A	2	2言語同時学習(EI)B	2								
						2言語同時学習(ER)A	2	2言語同時学習(ER)B	2								
						アラビア語Ⅰ	2	アラビア語Ⅱ	2								
						インド語Ⅰ	2	インド語Ⅱ	2								
						インドネシア語Ⅰ	2	インドネシア語Ⅱ	2								
						オランダ語Ⅰ	2	オランダ語Ⅱ	2								
						ギリシア語Ⅰ	2	ギリシア語Ⅱ	2								
						スワヒリ語Ⅰ	2	スワヒリ語Ⅱ	2								
						タイ語Ⅰ	2	タイ語Ⅱ	2								
						トルコ語Ⅰ	2	トルコ語Ⅱ	2								
						ベトナム語Ⅰ	2	ベトナム語Ⅱ	2								
						ラテン語Ⅰ	2	ラテン語Ⅱ	2								
						日本語のスキルA	2	日本語のスキルE	2								
						日本語のスキルB	2	日本語のスキルF	2								
						日本語のスキルC	2	日本語のスキルG	2								
						日本語のスキルD	2	日本語のスキルH	2								
		日本語を 母語としない 学生用			ビジネス日本語A	2	ビジネス日本語B	2									
					日本語能力試験N1対策A	2	日本語能力試験N1対策B	2									
		人文	現代社会の見方	2	現代文化論	2	哲学A	2	哲学B	2							
			地理学入門	2	宗教学入門	2	美学芸術学	2	倫理学	2							
							考古学	2	ミュージアムマネジメント(PBL)	2							
							人類学	2	美術史	2							
		スポーツ	健康科学の実践と理論	2	健康科学の実践と理論	2	テクニカルスポーツA	2	テクニカルスポーツB	2							
							スポーツと国際交流	2	スポーツ政策	2	スポーツとまちづくり(PBL)	2					
							シーズンスポーツ	2	シーズンスポーツ	2							
		共通	科目等履修科目														1~12
			国内・海外留学認定科目(英米語学科通常コース、スペイン語学科、フランス語学科、ドイツ語学科、ブラジルポルトガル語学科、中国語学科、日本語学科、イタリア語学科、ロシア語学科、グローバルスタディーズ学科、グローバル観光学科)														1~48
			国内・海外留学認定科目(英米語学科ダイヤモンドコース)														1~48
			編入学時認定科目														1~28
			短期留学														1~4
			キャリア形成支援プログラム														1~4
			E-Learning (Tutorial Studies)														1
			大学コンソーシアム京都科目														1~12
			教育支援活動														1~2
			外国語技能検定試験(専攻語以外)														2
		情報処理検定試験														2	

履修上の注意事項

①「コミュニティ通訳特論Ⅱ」を履修するには、「コミュニティ通訳特論Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。また、「コミュニティ通訳特論Ⅱ(英語)」を履修するには英米語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ(ポルトガル語)」を履修するにはブラジルポルトガル語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、「コミュニティ通訳特論Ⅱ(中国語)」を履修するには中国語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を、それぞれ満たしておく必要があります。「コミュニティ通訳特論Ⅱ(ロシア語)」については、ロシア語学科生は「総合ロシア語Ⅱ」の単位修得、ロシア語学科以外の学科の学生は「ロシア語能力検定試験2級」を取得し、ロシア語学科の選択科目におけるアドバンスト科目の履修基準を満たしておく必要があります。

- ②「アラビア語Ⅱ」を履修するには、「アラビア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ③「インド語Ⅱ」を履修するには、「インド語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ④「インドネシア語Ⅱ」を履修するには、「インドネシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑤「オランダ語Ⅱ」を履修するには、「オランダ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

- ⑥「ギリシア語Ⅱ」を履修するには、「ギリシア語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑦「スワヒリ語Ⅱ」を履修するには、「スワヒリ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑧「タイ語Ⅱ」を履修するには、「タイ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑨「トルコ語Ⅱ」を履修するには、「トルコ語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑩「ベトナム語Ⅱ」を履修するには、「ベトナム語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。
- ⑪「ラテン語Ⅱ」を履修するには、「ラテン語Ⅰ」の単位を修得しておく必要があります。

- ⑫「ビジネス日本語A」「ビジネス日本語B」「日本語能力試験N1対策A」「日本語能力試験N1対策B」は、本学が指定する「日本語能力診断テスト」の結果により、日本語運用能力の向上が必要であると本学が判断した「日本語を母語としない学生」を履修対象者としてします。
- ⑬「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料:認定科目)」で修得した単位は、合わせて4単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。
- ⑭「テクニカルスポーツA・B」「シーズンスポーツ(有料:認定科目)」を履修するには、「健康科学の実践と理論」の単位を修得しておく必要があります。

ゼミナール科目

【ゼミナール科目とは】

国際貢献学部では、ディプロマポリシーに掲げる「多様な言語及びデジタル技術の高度な運用能力を身につけ、グローバル社会で活躍するにふさわしい見識、幅広い視野並びに長期的な洞察に基づいて意思決定と行動ができる能力を身につけ、世界の平和に貢献できる素地を備えた人材を育成」という理念のもと、4年間での学修の集大成としてゼミナール科目（必修）を設置しています。

ゼミナール科目では、3年次から2年間、担当教員の指導およびゼミ生同士の共同作業を通じて、自らの関心がある学問分野における専門知識や研究方法等の理解を深め、最終的には自ら設定した研究テーマにもとづく卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を完成させます。具体的には、文献講読や資料の精読、情報収集、調査、分析、フィールドワーク等を行い、研究報告や他のゼミ生との討論を重ねるなど、より質の高い卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を目指します。

したがって、1年次から、いずれどのようなゼミに入り、いかなる研究テーマを設定するかをイメージしつつ、4年間の学びの計画を立てることが重要です。そして、積極的にゼミの活動に参加していく姿勢が強く求められます。

これらのゼミでの活動を通じて、ディプロマポリシーに掲げる①社会科学の素養に基づく、高度な語学力とデジタル技術運用能力、②社会性、対人関係の向上に資するコミュニケーション力、③京都を中心とした日本及び世界各国の社会と文化の理解に基づく多文化共生実現力など、社会で活躍するうえで役立つ様々な能力を養い、将来豊かな人生を送るための糧とします。

なお、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は、「〇〇ゼミⅣ」の授業と一体的に評価をします。

【履修するゼミの選考・登録の流れ】

国際貢献学部を卒業するためには、所属学科のゼミナール科目のⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを履修して単位を修得し、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）作成に必要な研究指導を受け、卒業論文または卒業研究を提出し、合格しなければなりません。

ゼミナール科目は3年次から登録しますが、研究指導に適正な人数を保つために選考を行いますので、以下のとおり手続きを行ってください。

※ゼミナール科目は3年次から配当されているため、選考は2年次で行います。

選考の対象は、休学・留学中の学生を含むすべての2年次生です。

2年次	9～10月	各ゼミの内容を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で確認し、所定の期間に志望ゼミを申請してください。志望者が多いゼミについては、志望理由の内容や面談等により選考を行います。 ※ゼミ選考のスケジュール等の詳細については、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。
	12～1月	選考結果を Kyoto Gaidai UNIPA の「ゼミ申請システム」で発表します。
3年次	4月	発表内容に従いゼミを履修登録してください。

ゼミナール科目履修上の注意

・選考後はゼミの変更はできません。ゼミはⅠ→Ⅱ→Ⅲ→Ⅳの順に履修し、単位を修得してください。Ⅱを履修するにはⅠの単位を、Ⅲを履修するにはⅡの単位を、Ⅳを履修するにはⅢの単位を修得しておく必要があります。

なお、ゼミⅠ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳは、春学期・秋学期の各学期に開講します。

・所定のゼミ申請を行わずゼミが決まっていない人は、履修登録開始日までに教育支援課へ申し出てください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格】

ゼミⅣを履修している場合は、当該学期の卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出資格がありますので、所定の期間に提出してください。

< 留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）の場合 >

ゼミⅣを履修する学期に留学（派遣留学・認定留学・国内交換留学）をする場合においても、留学中に担当教員から指導を受けたうえで、所定の期間に卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出することができます。

なお、ゼミⅣの単位については、担当教員が提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価を「合格」とした場合に限り認定します。

したがって、留学中も必ずゼミ担当者と連絡をとり指導を受けてください。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出期間】

3月卒業	12月13日～20日
9月卒業	7月 1日～20日

※提出期限が日・祝日の場合は翌日を期限とします。

※提出期限に遅れた場合は受け付けません。ただし、特別な理由（追試験に相当する理由）がある場合は、以下のとおり期限を延長する場合があります。なお、手続きは追試験に準じます。

（延長が認められた場合の提出期日）

3月卒業	翌年の1月15日
9月卒業	8月5日

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の提出方法】

Kyoto Gaidai UNIPA の「マイステップ登録」で、成果物ファイルをアップロードしてください。詳細は、3月卒業予定者へは11月に、9月卒業予定者へは6月に、Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）作成にあたっての注意事項】

(1) 提出期日等を厳守すること

所定の期日までに所定の提出方法により提出しなければなりません。表紙等の体裁や文字数等は、学生便覧記載の「様式」を参照してください。

(2) 提出前にゼミ担当教員の指導を受けること

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）のテーマは、担当教員と相談のうえ決定し、変更する場合も事前に相談しなければなりません。また、担当教員の指示にもとづき、研究計画書の提出や中間・完成報告等が必要となります。

ゼミ担当教員の指導を経ずに提出された卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は評価の対象となりません。また、ゼミの欠席が著しく多い人や担当教員の指導や指示に従わない人が提出した場合も評価の対象とならない可能性があります。

なお、卒業論文は論文形式をとる成果物、卒業研究は論文形式をとらない成果物ですが、それぞれの様式にしたがって作成してください。

(3) 剽窃行為はしないこと

剽窃（盗用）行為が判明した場合、卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は失格となり、また、原則として当該学期の全受講科目の成績評価を失格とします。そのほか、参考文献の引用方法等については、担当教員の指示にしたがってください。

(4) 卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）を提出しても必ず合格とはならないこと

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）は提出すれば必ず単位を修得できるというわけではありません。合格の水準に達していなければ不合格となります。

【卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準】

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価・評価基準は以下のとおりとします。

(1) 卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価

① 卒業論文の評価

論文審査および口述試問により評価します。

② 卒業研究の評価

中間報告（発表）、卒業研究および口頭発表により評価します。

(2) 評価基準

卒業選択（卒業論文 / 卒業研究）の評価にあたっては、以下の項目を基準とします。

① テーマの設定および研究方法が先行研究を踏まえている。

② 研究資料およびデータが的確に収集・処理されている。

③ 研究資料およびデータの分析・解釈が的確であり、かつ、表現・表記が論理的に展開し、論旨に明確性と一貫性がある。

グローバルスタディーズ学科

① 卒業論文【様式】

1. 本文の使用言語
英語
2. 本文の書式
パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。20枚以上とします。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの 文字数等	1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、 Times New Romanの12ポイント26行に設定。

3. ファイルの順序
以下の順序で一つのファイルにして提出してください。
 - ①**卒業論文題目**
30ワード以内での作成してください。
 - ②**内題・検索用キーワード**
内題は250ワード以内、キーワードを5つ記載してください。
 - ③**論文要旨**
担当教員の指示に従ってください。
 - ④**目次**
担当教員の指示に従ってください。
 - ⑤**本文**
 - ⑥**文献リスト・資料**

② 卒業研究【様式】

1. 本文の使用言語
英語
2. 本文の書式
パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。5枚以上とします。
また、例外的にレポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し許可を得てください。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの 文字数等	1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、 Times New Romanの12ポイント26行に設定。 *図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイント程度に設定。

3. ファイルの順序
以下の順序で一つのファイルにして提出してください。
 - ①**卒業研究表紙**（授業科目名、担当教員名、氏名、学籍番号）
 - ②**卒業研究タイトル・概要・キーワード**
パソコンを使用し、英語（タイトルは30ワード以内、概要は250ワード以内、キーワードは5つ）での作成してください。
 - ③**本文**

グローバル観光学科

① 卒業論文【様式】

1. 本文の使用言語
日本語または英語

2. 本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。文字数は担当教員の指示にしたがってください。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの 文字数等	英語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、Times New Romanの12ポイント26行に設定。 日本語では、10.5または11ポイントの文字の大きさと、1枚につき1行40字（アルファベットは半角80字）30行で、横書きに設定。

3. ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

① 卒業論文題目

② 内題・検索用キーワード

③ 論文要旨

パソコンを使用し、日本語（A4用紙1～2枚・800～1,200字）での作成してください。

④ 目次

⑤ 本文

⑥ 文献リスト・資料

② 卒業研究【様式】

1. 本文の使用言語
日本語または英語

2. 本文の書式

パソコンを使用し、以下のとおり設定してください。文字数は担当教員の指示にしたがってください。

また、例外的にレポート形式以外で卒業研究を提出する場合は、事前に担当教員に相談し許可を得てください。

判の大きさ	A4判
1枚あたりの 文字数等	日本語では、10.5または11ポイントの文字の大きさと、1枚につき1行40字（アルファベットは半角80字）30行で、横書きに設定。 英語では、1枚につき上下左右のマージンは、3cmを目安にし、Times New Romanの12ポイント26行に設定。 *図表や写真を組み入れる場合は、図表に記述される文字を、本文と同一ポイント程度に設定。

3. ファイルの順序

以下の順序で一つのファイルにして提出してください。

① 卒業研究表紙（授業科目名、担当教員名、氏名、学籍番号）

② 卒業研究タイトル・概要・キーワード

パソコンを使用し、日本語（タイトルは40字以内、概要は400字以内、キーワードは5つ）での作成してください。

③ 本文

全学共通科目 (教養科目) のスポーツ

健康科学の実践と理論



スポーツの実践と講義をとおして身体運動能力や協調性を養い、健康の保持・増進に関する諸問題を学ぶことにより、良好な社会生活を営む力を身につけることを目標としています。授業は、実技種目・講義を行い、1週目の授業は、授業概要説明を行いますので必ず出席してください。詳しくは、シラバスを参照してください。

① 実技種目	バレーボール、バスケットボール、テニス、卓球、バドミントン、サッカー、フットサル、ニュースポーツ (9週実施)
② 講義	「講義概要説明」・「競技種目の理解」・「障害、外傷」・「スポーツ社会学」・「スポーツ生理学」・「測定と評価」・「まとめ」(5週実施)

・本学が行う定期健康診断は、授業の一環として扱いますので、必ず受診してください。



テクニカルスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、より高いスポーツ技術の習得、戦術の理解、ゲームの運営や分析について学び、試合や大会の企画・運営ができる能力を各学習段階に応じて習得するコースです。1週目の授業は、授業概要説明を行いますので必ず出席してください。また、種目の詳細はシラバスで確認してください。

なお、「テクニカルスポーツ A・B」「シーズンスポーツ (有料:認定科目)」で修得した単位は、合わせて4単位までを全学共通科目の卒業に必要な単位に算入します。

※ユニバーサルスポーツについて

ペタンク、ターゲットバードゴルフ、グランドゴルフ、ソフトバレーボール、ファミリーバドミントン、ユニホック、ゴールボール、卓球バレー、サウンドテーブルテニス、車いすバスケットボールのルール理解と実践を行います。



シーズンスポーツ

「健康科学の実践と理論」の単位修得者を対象に、学外施設を使用した野外活動 (集中実技授業) を実施する認定科目です (有料)。

なお、UNIPAの「掲示板」等でオリエンテーションの日時と場所をお知らせしますので、参加希望者は必ず出席してください。

種目名	時期	場所	期間	費用
マリンスポーツ	8月下旬	沖縄県恩納村	4日間	82,000円(予定) ※別途、交通費が必要
スノースポーツ	2月上旬	長野県栂池高原	5日間	55,000円(予定) ※別途、交通費が必要

※シーズンスポーツは単位認定科目です。

※テクニカルスポーツ A (2単位) およびテクニカルスポーツ B (2単位) の単位を既に修得している場合は、卒業要件外での単位認定となります。

国際貢献学部のお他学科の授業科目の履修

グローバルスタディーズ学科の人はグローバル観光学科の専門科目 (展開および選択) を、グローバル観光学科の人はグローバルスタディーズ学科の専門科目 (選択) を配当年次に従って履修することができ、修得した単位は自由選択に算入されます。ただし、履修条件が定められている授業科目を履修するには、当該履修条件を満たしておかなければなりません。

また、抽選等で受講者を制限する場合は、当該授業科目が配当されている学科生を優先します。

なお、外国語学部に配当している授業科目は履修できません。

各種プログラム・ 制度等

I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程



コミュニティ通訳者育成プログラム

<学部生対象>

このプログラムは、言語の障壁があるために公的サービスにアクセスできない移民（外国人住民）を支援する「コミュニティ通訳者」の育成を図るものです。本学では、コミュニティ通訳に関する専門科目（英語・ポルトガル語・中国語・ロシア語）を設置しており、一定の条件を満たした場合、国際規格『ISO13611：2014 通訳-コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書を卒業時に授与します。

なお、このプログラムに参加する場合は、所定の登録手続きが必要です。

【コミュニティ通訳とは】

国際規格では「コミュニティ利用の目的で、コミュニケーションの場面において異なる言語の話者間で起こる双方向の通訳」と定義され、観光客や被災者への通訳行為も含まれています。

主な活動としては、国内で医療、教育、社会福祉、行政、司法などの公的なサービスを提供する専門家と移民（外国人住民）を対象に、通訳者としてその間に入り、二者間で行われる対話コミュニケーションを両者の言語へ変換します。国際会議などで演説やスピーチを対象言語に変換する会議通訳とは異なります。

【国際規格『ISO13611：2014 通訳-コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書とは】

この認証書は世界中のISO加盟国で通用するもので、国際的な人材登録制度を利用する場合はボーダーレスなグローバルコールにも対応できる人材であるとの証明となります。

※本認証は個人が取得する認証です。また、有効期限は3年で、継続するには更新審査を必要とします。

対象者	正規の学部生
登録	2年次秋学期の所定の期間に登録してください。 ※登録に関する詳細は、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。
登録書類	①登録用紙（所定用紙） ②英語・ポルトガル語・中国語・ロシア語の語学検定試験のスコア等のコピー ※アドバンスレベルの各語学検定試験のスコア等は83ページで確認ください。
修了要件	次のすべてを満たすこと ①認証書交付申請書のためのオリエンテーションに参加すること ②「コミュニティ通訳特論ⅠおよびⅡ（計4単位）」の単位を修得すること ・「コミュニティ通訳特論Ⅰ（2単位）」：全学共通科目（教養科目）3年次春学期配当 ・「コミュニティ通訳特論Ⅱ（2単位）」：全学共通科目（教養科目）3年次秋学期配当 ③適正テスト（オンライン・90分）に合格すること 言語能力合格証：総合評価A（CEFR:B2相当）以上 ④本学が認める通訳業務等に伴う証明書を提出すること ※①のオリエンテーションに関する詳細は、登録者を対象にKyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。
認証書	上記の修了要件を満たした学生を対象に、国際規格『ISO13611：2014 通訳-コミュニティ通訳のためのガイドライン』認証書を卒業時に授与します。

※プログラムの詳細は、オリエンテーションで説明します。

もっと京都プロジェクトA・B

2025年度実施にむけて準備中です。詳細については、決まり次第、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」等でお知らせします。

Community Engagement

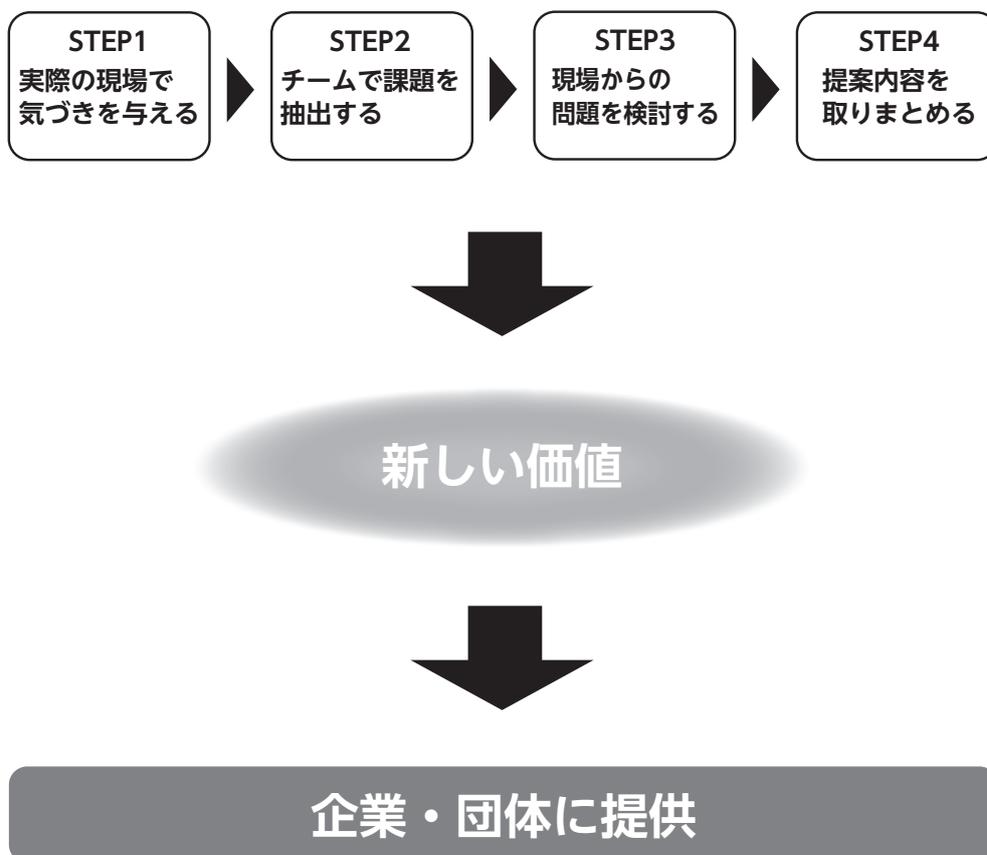
<国際貢献学部生対象>

2025年度実施にむけて準備中です。詳細については、決まり次第、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」等でお知らせします。

PBL科目

PBL (Project-Based Learning) とは、「実社会の課題」を生きた教材として取り入れ、課題解決に取り組む学びのスタイルです。本学のPBLでは、企業や団体等から与えられた課題に対し、学生各自が主体的に解決方法を考えることで、マーケティング力やプレゼンテーション力などを培います。授業は、グループワークを中心に進め、自己をアピールする力とともに協調性も養成し、将来社会で必要とされる多様な能力を身につけることができます。また、国際社会で活躍できるグローバル人材を育成するため、留学生と協働する体験型の科目を開講しているのも本学の特徴の一つです。本学で開講するPBLは科目名称の後に(PBL)を付記しています。

課題解決型学習プロセス



国内交換留学

<英米語学科ダイヤモンドコースを除く>

国内交換留学とは、本学と国内交換留学協定を締結している神田外語大学と長崎外国語大学へ学内選考のうえ、学生を春学期から1学期間または2学期間派遣する制度です。

出願資格等の選考試験についての詳細は、本学ホームページで確認してください。

なお、留学先大学で修得した単位は、1学期間の場合26単位、2学期間の場合48単位を上限として本学の科目区分に準じて認定します。

単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(41ページ)を参照してください。

科目等履修生制度

科目等履修生制度とは、以下のとおり所属している学部学科の正規課程以外の授業科目を履修できる制度です。科目等履修生制度で修得した単位は、本人の申請に基づき以下のとおり認定します。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(41 ページ) を参照してください。なお、出願の時期や履修可能な授業科目等の詳細は、学期初めに行うオリエンテーションで説明します。

内 容	単位認定	選考料	登録料	履修料
① 京都外国語短期大学の授業科目が履修できる制度	全学共通科目(教養科目)「科目等履修科目」として12単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入(ただし、グローバルスタディーズ学科は、全学共通科目(教養科目)の卒業要件単位(8単位)を超えて修得した単位数を自由選択に算入)	—	1,000円	週1回授業 1科目 2,000円 ----- 週2回授業 1科目 4,000円
② 本学の大学院への進学希望者4年次生を対象に、大学院の授業科目が履修できる制度	博士前期課程進学後に、10単位を上限に入学前の既修得単位として認定	10,000円	10,000円	1単位 16,500円

大学コンソーシアム京都の単位互換制度

「大学コンソーシアム京都」の単位互換制度とは、加盟している約45の大学・短期大学が単位互換協定を締結し、科目等履修生として相互に授業を履修できる制度です。ただし、**京都外国語短期大学の科目等履修生制度で開講する授業科目は対象になりません。**

この制度で修得した単位は、本人の申請に基づき、全学共通科目(教養科目)「大学コンソーシアム京都科目」として12単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します(ただし、グローバルスタディーズ学科は、全学共通科目(教養科目)の卒業要件単位(8単位)を超えて修得した単位数を自由選択に算入)。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」(41 ページ) を参照してください。

また、当該学期に卒業を予定している4年次生はこの単位互換制度により修得した単位の認定が卒業判定に間に合わない可能性があるため、卒業要件単位に含めないように履修登録を行ってください。

出願資格	2～4年次生
出願方法	大学コンソーシアム京都のホームページ (https://www.consortium.or.jp/) から各自で出願してください。 【出願にあたっての注意事項】 1. 開講科目には開講期間が前期・春学期、後期・秋学期、通年、集中等の科目がありますが、出願は所定の期間内(年1回)に出願してください。 2. 当該大学の開講期間や通学時間などを考慮して出願してください。 3. 科目によっては書類選考により希望する科目を履修できない場合があります。また、原則、履修許可後の辞退は認めません。履修許可を受けた科目に一度も出席しない場合は、授業を開講する大学に迷惑がかかりますので、十分に履修計画を立てて出願してください。 4. 出願は自己責任で行ってください。
開講科目	大学コンソーシアム京都のホームページを確認してください。
出願期間	所定の期間(Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。)に大学コンソーシアム京都のホームページから出願してください。
履修の可否等の連絡	4月中旬以降に科目を開講する大学より履修の可否について、出願時に登録したメールアドレス宛に連絡があります。連絡があるまでは「仮受講」として出願した科目を受講してください。
履修科目の単位認定	合格した科目については、所定の手続きを経て、学期毎に単位認定を行います。なお、単位認定の申請手続きについては、履修の可否決定後、履修許可者のみにKyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。
本学が単位互換制度に提供する授業科目	本学が提供する授業科目は、大学コンソーシアム京都のホームページを確認してください。他大学の学生も履修する場合があります。

教育支援活動

この制度は「自己の資質向上」を図ることを目的とし、本学が指定している教育支援活動（ボランティア）に登録し依頼のあった学校（小・中・高等学校）・幼稚園へ出向き活動を行うものです。

※オリエンテーションの日程は、Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。

1. 学校教育支援活動		対象年次：2～4年次生
神戸市教育委員会が行っている「学生スクールサポーター制度」、京都市教育委員会が行っている「学生ボランティア」学校サポート事業や、京都府教育委員会が行っている「学校ボランティア」で募集や依頼のあった学校（小・中・高等学校）・幼稚園へ放課後に出向き、一人ひとりの子どもに対して教科や部活動の指導補助等きめ細かな指導を行うものです。「学生ボランティア」学校サポート事業や「学校ボランティア」の内容等については各教育委員会のホームページを参照してください。		
登録資格	2～4年次生 特に教職課程を登録している学生は積極的に参加してください。	
派遣から単位認定までの流れ	希望者登録（教育支援課）→登録者はホームページで該当する活動を探す→教育支援課にて申請→該当校より連絡→活動開始→教育支援活動日誌、報告書等提出・単位認定申請→単位認定	
単位認定	本人の申請に基づき、日本語教育支援活動で修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「教育支援活動」として2単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。 単位認定の申請は、教育支援活動日誌等を提出する際に行います。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（41ページ）を参照してください。	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、教育支援活動日誌、報告書
	提出時期	Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。
	提出場所	教育支援課

2. 日本語教育支援活動		対象年次：2～4年次生
日本語能力が不十分な外国人児童・生徒等に対し日本語能力向上のサポートを行います。原則として児童・生徒が属する学校へ放課後に出向き指導を行います。		
登録資格	日本語学科2～4年次生 ただし、日本語教員養成課程を履修している人に限ります。	
派遣から単位認定までの流れ	希望者登録（教育支援課）→登録者の中から学科等で派遣学生を選考・決定またはホームページ等で該当する活動を探す→事前打合せ→指導開始→指導終了→教育支援活動日誌等提出・単位認定申請→単位認定	
単位認定	本人の申請に基づき、学校教育支援活動で修得した単位とあわせて、全学共通科目（教養科目）「教育支援活動」として2単位を上限に単位を認定し、卒業要件に算入します。 単位認定の申請は、教育支援活動日誌等を提出した際に行います。単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（41ページ）を参照してください。	
単位認定の申請	提出書類	単位認定願、教育支援活動日誌
	提出時期	Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。
	提出場所	教育支援課

資格検定試験の単位認定

在籍中に資格検定試験等を受験し、本学の定める基準に達した場合は、本学において修得した単位として認定します。

単位認定	4年次の7月に本人申請に基づき、それぞれの科目区分の中で認定し、卒業要件に算入する単位数は、各2単位を上限とします。
申請書類	証明書（スコアレポート・合格証書等）のコピーを提出してください。 単位認定全体の上限等については、「本学以外の教育施設等および本学独自のプログラム等の学修成果に対する単位認定」（41ページ）を参照してください。
申請期間	本学が指定する期間（7月） Kyoto Gaidai UNIPAの「掲示板」でお知らせします。

1 外国語技能検定試験の単位認定

専攻語の場合（外国語学部）

言語	専門科目（選択）＜言語＞（日本語学科は専門科目（選択）） 「外国語技能検定試験（専攻語）」（2単位）	
英語	TOEIC L&R (IPを除く)	850点以上
	TOEFL iBT	83点以上
	IELTS (アカデミック・モジュール)	6.0以上
	実用英語技能検定 (S-CBTを含む)	1級
スペイン語	スペイン語技能検定	3級以上
	DELE	B1以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験	2級以上
	DELTA・DALF	B1以上
	TCF	300以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験	2級以上
	Goethe-Zertifikat (ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験)	B1以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験	初級以上
	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上
中国語	HSK ※ HSK5級以上の単位認定については、6割（180点）以上	5級以上
	中国語検定試験	2級以上
	実用中国語技能検定試験	2級以上
日本語	日本漢字能力検定試験	準1級以上
イタリア語	実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT	3級以上
	CILS	UNO-B1以上
	CELI	2以上
ロシア語	TORFL 検定試験	第1レベル以上
	ロシア語能力検定試験	2級以上

専攻語以外の場合 (外国語学部、国際貢献学部)

言語	全学共通科目 (教養科目) 「外国語技能検定試験 (専攻語以外)」 (2単位)	
英語	TOEIC L&R (IP を除く)	670 点以上
	TOEFL iBT	57 点以上
	IELTS (アカデミック・モジュール)	4.5 以上
	実用英語技能検定 (S-CBT を含む)	準 1 級以上
スペイン語	スペイン語技能検定	4 級以上
	DELE	A2 以上
フランス語	実用フランス語技能検定試験	準 2 級以上
	DELF・DALF	A2 以上
	TCF	200 以上
ドイツ語	ドイツ語技能検定試験	3 級以上
	Goethe-Zertifikat (ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験)	A2 以上
ポルトガル語	外国語としてのポルトガル語検定試験	準初級以上
	外国人のためのポルトガル語検定試験	中級以上
中国語	HSK ※ HSK5 級以上の単位認定については、6 割 (180 点) 以上	4 級以上
	中国語検定試験	3 級以上
	実用中国語技能検定試験	3 級以上
日本語	—	—
イタリア語	実用イタリア語検定試験および実用イタリア語検定 IBT	4 級以上
	CILS	A2 以上
	CELI	1 以上
ロシア語	TORFL 検定試験	基礎レベル以上
	ロシア語能力検定試験	3 級以上
コリア語	韓国語能力試験	3 級以上
	ハングル能力試験	3 級以上

2 情報処理検定試験の単位認定

種類	全学共通科目 (教養科目) 「情報処理検定試験」 (2単位)
<ul style="list-style-type: none"> ・ITパスポート試験 ・基本情報技術者試験 	合格

語学検定試験受験料の助成申請方法

1 申請が可能な対象者

本学の学部にて在学する正規生で、後援会費を納入している人

2 対象となる検定試験の種類

英語	<ul style="list-style-type: none"> ● TOEIC Listening & Reading Test ● IELTS ● 国際連合公用語英語検定試験 (国連英検) ● TOEFL iBT ● 実用英語技能検定
スペイン語	<ul style="list-style-type: none"> ● スペイン語技能検定 ● DELE
フランス語	<ul style="list-style-type: none"> ● 実用フランス語技能検定試験 ● TEF ● TCF ● DELF/DALF
ドイツ語	<ul style="list-style-type: none"> ● ドイツ語技能検定試験 ● Goethe-Zertifikat A1-C2 (ゲーテ・インスティトゥートのドイツ語検定試験)
ポルトガル語	<ul style="list-style-type: none"> ● 外国語としてのポルトガル語検定試験 (CAPLE) ● 外国人のためのポルトガル語検定試験 (Celpe-Bras)
中国語	<ul style="list-style-type: none"> ● HSK ● 実用中国語技能検定試験 ● 中国語検定試験
日本語	<ul style="list-style-type: none"> ● 日本語教育能力検定試験 ● 日本漢字能力検定 ● 日本語能力試験 (JLPT)
イタリア語	<ul style="list-style-type: none"> ● 実用イタリア語検定試験 ● CILS ● CELI
ロシア語	<ul style="list-style-type: none"> ● ロシア語検定試験 (TPKI-テ・エル・カ・イ)

3 申請方法

申請期間内に Kyoto Gaidai UNIPA の「語学検定試験受験料助成金申請システム」から必要な情報を入力し、以下の内容を確認できる書類の画像をアップロードしてください。

【申請に必要な画像】

1. 氏名、受験日などが記載されている合格証・結果通知書スコア
2. 支払った金額が分かる領収書 (クレジットカードの明細可)
3. 振込先が確認できる通帳・口座詳細のオンラインページ など



詳細はこちら

4 申請期間

申請期間は、ランゲージセンターの語学検定試験受験料助成 Web ページをご覧ください。

5 申請受付担当部署

ランゲージセンター (4号館3階)
e-mail : i-lang@kufs.ac.jp

GTEC Academic (4技能) およびTOEIC L&R (IP) の団体受験

現在、日本で実施されている英語力を判定する検定試験は、英検（実用英語技能検定）をはじめとして、その種類は35種以上になります。本学では、実用的な英語コミュニケーション能力を測定する GTEC Academic (4技能) を実施しており、学部生は入学時および入学後の毎年度1月に全員が受験しなければなりません。また、英米語学科の1～4年次生全員は7月および1月に実施する TOEIC L&R (IP) を必ず受験しなければなりません。それ以外の学生についても希望者は受験することができます。試験結果は、客観的な数値として授業内容の検討や演習科目のクラス分け、専門科目(選択)の履修基準(英語)に活用しますが、自らの英語の運用能力を把握することで明確な努力目標を設定して授業や将来の進路に取り組んでください。

なお、受験日時・方法等については Kyoto Gaidai UNIPA の「掲示板」でお知らせします。

外国語学部

GTEC または TOEIC L&R (IP) のスコアにより履修者を決定する授業科目	
英米語学科	「英語圏研究の基礎」を除くすべての専門科目 (必修)
外国語科目	英語 I
	英語 II
	英語 III
	英語 IV

国際貢献学部

GTEC または TOEIC L&R (IP) のスコアにより履修者を決定する授業科目	
グローバルスタディーズ学科	Introductory Seminar A・B
	Digital Literacy
	Digital Citizenship and Engagement
	Academic Writing I・II
	Global Communication A・B
	Introduction to Economics
	Writing for Research
	Statistics
グローバル観光学科	Introductory Seminar A
	Basic English for Tourism
	Reading for Tourism
	Business Writing for Tourism
	Communication Skills for Tourism

本学大学院への進学

本学大学院への進学は、以下を参照してください。

<本学大学院への進学>

本学の大学院は、外国語学研究科異言語・文化専攻を設置し、それぞれの専攻分野の教育研究を行う、標準修業年限2年の博士前期課程（修士）、標準修業年限3年の博士後期課程（博士）があります。

英語・スペイン語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・中国語・日本語・イタリア語・ロシア語をはじめ、各言語圏の文化研究・観光研究などの領域で活躍する経験豊富な教授陣が揃っており、複数の言語にまたがる研究テーマにも取り組むことができます。

異言語・文化専攻 博士前期課程

言語文化コース（英米地域、ヨーロッパ・ユーラシア・ラテンアメリカ地域、東アジア地域、観光文化研究）
実践言語教育コース（英語教育、日本語教育）

異言語・文化専攻 博士後期課程

言語文化領域
言語教育領域

入学試験

博士前期課程の入学試験は「学内推薦（9月）」、「一般Ⅰ期（9月）」、「一般Ⅱ期（2月）」があります。出願時に関する入試制度の詳細は、大学院ホームページで確認してください。

一般Ⅱ期の入学試験については、3年次終了時に卒業要件単位数93単位以上を修得し、特に成績優秀であるとして学科長から推薦を得た学生は飛び級として出願することができます。

説明会は10月上旬に行います。（日時・場所は後日 Kyoto Gaidai UNIPA でお知らせします。）

大学院科目の科目等履修

本学の大学院進学を前提に、成績優秀な4年次生は科目等履修生制度により博士前期課程の授業科目を履修することができます。修得した単位は、本学の大学院に進学した場合、入学前の既修得単位として15単位を上限に認定します。

【問い合わせ先】
大学院事務室（5号館1階）
TEL：075-322-6603
e-mail：daigakuin@kufs.ac.jp

資格課程



I 本学の概要

II 学修する前に知っておくべきこと

III 京都外国語大学単位修得要領

外国語学部

国際貢献学部

各種プログラム・制度等

資格課程

本学が開設する資格課程

本学が開設している資格課程は、教職課程、図書館司書課程、学校図書館司書教諭課程、博物館学芸員課程です。

また、中学校または高等学校教諭一種免許状取得のために修得した単位を利用し、佛教大学の科目等履修生（別途費用が必要）として小学校教諭一種免許状を取得することができます。

■ 資格課程一覧

免許状・資格 学 科	教職課程								学校図書館司書教諭課程	図書館司書課程	博物館学芸員課程	小学校教諭免許状取得プログラム
	中学校教諭一種免許状 高等学校教諭一種免許状		高等学校教諭一種免許状									
	外国語	国語	外国語									
	英語		スペイン語	フランス語	ドイツ語	ポルトガル語	中国語	イタリア語				
英米語学科	●	△								注1	注2	注3
日本語学科	△	●										
スペイン語学科	△	△	●									
フランス語学科	△	△		●								
ドイツ語学科	△	△			●							
ブラジルポルトガル語学科	△	△				●						
中国語学科	△	△					●					
イタリア語学科	△	△						●				
ロシア語学科	△	△							●			
グローバルスタディーズ学科												
グローバル観光学科												

※ 2024年度入学者より、国際貢献学部 に図書館司書課程を 設置予定（申請中）



資格課程についての注意事項

●	英語と国語の教科については中学校教諭一種免許状（以下、「中一種」という。）と高等学校教諭一種免許状（以下、「高一種」という。）を同時に取得しますが、それ以外の教科については、高一種のみ取得が可能です。
△	専攻語以外の免許状の取得 専攻語以外の免許教科（英語または国語）の免許状を取得することができます。
注1	教職課程を登録していることが履修条件です。
注2	課程で定められた科目を履修し、必要な単位を修得すれば修了証書を交付します。
注3	小学校の免許のみを取得することはできません。必ず本学で中一種または高一種の免許状を取得する必要があります。なお、プログラムの詳細についてはオリエンテーションで説明します。

資格課程を登録している人で、派遣留学・認定留学・休学をする場合、および課程の履修を辞退する場合は、必ず事前に教育支援課へ届け出てください。

教師を目指す皆さんへ

「教育職員免許状」を取得するためには、皆さんが所属している学科の授業だけではなく、多くの教職科目を履修しなければなりません。皆さんの中には「必ず教員になるぞ」という人もいれば、「在学中に免許状が取れるのであれば取っておこう」という人もいるでしょう。どのような動機であれ、「教育職員免許状」を取得しようと決めた以上は、しっかりとした目標を持ち、真剣に履修してください。

1 教職課程の登録

(1) 課程登録

教職課程は、2年次春学期のみの登録となります。3年次・4年次から登録することはできません。希望者は教職課程オリエンテーションに必ず参加してください。

教職課程を登録するにあたっては、登録履修費として10,000円(予定)を納入する必要がありますが、課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

(2) 1年次からの履修

在学中に派遣・認定留学等を検討している人を対象に、1年次の秋学期に「教育の基礎的理解に関する科目」の一部を登録することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1年次対象の「資格課程秋学期開講科目の登録オリエンテーション」(日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」参照)に参加してください。



1年次生が登録する場合の注意事項

履修登録できる科目は以下の4科目です。ただし、1年次の春学期終了時点でGPAが2.0未満の場合は科目を登録することはできません。

教育の基礎的理解に関する科目：「教師論」「教育原理」「学校教育心理学」「特別な教育的ニーズの理解と支援」(P.125参照)

登録できる科目は、1年次に履修登録できる単位数の上限(年間48単位)を超えて登録することができます。(単位数の上限についてはP.126参照)

(3) オリエンテーションへの参加

免許状取得に必要な単位、注意事項等を、年次ごとに実施している3月の「教職課程オリエンテーション」で説明しますので、必ず参加してください。

なお、教職課程オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程の登録を認めないことがありますので、十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教育支援課まで申し出てください。

免許取得にかかわる介護等体験および教育実習等のスケジュールについて、個別に説明します。

(5) 教職課程の辞退

教職課程を登録した人が、途中で進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度、課程を辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

よくある質問

Q

留学と教職課程は両立できますか。

A

留学と教職課程の両立はできますが、留学の方法や時期により、4年間の在学期間で免許状を取得できない場合もありますので、必ず事前に教育支援課で相談してください。特に派遣留学の場合は、学内の選考試験を受ける前に相談してください。

2 教育職員免許状取得に必要な科目・単位数

教育職員免許状を取得するためには、卒業に必要な単位のほかに、以下の授業科目を履修し、単位を修得する必要があります。

免許状取得に必要な科目		本学で修得が必要な単位数		本学における授業科目	備考
		中一種	高一種		
教科及び教科の指導法に関する科目 (P.127)		28単位	24単位		注1
教育の基礎的理解に関する科目 (P.125)		11単位	11単位		注2
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 (P.125)		11単位	9単位		
教育実践に関する科目 (P.125)		7単位	5単位		
大学が独自に設定する科目 (P.132)		4単位	12単位		注3
教育職員免許法施行規則第66条の6に定める科目	日本国憲法に関する科目	2単位	2単位	教養科目 「日本国憲法」	
	体育に関する科目	2単位	2単位	教養科目 「健康科学の実践と理論」	
	外国語コミュニケーションに関する科目	4単位	4単位	外国語科目	注4
	情報機器の操作に関する科目	2単位	2単位	教養科目 「情報技術の実践(教職課程用)」	



免許状取得に必要な科目の単位修得上の注意事項

本学で修得が必要な単位数と免許法で修得が必要な単位数は異なります。中一種と高一種の免許状を同時に取得する場合（英語・国語に限る）は、上表の最低修得単位数の内、多い方の単位数を充足する必要があります。

注1	教科に関する科目は(教科の指導法に関する科目を除く)、卒業要件の単位に含みます。教育職員免許状取得のための教科に関する科目として必修となっているため、卒業までに必ず単位を修得してください。
注2	卒業要件単位には含みませんが、本学で定めた教育職員免許状取得のための必修科目となっています。また、本学における教育実習参加資格の要件でもあります。
注3	卒業要件の単位に含む科目と含まない科目があります。
注4	全学共通科目（外国語科目）の履修上の注意事項も確認してください（74 ページ）。

2-1 教育の基礎的理解に関する科目等

教育職員免許法施行規則に定める科目	本学における授業科目	配当年次	本学で修得が必要な単位数		備考	
			中一種	高一種		
教育の基礎的理解に関する科目	教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想	教育原理	1~3	2	2	★
	教職の意義及び教員の役割・職務内容(チーム学校運営への対応を含む。)	教師論	1~3	2	2	★
	幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程	学校教育心理学	1~3	2	2	★
	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒に対する理解	特別な教育的ニーズの理解と支援	1~3	1	1	★
	教育に関する社会的、制度的又は経営的事項(学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。)	教育行政学	2・3	2	2	
	教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)	教育課程論	2・3	2	2	
道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目	道徳の理論及び指導法	道徳の理論と指導	2・3	2	—	注1
	・総合的な学習の時間の指導法	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	2・3	2	2	
	・特別活動の指導法					
	教育の方法及び技術	教育の方法及び技術	2・3	2	2	
	情報通信技術を活用した教育の理論及び方法	教育とICT活用	2・3	1	1	
	・生徒指導の理論及び方法	生徒指導・進路指導論	2・3	2	2	
	・進路指導及びキャリア教育の理論及び方法					
教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法	教育相談	2・3	2	2		
教育実践に関する科目	教育実習	教育実習 1	4	2	—	注2
		教育実習 2	4	2	2	
		教育実習指導	4	1	1	注3
	教職実践演習	教職実践演習(中・高)	4	2	2	注4

※「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」は、教育実習参加資格科目です。(134ページ参照)



履修上の注意事項

【教育の基礎的理解に関する科目等の履修登録】

教育の基礎的理解に関する科目等は、履修登録できる単位数の上限（年間48単位）を超えて登録することができません。また、履修登録できる単位数の上限はありませんが、配当年次に従って履修計画をしっかりと立て、負担のないように履修してください。

【教育実習参加資格】

教育の基礎的理解に関する科目等および、各教科の指導法に関する科目は、教育実習参加資格の要件の一つです。**3年次春もしくは秋から1年間の派遣・認定留学する人**で、教育実習参加資格の授業科目をすべて履修登録できない場合は、必ず教育支援課に申し出てください。

【修得単位】

★	★印の科目を1年次生が履修する場合は、秋学期に登録してください。（1年次4月の履修登録時には登録できません。）						
注1	中一種免許状を取得する場合は、必ず履修する必要があります。						
注2	履修登録は必要ありません。教育実習終了後に、本学で単位を認定します。						
注3	<p>教育実習を行う年度に「教育実習指導」の履修登録を行います。教育実習の期間により、履修登録する学期が異なりますので、以下の期間を参考に履修登録してください。</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>教育実習期間</th> <th>履修登録する学期</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>4月1日～8月31日の期間に教育実習が完了する場合</td> <td>春学期</td> </tr> <tr> <td>9月1日以降に教育実習を行う場合</td> <td>秋学期</td> </tr> </tbody> </table> <p>※【秋学期の「教育実習指導」授業について】 14回の授業を春・秋学期に分けて行います。</p>	教育実習期間	履修登録する学期	4月1日～8月31日の期間に教育実習が完了する場合	春学期	9月1日以降に教育実習を行う場合	秋学期
教育実習期間	履修登録する学期						
4月1日～8月31日の期間に教育実習が完了する場合	春学期						
9月1日以降に教育実習を行う場合	秋学期						
注4	<p>教職課程としての総まとめの授業科目として位置づけているため、4年次の秋学期に開講します。したがって、<u>4年次の秋学期に留学（派遣・認定）する場合は、4年間の在学期間で免許状を取得することができません</u>ので、注意してください。また、「教職実践演習（中・高）」の履修には、『教職履修カルテ』の作成および提出を義務付けています。授業開始までに準備が整わない場合は、授業を履修することができませんので、注意してください。</p> <p>※「教職実践演習（中・高）」の履修登録 クラスを指定します。結果はKyoto Gaidai UNIPAの「学生時間割表」でお知らせしますので、各自確認してください。</p>						

2-2 教科及び教科の指導法に関する科目



履修上の注意事項

①	教科に関する科目は、教育実習参加資格ではありませんので、卒業までに単位を修得してください。
②	「各教科の指導法」は 教育実習参加資格科目 です。(134 ページ参照)

免許教科 外国語 (英語)

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等	本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考	
		必修			
教科に関する専門的事項	英語学	英語学・英語教育入門	2	1	専門科目・選択必修 (地域研究/言語習得領域)
		英語音声学・音韻論	2	2	専門科目・選択 (地域研究/言語習得領域)
		英語意味論・語用論	2	2	
	英語文学	英語圏文学と芸術A	2	2	専門科目・選択 (地域研究/比較文化領域)
		英語圏文学と芸術B	2	2	
	英語 コミュニケーション	オールラウンドコミュニケーションⅢ	2	2	専門科目・必修 (言語)
		オールラウンドコミュニケーションⅣ	2	2	
	異文化理解	英語圏比較文化入門	2	1	専門科目・選択必修 (地域研究/比較文化領域)
		英語圏地域概説A	2	2	専門科目・選択 (地域研究/比較文化領域)
		英語圏地域概説B	2	2	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	英語教育法A	2	2	
		英語教育法B	2	2	
		英語教育法C	2	3	
英語教育法D		2	3		
必要単位数		28			

※中一種・高一種免許状を同時に取得します。どちらか一方の取得はできません。

免許教科 国語

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等	本学における授業科目	単位数	配当	備考	
		必修	年次		
教科に関する専門的事項	国語学 (音声言語学および文章表現に関するものを含む)	日本語学の基礎知識A	2	1	専門科目・必修
		日本語学の基礎知識B	2	1	
		日本語音声学概論	2	1	専門科目・選択(日本語教育領域)
		日本語表記法	2	2	
	国文学 (国文学史を含む)	日本近代文学A	2	2	専門科目・必修
		日本近代文学B	2	2	
		日本文学史A	2	2	専門科目・選択(日本文化領域)
		日本文学史B	2	2	
	漢文学	漢文学A	2	1	専門科目・選択(日本文化領域)
		漢文学B	2	1	
	書道 (書写を中心とする)	書道A	2	1	専門科目・選択(日本文化領域) (中一種のみ)
		書道B	2	2	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	国語教育法A	2	2		
	国語教育法B	2	2		
	国語教育法C	2	3		
	国語教育法D	2	3		
必要単位数		32			

※中一種・高一種免許状を同時に取得します。どちらか一方の取得はできません。

◎免許教科(国語)で教育実習を行う場合

- ・教科に関する科目の一般的包括的科目(必修科目)を3年次終了までにすべて履修済みであること

免許教科 外国語(スペイン語)

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等	本学における授業科目	単位数	配当	備考	
		必修	年次		
教科に関する専門的事項	スペイン語学	スペイン語文法Ⅱ	4	2	専門科目・必修(言語)
		スペイン語学入門	2	2	専門科目・選択(言語)
	スペイン語文学	スペイン語圏文学入門	2	2	専門科目・選択(地域研究)
	スペイン語 コミュニケーション	コミュニケーション・スペイン語A	4	3	専門科目・必修(言語)
		コミュニケーション・スペイン語B	4	3	
	異文化理解	スペイン語圏の基礎知識A	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		スペイン語圏の基礎知識B	2	1	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用を含む。)	スペイン語教育法A	2	3	
		スペイン語教育法B	2	3	
	必要単位数		24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（フランス語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等	本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考	
		必修			
教科に関する専門的事項	フランス語学	フランス語文法Ⅱ	4	2	専門科目・必修(言語)
		フランス語学の基礎知識	2	2	専門科目・必修(地域研究)
	フランス語文学	フランス文学の基礎知識	2	2	専門科目・必修(地域研究)
	フランス語 コミュニケーション	フランス語スピーキング・ライティングA	4	3	専門科目・必修(言語)
		フランス語スピーキング・ライティングB	4	3	
	異文化理解	フランスの基礎知識A	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		フランスの基礎知識B	2	1	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	フランス語教育法A	2	3	
		フランス語教育法B	2	3	
	必要単位数		24		

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（ドイツ語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等	本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考	
		必修			
教科に関する専門的事項	ドイツ語学	ドイツ語文法Ⅱ	4	2	専門科目・必修(言語)
		ドイツ語学概論	2	2	専門科目・選択(地域研究)
	ドイツ語文学	ドイツ語圏の文学	2	1	専門科目・選択(地域研究)
	ドイツ語 コミュニケーション	ドイツ語コミュニケーションA	2	3	専門科目・必修(言語)
		ドイツ語コミュニケーションB	2	3	
		ドイツ語ライティングA	2	3	
		ドイツ語ライティングB	2	3	
	異文化理解	世界の中の日本とドイツ語圏	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		ドイツ語圏の基礎知識	2	1	
	各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	ドイツ語教育法A	2	3	
ドイツ語教育法B		2	3		
必要単位数		24			

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（ポルトガル語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等	本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考	
		必修			
教科に関する専門的事項	ポルトガル語学	ポルトガル語圏語学の基礎	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		ポルトガル語圏語学入門A	2	2	専門科目・選択(地域研究)
		ポルトガル語圏語学入門B	2	2	
	ポルトガル語文学	ポルトガル語圏文学の基礎	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		ポルトガル語圏文学入門A	2	2	専門科目・選択(地域研究)
		ポルトガル語圏文学入門B	2	2	
	ポルトガル語 コミュニケーション	上級ポルトガル語コミュニケーションA	2	3	専門科目・必修(言語)
		上級ポルトガル語コミュニケーションB	2	3	
	異文化理解	ポルトガル語圏文化の基礎	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		ポルトガル語圏社会の基礎	2	1	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	ポルトガル語教育法A	2	3		
	ポルトガル語教育法B	2	3		
必要単位数		24			

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語（中国語）

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等	本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考	
		必修			
教科に関する専門的事項	中国語学	中国語学概論A	2	2	専門科目・選択(地域研究)
		中国語学概論B	2	2	
	中国語文学	中国文学への招待	2	2	専門科目・選択(地域研究)
	中国語 コミュニケーション	中国語リサーチプレゼンA	2	3	専門科目・必修(言語)
		中国語リサーチプレゼンB	2	3	
		中国語リサーチプレゼンC	2	3	
		中国語リサーチプレゼンD	2	3	
	異文化理解	世界の中の日本と中国A	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		世界の中の日本と中国B	2	1	
		中国の伝統と歴史	2	2	専門科目・選択(地域研究)
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	中国語教育法A	2	3		
	中国語教育法B	2	3		
必要単位数		24			

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語 (イタリア語)

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等	本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考	
		必修			
教科に関する専門的事項	イタリア語学	イタリア語中級文法	4	2	専門科目・必修(言語)
	イタリア語文学	イタリア文学概論	2	3	専門科目・選択(地域研究)
	イタリア語 コミュニケーション	イタリア語コミュニケーションA	4	3	専門科目・必修(言語)
		イタリア語コミュニケーションB	4	3	
	異文化理解	イタリア語圏の基礎知識	2	1	専門科目・必修(地域研究)
		日伊比較文化	2	1	
		イタリア地域比較概論	2	2	
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	イタリア語教育法A	2	3		
	イタリア語教育法B	2	3		
必要単位数		24			

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

免許教科 外国語 (ロシア語)

教科に関する科目の必修科目は、一般的包括的内容を含む科目です。

施行規則に定める 科目区分等	本学における授業科目	単位数	配当 年次	備考	
		必修			
教科に関する専門的事項	ロシア語学	ロシア語学概論A	2	2	専門科目・選択(言語)
		ロシア語学概論B	2	2	
	ロシア語文学	ロシア語圏の文学と芸術A	2	2	専門科目・選択(地域研究)
		ロシア語圏の文学と芸術B	2	3	
	ロシア語 コミュニケーション	ロシア語コミュニケーションA	4	3	専門科目・必修(言語)
		ロシア語コミュニケーションB	4	3	
	異文化理解	ロシア語圏の基礎知識A	2	1	専門科目・必修(地域研究)
ロシア語圏の基礎知識B		2	1		
各教科の指導法 (情報通信技術の活用 を含む。)	ロシア語教育法A	2	3		
	ロシア語教育法B	2	3		
必要単位数		24			

※高一種免許状を取得します。

※英語で教育実習を行う場合、英語教育法A・Bは必ず単位を修得してください。英語教育法C・Dは可能な限り単位を修得してください。

2-3 大学が独自に設定する科目 (P.124参照)

教職課程

本学における授業科目	単位	配当年次	備考
道徳の理論と指導 ※1	2	2・3	卒業要件に含まない 教職課程科目
人権と教育 ※2	2	1	卒業要件科目 全学共通科目 (教養科目)
多文化理解と人権 ※2	2	1	
教育の課題	2	2	
コミュニケーションの心理	2	2	
臨床心理学	2	2	
青少年の行動と心理	2	1	
グローバル化とジェンダー	2	2	
コーチングの理論	2	2	卒業要件に含まない 学校図書館司書教諭課程科目
読書と豊かな人間性	2	3	
必要単位数 「中一種」：4 単位、「高一種」：12 単位			



履修上の注意事項

注1	「道徳の理論と指導」は、「中一種」免許状を取得する場合、必ず履修する必要があります。ただし、125ページの「道徳の理論と指導」と同一の授業科目のため、重複して履修する必要はありません。
注2	「人権と教育」「多文化理解と人権」は、履修することが望ましい授業科目です。いずれも教養科目の授業科目で、卒業要件に含めて履修することができます。
注3	学校図書館司書教諭の専門科目で、卒業要件の単位には含みません。

よくある質問

Q

免許状を取得する場合、1年次生から履修すべき科目はありますか。

A

大学が独自に設定する科目の中で、1年次生が履修できる「人権と教育」「多文化理解と人権」「健康科学の実践と理論」は、免許状を取得するために必要な科目です。

3 介護等体験

※中一種免(英語・国語)の取得を希望する人は、「介護等体験」が義務づけられています。

介護等体験は、教育職員を志す人が、障害者や高齢者等に対する介護や介助、交流等の体験を通じて「個人の尊厳と社会連帯の理念」を深めることを目指すとともに、教育を担う人に求められる幅広い社会観・人生観がもてるよう、人間的に成長できるきっかけを得るために行うものです。

介護等体験は、以下の実習要領に基づいて行います。

介護等体験実習要領	
①	本学における授業科目「特別な教育的ニーズの理解と支援」(P.125 参照)の単位を修得後に体験を行います。
②	原則として、3年次に行います。 教職課程を辞退した場合でも、それまでに介護等体験の申込みをした人は体験を辞退できませんので、十分注意してください。
③	体験期間は7日間(特別支援学校2日間、社会福祉施設等5日間)とします。 体験先や時期は、都道府県により希望できる場合とできない場合があります。申込み後は、決定通知で体験日時を確認し、スケジュール管理には十分注意してください。
④	体験は本学より一括して、各都道府県教育委員会(特別支援学校)および各都道府県社会福祉協議会(社会福祉施設)に受け入れを依頼します。 <体験までの流れ> 1. 春学期または秋学期に、「特別な教育的ニーズの理解と支援」を履修し、単位を修得する。 2. 春学期または秋学期に開催する「介護等体験に関するオリエンテーション」に参加する。 3. 6月または10月中旬から開催する都道府県別の「介護等体験申込みオリエンテーション」に参加する。 <日程の告知は、Gmailで行います。> 4. 3年次の5月下旬から体験を行う。 詳細は「教職課程履修ハンドブック」を参照してください。
⑤	体験後、体験校・施設において「介護等の体験に関する証明書」が発行されますので、卒業年次の免許状申請時まで大切に保管してください。

介護等体験先の連絡について

Gmailで連絡します。

体験場所・体験日・体験先への持ち物など重要なお知らせは、個別にGmailで連絡しますので、転送設定をするなどして、必ずメールをチェックしてください。

介護等体験と留学について

留学(派遣・認定・休学)を検討している人は、体験先・体験時期の変更が可能です。準備の段階から教育支援課に相談してください。

4 教育実習

教育実習は、教育職員を志す人が、学校教育の現場をあらかじめ体験研究する唯一の機会といえます。大学で学んだ知識や理論を生かして、実践的な知識・技能・姿勢等、教師という職務の重大さ、社会における使命感を十分に自覚して実習に臨んでください。

教育実習は以下の要領に基づいて行います。また、本学では実習に参加するためには、3年次の秋学期終了までに教育実習参加資格を満たす必要があります。

①	原則として、 4年次 に実習を行います。
②	教科は日本語学科が「国語」、それ以外の学科は原則として「英語」で実習を行います。＊英語または国語以外の言語（専攻語）で実習を予定している学生は、必ず事前に教務部に申し出てください。
③	実習期間は原則3週間以上とします。「高一種」のみの場合は2週間以上。
④	実習校については、原則として自己開拓による母校実習を基本としています。実習を行う前年度に、出身中学校または出身高等学校に交渉して各自で実習の内諾を得てください。手続きについては、3年次の4月下旬に開催する「教育実習内諾オリエンテーション」で説明します。 ただし、一部の地域では当該教育委員会が実習校を配当校制により決定しますので、各自で実習の内諾を得ることはできません。 配当校制度の詳細は、教職課程履修ハンドブック、または教育支援課で確認してください。

教育実習参加資格

教育実習を行うためには、以下の①、②両方の条件を満たすことが必要です。

① 教育の基礎的理解に関する科目等（各教科の指導法を含む）（P.125 参照）

以下の授業科目の単位を3年次の秋学期終了時までに修得してください。

- 「教育の基礎的理解に関する科目」「道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目」
- 免許教科（英語）の人は「英語教育法1～4」
免許教科（国語）の人は「国語教育法1～4」
免許教科（英語・国語）以外の人は、専攻語の「〇〇語教育法1・2」
ただし、免許教科（英語・国語）以外の人が、英語で教育実習を行う場合は、専攻語の〇〇語教育法の他、英語教育法の単位を修得してください。

注：派遣・認定留学等にともない教育実習を行う前年度末までに、教育実習参加資格の単位が修得できない場合は、事前に教育支援課に申し出てください。

② 教育実習を行う場合の語学力の基準

教育実習を行う場合の語学力の基準を3年次終了時（3月31日）までに取得してください。語学力の基準は、専門科目（選択）のアドバンストの履修基準と同じです。（P.83 参照）
なお、UNIPA に表示している以外のスコアを取得している場合は、3年次終了までに取得したスコアの証明書を教育支援課に提出してください。

取得する免許教科で教育実習を行う場合

免許教科のアドバンストの履修基準を3年次終了時までに取得してください。
なお、**免許教科が国語の人は**、教科に関する専門的事項の授業科目（必修）の単位（P.128 参照）を3年次終了時までに修得してください。

専攻語で教育実習を行わない場合（英語で教育実習を行う場合）

スペイン語・フランス語・ドイツ語・ポルトガル語・中国語・イタリア語・ロシア語学科の人が英語で教育実習を行う場合は、所属する学科が指定する専門科目（選択）のアドバンストの履修基準、および英語の専門科目（選択）のアドバンストの履修基準の両方取得してください（P.83 参照）。

※教育実習参加資格を満たせなかった場合

参加資格を満たせなかった場合は、実習校に対して教育実習辞退の手続きが必要です。教育実習辞退と同時に教職課程辞退の手続きを行いますので、必ず教育支援課へ連絡してください。

5 専攻語以外の免許状取得

専攻語以外の免許教科（英語または国語）の免許状を取得することができます。

英米語学科以外の人英語の免許状を、日本語学科以外の人国語の免許状を取得するためには、下表の条件を満たす必要があります。

申請および詳細の説明は、「専攻語以外の教員免許状取得オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」参照）で行いますので必ず参加してください。

なお、時間割、履修登録、留学等の状況により、免許状が取得できない場合があります。

※教職課程の登録は、2年次春学期のみです（P.123 参照）。

対象：英米語学科以外の人

外国語（英語）の免許状を取得する場合	
2年次から履修する場合 1年次終了までに以下の基準を満たすことが必要です。	
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験予定の人。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次配当の専門科目（必修）の単位をすべて修得済みであること。 ・ 1年次配当の全学共通科目（外国語科目）の単位をすべて修得済みであること。 （1年次配当の全学共通科目（外国語科目）は、英語の単位を修得することが望ましい。） ・ 専門科目（選択）4単位以上を修得済みであること。
③	3年次終了までに134ページ記載の免許教科（英語）の教育実習参加資格を満たすこと。

対象：日本語学科以外の人

国語の免許状を取得する場合	
2年次から履修する場合 1年次終了までに以下の基準を満たすことが必要です。	
①	教職につくことを強く希望し、教員採用試験を受験する予定の人。
②	<ul style="list-style-type: none"> ・ 1年次配当の専門科目（必修）の単位をすべて修得済みであること。 ・ 1年次配当の全学共通科目（外国語科目）の単位をすべて修得済みであること。 ・ 専門科目（選択）4単位以上を修得済みであること。
③	3年次終了までに134ページ記載の免許教科（国語）の教育実習参加資格を満たすこと。

6 教育職員免許状申請の手続き

免許状は、都道府県の教育委員会が授与します。授与された免許状は、すべての都道府県において効力を有します。

(1) 卒業時に免許状の取得を希望する場合

4年次生は「介護等体験証明書の提出オリエンテーション」と「教育職員免許状申請オリエンテーション」(日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」参照)に参加し、必要な書類を提出してください。本学が一括して京都府教育委員会に免許状の申請を行い、学位記授与式当日に免許状を授与します。なお、所定期間に書類を提出できない場合は、その旨を教育支援課に連絡してください。

(2) 個人申請

「教育職員免許状申請オリエンテーション」を無断で欠席した場合や書類の提出を怠った場合は、卒業後に個人で申請することになります。申請手続きについては、各都道府県で申請様式が異なり、かつ申請から交付まで相当の日数がかかります。詳しくは、直接当該の教育委員会へ問い合わせてください。

7 教職課程履修についての注意事項

教職課程を履修するうえで重要なのは、4年間の履修計画です。

1年次の秋学期から教職課程の一部の科目を履修することができますが、2年次・3年次と複数年計画で実習参加資格の科目を履修するようにしてください。科目を履修するということは、課題の提出・試験等もほぼ同じ時期に重なりますので、紙の上では可能なことも、実際授業を受けてみるとかなりハードな場合がほとんどです。時間割に余裕を持たせましょう。

また、教育職員を目指すうえで必要な教育支援活動(教育現場でのボランティア活動)などの時間も必要となってくるので、時間を調整して活動してください。

小学校教諭免許状取得支援プログラム <外国語学部生対象>

このプログラムの目的は、キャリア支援の一環として、在学中に小学校教諭免許の取得に必要な科目の単位修得を支援することにあります。

このプログラムは、佛教大学通信教育課程が提供する小学校教諭一種免許状の取得に必要な科目を科目等履修生として履修することで、本学卒業後に小学校教諭一種免許状を取得することができます。ただし、本学の教職課程で中学校または高等学校教諭一種免許状を取得し、小学校教諭免許状取得に必要な単位を修得する必要があります。

1 出願資格

募集人員は 20名 面接および GPA 評価により選考します。

出願時に次の 1～4 のすべてに該当する1年次生

1	教職課程を登録している人または、登録予定の人
2	通算のGPAが、2.0以上の人
3	教職に就くことを強く希望し、教員採用試験の受験を誓約できる人
4	在学中に1年間の留学(派遣・認定)をしない人

このプログラムに参加する人は、年度ごとに教育支援課による履修指導を受ける必要があります。

2 受講料等

	佛教大学
取得できる免許状	一種免許状
修得単位数	47 単位
履修費(予定) (スクーリング参加のための 交通費・宿泊費は除く)	約 500,000 円(※) (別途テキスト代約 40,000 円)
スクーリング科目	4 科目
スクーリング会場	佛教大学
修了試験会場	佛教大学 その他全国で開催
所在地	〒603-8301 京都市北区紫野北花ノ坊町 96

(※) 一旦納入した受講料などは返金できませんので、注意してください。

3 オリエンテーションの開催

小学校教諭免許状取得プログラムオリエンテーション(日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」参照)で、プログラムの内容および出願方法について詳しく説明します。

※介護等体験の申込手続きは本学で行います。

4 教員免許状の申請

小学校教諭免許状については、本学卒業後、出身の都道府県教育委員会へ個人申請することにより免許状が授与されます。なお、申請方法については、4年次に行う「小学校教諭免許状申請オリエンテーション」(日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」参照)で説明します。

学校図書館司書教諭課程

<外国語学部生対象>

小学校・中学校・高等学校の図書館で専門的職務を行うのが「学校図書館司書教諭」です。司書教諭は、教諭をもって充て、さらに司書教諭の講習を修了した人でなければなりません。本学で、司書教諭の資格を取得するために開設しているのが、学校図書館司書教諭課程です。

1 学校図書館司書教諭課程の登録

(1) 課程登録

学校図書館司書教諭課程は、2年次春学期または3年次春学期の登録となります。

(2) オリエンテーションへの参加

年次ごとに実施している3月の「学校図書館司書教諭課程オリエンテーション」に必ず参加してください。

学校図書館司書教諭課程オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程の登録を認めないことがありますので、十分注意してください。

(3) 派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教育支援課まで申し出てください。

(4) 学校図書館司書教諭課程の辞退

学校図書館司書教諭課程を進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 学校図書館司書教諭課程の科目

下表の本学における授業科目を全て履修し、10単位を修得してください。

	学校図書館司書教諭講習規程に定める科目	単位	本学における授業科目	単位	配当年次
必修科目	学校経営と学校図書館	2	学校経営と学校図書館	2	3
	学校図書館メディアの構成	2	学校図書館メディアの構成	2	2
	学習指導と学校図書館	2	学習指導と学校図書館	2	3
	読書と豊かな人間性	2	読書と豊かな人間性	2	3
	情報メディアの活用	2	情報メディアの活用	2	2
	合計	10	合計	10	



登録上の注意事項

学校図書館司書教諭課程の必修科目は、2～4年次に登録できる単位数の上限（年間48単位）を超えて履修登録することができます。

3 修了証書の交付

教育職員免許状を授与された学生が、「学校図書館司書教諭課程」で定められた科目の単位を修得し、4年次に学校図書館司書教諭講習修了証申請オリエンテーションで所定の申請を行った場合、学校図書館法に基づき文部科学省から卒業の約1年後に学校図書館司書教諭講習修了証書が交付されます。

公立または私立図書館で職員として専門業務を行うためには、図書館法で定める「司書」の資格が必要です。本学で司書の資格を取得するために開講しているのが、図書館司書課程です。

1 図書館司書課程の登録

(1) 課程登録

司書課程は、2年次春学期または3年次春学期の登録となります。

(2) 1年次からの履修

1年次の秋学期に一部の図書館司書課程の科目を登録することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1年次対象の「資格課程秋学期開講科目の登録オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」参照）に参加してください。



1年次生が登録する場合の注意事項

履修登録できる授業科目は「生涯学習概論」「図書館情報技術論」の2科目ですが、1年次の春学期終了時点で通算のGPAが2.0未満の場合は、図書館司書課程の必修科目「図書館情報技術論」を、登録することはできません。

(3) オリエンテーションへの参加

年次ごとに実施している3月の「図書館司書課程オリエンテーション」に必ず参加してください。

図書館司書課程オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程登録を認めないことがありますので十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学する場合は、必ず事前に教育支援課まで申し出てください。

(5) 図書館司書課程の辞退

図書館司書課程を登録した人が、途中で進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 図書館司書課程の科目

下表の本学における授業科目の必修科目を 22 単位、選択科目から 2 科目以上を選択して 4 単位以上、あわせて 26 単位以上を修得してください。

外国語学部・国際貢献学部共通

	図書館法施行規則に定める科目	単位	本学における授業科目	単位	配当年次	備考
甲群 (必修科目)	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1	全学共通科目(教養科目)
	図書館概論	2	図書館概論	2	2	
	図書館制度・経営論	2	図書館制度・経営論	2	2	
	図書館情報技術論	2	図書館情報技術論	2	1	
	図書館サービス概論	2	図書館サービス概論	2	2	
	情報サービス論	2	情報サービス論	2	2	
	児童サービス論	2	児童サービス論	2	3	
	情報サービス演習	2	情報サービス演習	2	2	※ 1
	図書館情報資源概論	2	図書館情報資源概論	2	2	
	情報資源組織論	2	情報資源組織論	2	3	
	情報資源組織演習	2	情報資源組織演習	2	3	※ 2
乙群 (選択科目)	図書館基礎特論	1	図書館基礎特論	2	2	
	図書館サービス特論	1	図書館サービス特論	2	3	
	図書館施設論	1	図書館施設論	2	2	
	図書・図書館史	1	図書・図書館史	2	3	
	合計	24	必要単位数	26		

※国際貢献学部は、2024 年度入学者より履修可能。



履修上の注意事項

図書館司書課程の必修科目の「生涯学習概論」以外は、1 年間に登録できる単位数の上限 48 単位を超えて履修登録することができます。

2・3 年次で必修科目と重複した場合は、必修科目を履修してください。

※ 1 「情報サービス論」を履修していること。

※ 2 「情報資源組織論」を履修していること。

3 図書館司書課程修了証書の交付

図書館司書課程で定められた科目の単位を修得すれば、学位記授与式当日に「図書館司書課程修了証書」を交付します。

博物館学芸員課程

<学部生対象>

公立または私立の博物館に専門的職員として従事するためには、博物館法により「学芸員」の資格を取得しなければなりません。本学で学芸員の資格を取得するために開講しているのが、博物館学芸員課程です。

1 博物館学芸員課程の登録

(1) 課程登録

博物館学芸員課程は、2年次春学期または3年次春学期の登録となります。

博物館学芸員課程を登録するにあたって、課程登録を行った年次に登録履修費として10,000円(予定)を納入する必要がありますが、登録履修費は課程を途中で辞退しても返金できませんので、注意してください。

(2) 1年次からの履修

1年次の秋学期に一部の博物館学芸員課程科目を登録することができます。希望する場合は、下記の注意事項を参照し、1年次対象の「資格課程秋学期開講科目の登録オリエンテーション」(日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」参照)に参加してください。



1年次生が登録する場合の注意事項

履修登録できる科目は「生涯学習概論」「博物館概論」の2科目ですが、1年次の春学期終了時点で、GPAが2.0未満の場合は、博物館学芸員課程の必修科目「博物館概論」を、登録することはできません。

(3) オリエンテーションへの参加

年次ごとに実施している3月の「博物館学芸員課程オリエンテーション」に必ず参加してください。

オリエンテーションを無断で欠席した場合は、課程登録を認めないことがありますので十分注意してください。

(4) 留学・休学する場合

派遣留学・認定留学・休学をする場合は、必ず事前に教育支援課まで申し出てください。

(5) 博物館学芸員課程の辞退

博物館学芸員課程を進路変更などにより辞退する場合は、必ず教育支援課へ「辞退届」を提出してください。

※一度辞退すると、在学中に再度登録することはできません。

2 博物館学芸員課程の科目

下表の本学における授業科目から**必修科目 20 単位**、**選択科目 8 単位**を修得してください。

外国語学部・国際貢献学部共通

	博物館法施行規則に定める科目	単位	本学における授業科目	単位	配当年次	備考	
必修科目	生涯学習概論	2	生涯学習概論	2	1	全学共通科目(教養科目)	
	博物館概論	2	博物館概論	2	1		
	博物館経営論	2	博物館経営論	2	3		
	博物館資料論	2	博物館資料論	2	2		
	博物館資料保存論	2	博物館資料保存論	2	3		
	博物館展示論	2	博物館展示論	2	2		
	博物館教育論	2	博物館教育論	2	2		
	博物館情報・メディア論	2	博物館情報・メディア論	2	3		
	博物館実習		3	博物館実習Ⅰ	2	2	
				博物館実習Ⅱ	1	3	
博物館実習Ⅲ				1	3		
	合計	19	必要単位数(必修科目)	20			
選択科目			京都文化論A	2	1	全学共通科目(教養科目)	
			京都文化論B	2	1		
			京都の伝統文化A	2	2		
			京都の伝統文化B	2	2		
			考古学	2	2		
			人類学	2	2		
			ミュージアムマネジメント(PBL)	2	2		
			美術史	2	2		
			必要単位数(選択科目)	8			
		必要単位数合計	28				



履修上の注意事項

博物館学芸員課程の必修科目の「生涯学習概論」以外は、1年間に登録できる単位数の上限 48 単位を超えて履修登録することができます。

2・3 年次で必修科目と重複した場合は、必修科目を履修してください。

3 博物館実習

博物館実習は、受入れ側の博物館等と本学との綿密な計画のもとに実施しますので、所定の手続きや指導事項および書類の提出期限を厳守してください。また、本学では実習に参加するために、実習時期に応じて実習参加資格を満たす必要があります。

詳細は「博物館実習オリエンテーション」（日時・場所は毎年度本学ホームページに掲載する「履修登録の手引き」参照）で説明します。

博物館実習参加資格		
実習期間	参加資格を満たす時期	参加資格
春学期（4月1日～8月31日）	前年度終了時まで	「博物館概論」「博物館資料論」「博物館教育論」「博物館展示論」「博物館実習Ⅰ」の単位を修得済みで、選択科目の4科目8単位以上を修得済みであること。
秋学期（9月1日～翌年3月31日）	当該年度の春学期終了時まで	

4 実習館の選択

実習館は下表の「A本学指定の実習館」「B出身地等に所在する博物館等（個人交渉）」のいずれかを選択しなければなりません。

なお、「A本学指定の実習館」では、受入れ人数に制限がありますので、実習を希望する人が多い場合は、選考を行うことがあります。

【注】 A・Bいずれの場合も内諾を得た後に、博物館実習を辞退することはできません。

A 本学指定の実習館			
都道府県	実習館		住所
京都府	京都府立山城郷土資料館	〒 619-0204	相楽郡山城町上狛千両岩
	霊山歴史館	〒 605-0861	京都市東山区清閑寺霊山町 1
	京都市考古資料館	〒 602-8435	京都市上京区今出川通大宮東入元伊佐町 265-1
	京都清宗根付館	〒 604-8811	京都市中京区壬生賀陽御所町 46-1
滋賀県	滋賀県立陶芸の森陶芸館	〒 529-1804	甲賀市信楽町勅旨 2188-7
兵庫県	神戸市立博物館 〔神戸市出身の学生に限る〕	〒 650-0034	神戸市中央区京町 24
	芦屋市立美術博物館	〒 659-0052	芦屋市伊勢町 12-25
大阪府	堺市博物館〔堺市在住の学生に限る〕	〒 590-0802	堺市百舌鳥夕雲町 2 丁目
静岡県	伊豆シャボテン動物公園	〒 413-0231	伊東市富戸 1090
長野県	小さな絵本美術館	〒 394-0081	岡谷市長地権現 4-6-13

B 出身地等に所在する博物館等

学生が出身地等に所在する博物館等に直接交渉して実習することができますが、その場合は、実習を行う前年度に内諾交渉を行う必要があります。ただし、内諾交渉や実習のために定期試験を欠席した場合は、追試験を認めませんので、十分注意してください。

海外での実習

実習先はコスタリカ中央銀行博物館またはヒスイ博物館となります。実習参加には言語等の条件などがありますので、詳細は教育支援課で確認してください。

5 博物館実習の評価

博物館実習の評価は、実習館から報告される「博物館実習成績報告票」の評価と「博物館実習Ⅲ」の成績に基づき総合的に評価します。実習を行う年度に留学する場合は、事前に教育支援課で相談のうえ、履修登録してください。

春学期（4月10日から7月31日）に実習を行った場合は、「博物館実習Ⅱ」の成績も評価の対象となります。

6 国際文化資料館の利用

国際文化資料館（10号館4F）は、通常の博物館業務とともに博物館学芸員課程における生きた実習の場として日常的に活用してください。

7 博物館学芸員課程修了証書の交付

博物館学芸員課程で定められた科目の単位を修得すれば、学位記授与式当日に「博物館学芸員課程修了証書」を交付します。

日本語教員養成課程

<日本語学科生対象>

この課程は、日本語教育機関認定法における「登録日本語教員」(国家資格)の取得をめざす課程です。この課程を修了することで、「登録日本語教員」の取得要件の一部が免除されることとなります(予定)。課程の詳細が決まり次第、UNIPA等でお知らせします。



〈日本語学科以外の外国語学部の学科生の履修について〉

当面の間、日本語学科生のみを対象にした課程として運用します。今後、国家資格「登録日本語教員」取得に係る運用が確立された段階で、日本語学科以外の外国語学部生に対する当課程の実施について検討する予定です。

〔日本語教員養成推進室〕

日本語教員養成推進室(6号館1階)には、日本語教員養成課程を履修する人のために、アドバイザーを配置し、書籍や教材・素材などを用意しています。主に、次のような学生への支援・アドバイスをを行います。

- 1) 日本語教育全般に関するアドバイス
- 2) 日本語教育関連の授業活動支援(模擬授業準備・教材作成など)
- 3) 学内外での日本語教育ボランティア活動支援
- 4) 国内外の日本語教育教育実習プログラムへの支援
- 5) 各種行事の開催(学習会、日本文化紹介のための研修会など)
- 6) グループ学習・活動のための環境提供(日本語教育関連図書、PC、プリンターなど設置)

日本語教員養成推進室は同志の集いの場であり、相互に学び合う場でもあります。日本語教育分野専門科目での学びとともに、様々な文化的背景を持つ学習者対象のボランティア活動や実習など実践的な経験で得られた知見をもとに、多文化共生時代に対応できる日本語教師を目指すみなさんを支援します。